

Apresia13100/13200/15000 シリーズ
AEOS Ver. 8 アプリケーションノート
(MLAG 編)

APRESIA Systems 株式会社

制定・改訂来歴表

No.	年月日	制定・改訂米歴表 内容
		● 新規作成
Α	2012年6月8日	● 適用機種一覧表を修正
^	2012 4 0 7 0 1	● 表 2-2 MLAG 仕様を修正
		◆ 表 9-1 併用可能機能
		● 2.4 ブリッジポート節を修正
		● 9.2 運用上の注意事項節を修正
В	2012年10月1日	• 適用機種一覧表を修正
		・ 既存の全ての図、表を対象に体裁を変更
		● 図 5-1 MLAG インターフェースでの FDB 学習(UC)を修正
		• 図 5-2 MLAG インターフェースでの FDB 学習(BC/MC/DLF)を修正
		● 図 5-3 MLAG インターフェース(片 MLAG)での FDB 学習(BC/MC/DLF)を追加
		• 図 5-4 物理ポートでの FDB 学習(UC)を修正
		• 図 6-2 宛先が MLAG インターフェース(BC/MC/DLF)を修正
		• 図 6-3 宛先端末が MLAG インターフェース以外を修正
		● 図 7-1 MLAG 構成例を追加
		• 図 7-2 片 MLAG 適用例を追加
		• 図 7-3 片 MLAG が確立している場合を追加
		• 図 7-4 片 MLAG が確立していない場合を追加
		• 図 7-5 正常状態(装置ステータス:Normal)を追加
		• 図 7-6 ブリッジポート障害(装置ステータス:Abnormal)を追加
		• 図 7-7 first 装置障害を追加
		● 図 9-2 片 MLAG 構成図を追加
		• 図 9-3 LACP 併用構成図を追加
		● 表 2-1 MLAG 用語を修正
		• 表 3-1 装置ステータスを修正
		<ul><li>表 5-1 フレーム種別を追加</li></ul>
		<ul><li>表 5-2 FDB 学習ポートを修正</li></ul>
		• 表 7-1 装置優先度(system-priority)を追加
		• 表 7-2 システム ID(sys-id)を追加
		<ul><li>表 7-3 アクティブポート選定の優先度を追加</li><li>表 7-4 LACPDU に含まれるポート番号を追加</li></ul>
		- 表 7-4 LAOPDU に含まれるホート留号を追加 - 表 8-1 MLAG 設定コマンド一覧を修正
		* 表 0-1 MLAG 設定コマンド
		● 表 9-2 設定項目(片 MLAG 構成)を追加
		● 表 9-3 設定項目(LACP併用構成)を追加
		● 表 10-1 各バージョンでの機能追加、変更点を追加
		● 表 11-1 併用可能機能を修正
		● 2.1 MLAG 構成に注意事項を追加
		● 2.3 MLAG 仕様に注意事項を追加
		● 5.1 FDB 学習ポートを修正
		• 5.1.1 MLAG インターフェースを修正
		• 5.1.2 MLAG インターフェース(片 MLAG)を追加
		• 5.1.3 物理ポートを修正

1/126

- 6.1.1 宛先端末が MLAG インターフェースに接続を修正
- 6.1.2 宛先端末が MLAG インターフェース以外に接続を修正
- 6.2 MLAG インターフェース障害時を修正
- 6.3 MLAG インターフェース復旧時を修正
- 6.4.2 宛先が MLAG 装置に直接接続を修正
- 7. MLAG 適用例章を追加
- 7.1 片 MLAG を追加
- 7.1.1 片 MLAG が確立している場合(対向装置に MLAG インターフェース作成時)を追加
- 7.1.2 片 MLAG が確立していない場合(対向装置に MLAG インターフェース 未作成時)を追加
- 7.2 LACP 併用を追加
- 7.2.1 装置優先度(system-priority)を追加
- 7.2.2 システム ID(sys-id)を追加
- 7.2.3 ポート優先度(port-priority)を追加
- 7.2.4 正常状態を追加
- 7.2.5 ブリッジポート障害時を追加
- 7.2.6 装置障害時の注意事項を追加
- 8.1.2 ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティの設定の注意事項を 修正
- 8.1.4 MLAG インターフェースの作成に注意事項を追加
- 8.1.5 MLAG メンバーポートの設定から注意事項を削除
- 8.1.6 MLAG メンバーポートの設定(LACP 併用)を追加
- 8.2 表示コマンドを修正
- 9.1 基本構成を修正
- 9.2 片 MLAG 構成を追加
- 9.3 LACP 併用構成を追加
- 10. 各バージョンでの機能追加、変更点を追加
- 11.2 運用上の注意事項を修正

# C 2013年4月26日

- 適用機種一覧表を修正
- 全章を対象に誤字・脱字・体裁を修正
- 図 3-2 装置ステータス遷移図を修正
- 図 7-17 正常状態(装置ステータス: Normal)を追加
- 図 7-18 正常状態(装置ステータス: Normal)を修正
- 図 7-19 ブリッジポート障害(装置ステータス:Abnormal)を追加
- 図 7-20 ブリッジポート障害(装置ステータス: Abnormal)を修正
- 図 7-21 first 装置障害を追加
- 図 7-22 装置交換時の注意点を追加
- 図 7-23 first 装置障害を修正
- 表 3-1 装置ステータスを修正
- 表 7-3 AEOS Ver. 8.17 以前の MLAG 装置で使用する装置優先度 (system-priority)を修正
- 表 7-4 AEOS Ver. 8.18 以降の装置単体に適用されるシステム ID(sys-id)
   を追加
- 表 7-5 AEOS Ver. 8.17 以前の MLAG 装置で使用するシステム ID(sys-id)

	T	
		を修正
		• 表 8-1 MLAG 設定コマンド一覧を修正
		• 表 9-1 設定項目(基本構成)を修正
		• 表 9-2 設定項目(片 MLAG 構成)を修正
		• 表 9-3 設定項目(LACP 併用構成)を修正
		• 表 10-1 各バージョンでの機能追加、変更点を修正
		● 表 11-1 併用可能機能を修正
		● 2.3 MLAG 仕様に注意事項を追加
		• 3.1 装置ステータスを修正
		● 5.1 FDB 学習ポートを修正
		<ul><li>5.3 自局 IP アドレスの FDB 登録を追加</li></ul>
		● 7.2 MAC アドレス更新機能を追加
		• 7.3 LACP 併用を修正
		• 7.3.1 装置優先度(system-priority)を修正
		• 7.3.2 システム ID(sys-id)を修正
		<ul><li>7.3.3 ポート優先度(port-priority)を修正</li></ul>
		• 7.3.4 正常状態を修正
		<ul><li>7.3.5 ブリッジポート障害時を修正</li></ul>
		• 7.3.6 装置障害時を修正
		<ul><li>7.3.7 バージョンアップ手順を追加</li></ul>
		7.4 MMRP-Plus 併用を追加
		● 8.1.4 MAC アドレス更新機能の有効化を追加
		• 8.1.5 MAC アドレス更新機能(コピー帯域の上限)の設定を追加
		• 8.1.9 システム ID の設定(LACP 併用)を追加
		• 8.2 表示コマンドを修正
		● 8.2.1 MLAG 情報を修正
		8.2.2 MLAG、LACP 情報を追加
		• 9.1 基本構成を修正
		● 9.2 片 MLAG 構成を修正
		● 9.3 LACP 併用構成を修正
		● 11.2 運用上の注意事項を修正
D	2018年4月3日	• 全章を対象に誤字・脱字・体裁を修正
		● 表 2-1 MLAG 用語を修正
		● 表 2-2 MLAG 仕様を修正
		● 表 8-1 MLAG 設定コマンド一覧を修正
		● 表 10-1 各バージョンでの機能追加、変更点を修正
		● 表 11-1 併用可能機能を更新
		● 5.1 FDB 学習ポートの注意事項を修正
		● 5.2 FDB フラッシュ動作の説明を修正
		• 5.2.3 ポートのリンクダウン時を追加
		5.2.4 clear mac-address-table dynamic コマンド実行時を追加
		<ul><li>7.2 MAC アドレス更新機能の注意事項を修正</li></ul>
		<ul><li>7.3 MAC アドレス同期機能を追加</li></ul>
		• 7.3.1 MAC アドレス同期機能有効を追加
		<ul><li>7.3.2 MAC アドレス更新機能との違いを追加</li></ul>

• 7.4 中継パス制限機能を追加
• 7.4.1 中継パス制限設定を追加
• 7.5 装置跨ぎ分散機能(Apresia15000 シリーズのみ)を追加
• 7.5.1 装置跨ぎ分散機能有効時の動作(正常時)を追加
• 7.5.2 装置跨ぎ分散機能有効時の動作(障害時)を追加
• 8.1.2 ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティの設定を修正、及び
注意事項を削除
• 8.1.6 MAC アドレス同期機能の有効化を追加
• 8.1.7 状態遷移による FDB の消去を抑止を追加
• 8.1.8 装置跨ぎ分散機能の有効化を追加
• 8.1.9 ポートのリンクアップ遅延の無効化を追加
• 8.2 表示コマンドを修正
● 8.2.1 MLAG 情報の表示例を修正
● 8.2.2 MLAG 設定を追加
◆ 8.2.3 MLAG 状態を追加
● 8.2.7 MLAG 情報の一括表示を修正
<ul><li>◆ 11.2 運用上の注意事項を修正</li></ul>

# はじめに

本書は、APRESIA シリーズのファームウェア AEOS Ver. 8 の機能概要、及び構成・設定例を記述しています。それ以外のハードウェアに関する説明、及び操作方法については、ハードウェアマニュアルを参照ください。また各種コマンドに関する説明は、最新のコマンドリファレンスを参照ください。

適用機種一覧表

シリーズ名称		製品名称	バージョン
Apresia13100 シリーズ		Apresia13100-48X-PSR	Ver. 8.32.01
Apresia Apresia		Apresia13200-48X	
13200 シリーズ   13200-48X シリーズ		Apresia13200-48X-PSR	
Apresia Apresia		Apresia15000-32XL-PSR	
15000 シリーズ	15000-32XL シリーズ	Apresia15000-32XL-PSR-1GLIM	
	Apresia	Apresia15000-64XL-PSR	
	15000-64XL シリーズ	Apresia15000-64XL-PSR-1GLIM	



この注意シンボルは、そこに記述されている事項が人身の安全と直接 関係しない注意書きに関するものであることを示し、注目させる為に 用います。

## 使用条件と免責事項

ユーザーは、本製品を使用することにより、本ハードウェア内部で動作するルーティングソフトウェアを含む全てのソフトウェア(以下、本ソフトウェアといいます)に関して、以下の諸条件に同意したものといたします。

本ソフトウェアの使用に起因する、または本ソフトウェアの使用不能によって生じたいかなる直接的、または間接的な損失・損害等(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失、またはその他の金銭的損害を含み、これに限定されない)については、その責を負わないものとします。

- (a) 本ソフトウェアを逆コンパイル、リバースエンジニアリング、逆アセンブルすることはできません。
- (b) 本ソフトウェアを本ハードウェアから分離すること、または本ハードウェアに組み込まれた状態以外で本ソフトウェアを使用すること、または本ハードウェアでの使用を目的とせず本ソフトウェアを移動することはできません。

APRESIA は、APRESIA Systems 株式会社の登録商標です。

AEOS は、APRESIA Systems 株式会社の登録商標です。

MMRP は、APRESIA Systems 株式会社の登録商標です。

Ethernet/イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

その他記載の会社名、及び製品名は、それぞれの会社の商標、または登録商標です。

# 目次

制定・改訂来歴表	1
はじめに	5
1. 概要	10
2. 基本動作	11
2.1 MLAG 構成	11
2.2 MLAG 用語	12
2.3 MLAG 仕様	13
2.4 ブリッジポート	14
3. MLAG のステータス	15
3.1 装置ステータス	16
3.2 MLAG ID ステータス	18
4. 制御フレーム	19
4.1 ハローフレーム	19
4.2 障害検知フレーム(リンクダウン/アップ)	19
4.3 ブロッキングフレーム	19
5. FDB(Forwarding Data Base)	20
5.1 FDB 学習ポート	20
5.1.1 MLAG インターフェース	21
5.1.2 MLAG インターフェース(片 MLAG)	23
5.1.3 物理ポート	24
5.2 FDB フラッシュ動作	26
5.2.1 装置ステータス変化時	26
5.2.2 MLAG ID ステータス変化時	26
5.2.3 ポートのリンクダウン時	26
5.2.4 clear mac-address-table dynamic コマンド実行時	26
5.3 自局 IP アドレスの FDB 登録	28
5.3.1 IP アドレス設定時	28
5.3.2 自局 IP アドレス宛パケット受信時	29
6. 動作概要	30
6.1 正常状態	30
6.1.1 宛先端末が MLAG インターフェースに接続	30
6.1.2 宛先端末が MLAG インターフェース以外に接続	32
6.2 MLAG インターフェース障害時	33
6.3 MLAG インターフェース復旧時	34
6.4 ブリッジポート障害時	35
6.4.1 宛先端末が MLAG インターフェースに接続	35
6.4.2 宛先が MLAG 装置に直接接続	36
6.5 ブリッジポート復旧時	37
6.6 ハローフレームタイムアウト	38
7. MLAG 適用例	39
7.1 片 MLAG	40
7.1.1 片 MLAG が確立している場合(対向装置に MLAG インターフェース作成時)	41
7.1.2 片 MLAG が確立していない場合(対向装置に MLAG インターフェース未作成時)	42
7.2 MAC アドレス更新機能	43

	7.2.1 MAC アドレス更新機能有効	44
	7.2.2 コピー帯域の上限	49
	7.2.3 中継パス制限機能との併用制限	50
	7.2.4 FDB 自動学習無効機能との併用制限	51
	7.2.5 BFS 機能との併用制限	52
7	.3 MAC アドレス同期機能	55
	7.3.1 MAC アドレス同期機能有効	55
	7.3.2 MAC アドレス更新機能との違い	56
7	.4 中継パス制限機能	57
	7.4.1 中継パス制限設定	57
7	.5 装置跨ぎ分散機能(Apresia15000シリーズのみ)	59
	7.5.1 装置跨ぎ分散機能有効時の動作(正常時)	59
	7.5.2 装置跨ぎ分散機能有効時の動作(障害時)	61
7	.6 LACP併用	63
	7.6.1 装置優先度(system-priority)	64
	7.6.2 システム ID(sys-id)	65
	7.6.3 ポート優先度(port-priority)	67
	7.6.4 正常状態	68
	7.6.5 ブリッジポート障害時	70
	7.6.6 装置障害時	72
	7.6.7 バージョンアップ手順	75
7	.7 MMRP-Plus 併用	76
	7.7.1 MMRP-Plus 併用時の注意事項	79
8.	コマンド	.80
8	.1 設定コマンド	80
	8.1.1 グループ番号の指定	82
	8.1.2 ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティの設定	82
	8.1.3 MLAG の有効化	
	8.1.4 MAC アドレス更新機能の有効化	82
	8.1.5 MAC アドレス更新機能(コピー帯域の上限)の設定	83
	8.1.6 MAC アドレス同期機能の有効化	83
	8.1.7 状態遷移による FDB の消去を抑止	83
	8.1.8 装置跨ぎ分散機能の有効化	83
	8.1.9 ポートのリンクアップ遅延の無効化	
	8.1.10 MLAG インターフェースの作成	
	8.1.11 MLAG メンバーポートの設定	
	8.1.12 MLAG メンバーポートの設定(LACP 併用)	
	8.1.13 システム ID の設定(LACP 併用)	
8	.2 表示コマンド	
	8.2.1 MLAG 情報	
	8.2.2 MLAG 設定	
	8.2.3 MLAG 状態	
	8.2.4 MLAG 装置の有効時のドメイン名	
	8.2.5 MLAG、LACP情報	
	8 2 6 MI AG カウンター	QΩ

8.2.7 MLAG 情報の一括表示	88
9. 設定例	90
9.1 基本構成	90
9.2 片 MLAG 構成	94
9.3 LACP 併用構成	98
10. 各バージョンでの機能追加、変更点	103
11. 注意事項/制限事項	121
11.1 併用可能機能	121
11.2 運用上の注意事項	125

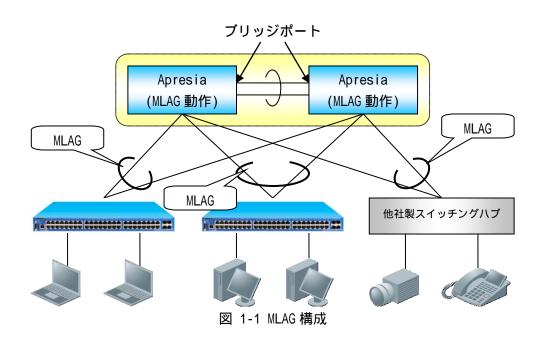
# 1. 概要

MLAG(Multi-Chassis Link-Aggregation)は、2 台のスイッチで 1 つのリンクアグリゲーション(LAG) を構成する機能です。片方のリンクに障害が発生しても、もう一方のスイッチへ高速に経路を切替えます。

図 1-1 に MLAG の構成例を示します。2 台の Apresia をブリッジポートと呼ぶポートで直接接続し、 装置を跨いだ LAG を構成することが可能です。

従来の LAG は物理ポートの冗長構成でしたが、MLAG を使用することにより、物理ポートの冗長構成、及び装置の冗長構成を取ることが可能になります。

また、従来のレイヤー2 冗長プロトコルはベンダー独自機能である場合が多く、全ての装置において独自プロトコルがサポートされている必要がありましたが、MLAG では対向装置を問わず、LAG をサポートしている機種であれば接続が可能です。

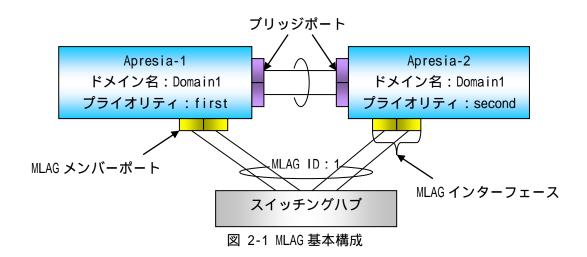


# 2. 基本動作

## 2.1 MLAG 構成

図 2-1 に MLAG の基本構成を示します。MLAG は 2 台の Apresia 間をブリッジポートと呼ぶポートにて直接接続します。ブリッジポートでは MLAG のハローフレームを送受信し、設定情報、装置状態などを交換します。

各 MLAG 装置に MLAG インターフェースを作成することにより、装置を跨いだ LAG を構成できます。対向のスイッチングハブからは通常の LAG としてみなされます。



MLAG 有効時には、LAG(リンクアグリゲーション)を使用できません。MLAG を構成している、片方の MLAG 装置のみで LAG を構成する場合においても、MLAG で構成してください(7.1 参照)。

# 2.2 MLAG 用語

表 2-1 に MLAG の用語を示します。

表 2-1 MLAG 用語

用語	説明	値
MLAG 装置	MLAG が動作する Apresia	-
MLAG インターフェース	interface mlag <mlagno>で設定する、</mlagno>	-
	MLAG 用のインターフェース	
MLAG メンバーポート	MLAG インターフェースに所属する物理ポート	-
プライオリティ	MLAG 装置を区別する値	first   second
	• 2装置間で異なるプライオリティを設定	
	• 設定値として、first、second を選択可能	
	• first、second 間で動作としての優劣はなし 1)	
ドメイン名	MLAG 装置に対して割り当てる名前であり、	1-8(文字) 2)
	MLAG 装置間で同一文字列を設定	
MLAG ID	MLAG インターフェースを一意に決める ID	1-64
ブリッジポート	MLAG 装置間を接続するポート	ポート番号
片 MLAG	一方のMLAG 装置のみを使用するMLAG 構成(7.1参照)	-

- 1) LACP 併用時には、first に設定した装置の LACP 設定を優先的に使用します(7.6 参照)。
- 2) ドメイン名には、英数字、及び#、%、-、\_の各文字が使用可能です。

#### 2.3 MLAG 仕様

表 2-2 に MLAG の仕様を示します。

表 2-2 MLAG 仕様

項目	仕様	備考
対応機種	Apresia13100 シリーズ	MLAG 装置は同一機種で構成
	Apresia13200-48X シリーズ	
	Apresia15000-32XLシリーズ	
	Apresia15000-64XL シリーズ	
MLAG 装置数	2台	
ブリッジポート	Apresia13100 シリーズ:最大 4 ポート	10G インターフェースのみ
	Apresia13200-48X シリーズ:最大 4 ポート	使用可
	Apresia15000-32XL シリーズ:最大 8 ポート	
	Apresia15000-64XL シリーズ:最大 8 ポート	
MLAGインターフェース数	最大 64	
MLAG メンバーポート数	2 装置合計で最大 8 ポート	1 装置最大 8 ポート
パケットフィルター2の	1	
使用グループ数		

- MLAG 装置は同一機種で構成してください。
- MLAG を構成する 2 装置のファームウェアバージョンは、同一のバージョンで運用してください。運用中のファームウェアバージョンが AEOS Ver. 8.17 以降の場合、バージョンアップ時に一時的なバージョン差異が発生する場合でも通信に問題はありませんが、その状態での運用や設定変更はしないでください。
- MLAG 動作装置では、L3 機能(ip forwarding)は未サポートです。L3 ライセンス有効 (license l3 key 設定)装置で MLAG を使用する場合は、あらかじめ、L3 ライセンスを 削除(license erase)するか、no ip forwarding を設定してください。

# 2.4 ブリッジポート

ブリッジポートは MLAG 装置間を接続し、制御フレームの送受信、MLAG 装置間の通信経路を担います。 ブリッジポートがリンクダウンしても MLAG インターフェースの送受信に影響はありませんが、ブリッ ジポートを通信経路として使用している場合は通信障害が発生します(6.4.2 参照)。

また、ブリッジポートがリンクダウンすると MLAG 装置が異常状態となります。これらを回避するために、ブリッジポートは複数ポートでの冗長接続を推奨します。

ブリッジポートは以下の特徴を持ちます。

- MLAG のハローフレームを送受信
- ブリッジポート間の通信は独自フレームフォーマット(アクセスポートで受信した VLAN タグ無しフレームをブリッジポートへ中継する場合、4 byte 大きいサイズのフレームとなる)
- 10G インターフェースのみ設定可
- ブリッジポート間は直接接続のみ可、他装置(スイッチングハブ、メディアコンバーターなど)で中継する構成は不可
- 複数ポート指定可(複数ポートを指定した場合、装置内部的には LAG 接続)
- 自動的にトランクポートとして設定
- 装置に設定された全 VLAN が所属
- show interface counters は表示不可
- ブリッジポートに対する他機能の設定は未サポートです。

# 3. MLAG のステータス

MLAG 装置は、装置としてのステータス(装置ステータス)と MLAG インターフェース毎のステータス (MLAG ID ステータス)があります。

図 3-1 に MLAG のステータスを示します。

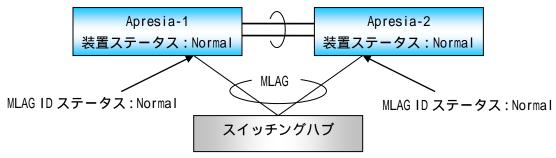


図 3-1 MLAG を構成する各装置のステータス

# 3.1 装置ステータス

表 3-1 に装置ステータスを示します。装置ステータスはハローフレームの受信状態で決定されます。 図 3-2 の遷移図で使用するために説明文中の条件にアルファベット((a) ~ (i))を定義してあります。 Disable からの遷移、Disable への遷移、及び Abnormal から Abnormal への遷移時を除き、装置ステータスの変化時には状態遷移を示すログが出力されます。

表 3-1 装置ステータス

ステータス		条件	動作
Normal	(a)	以下条件を全て満たしている	正常動作
		• ブリッジポートが1ポート以上リンクアップ	
		• 自装置のプライオリティが対向装置と異なる	
		• 自装置のドメイン名が対向装置と同一	
		• 自装置の MLAG プロトコルバージョンが対向装	
		置と同一	
		● HelloB を受信	
Disable	(b)	MLAG 設定が存在しない	-
Abnormal		以下いずれかの条件を満たしている	• MLAG の縮退/復旧は動作しな
	(c)	● HelloF を受信	い(各 MLAG 装置で、それぞれ
	(d)	<ul><li>ブリッジポートが全てリンクダウン</li></ul>	通常の LAG 動作となり、同一
	(e)	• 自装置のプライオリティが対向装置と同一	装置内の MLAG では、縮退/復
	(f)	• 自装置のドメイン名が対向装置と異なる	旧が行われる)
	(g)	• 自装置の MLAG プロトコルバージョンが対向装	• ブリッジポートは通信不可
		置と異なる 1)	
	(h)	• ブリッジポートが 1 ポート以上リンクアップ	
		後、対向装置からのハローフレーム未受信検知	
Unreach	(i)	対向装置からのハローフレーム未受信 2)	• MLAG の縮退/復旧は動作しな
			い(各 MLAG 装置で、それぞれ
			通常の LAG 動作となり、同一
			装置内の MLAG では、縮退/復
			旧が行われる)
			• ブリッジポートは通信不可

- 1) 自装置のファームウェアバージョンが対向装置と接続不可のファームウェアバージョンである場合に該当します。
- 2) ハローフレームをタイムアウト時間内に受信しなかった場合に該当します。

図 3-2 に装置ステータスの状態遷移図を示します。図中のアルファベット((a)~(i))は表 3-1 で定義した遷移条件であり、これを満たすと装置ステータスが矢印方向へ遷移します。

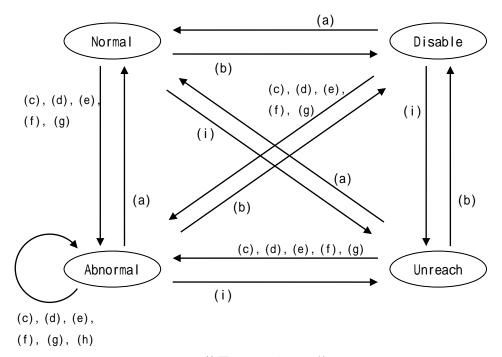


図 3-2 装置ステータス遷移図

## 3.2 MLAG ID ステータス

MLAG インターフェースは表 3-2 に示す MLAG ID ステータスを MLAG ID 毎に持ちます。 MLAG ID ステータスは装置ステータスが Normal 時のみステータスがあります。

表 3-2 MLAG ID ステータス

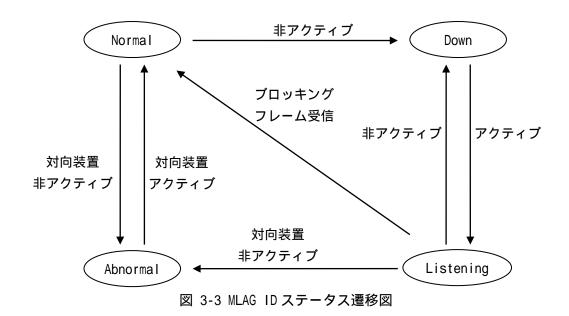
ステータス	説明	動作
Normal	自装置、対向装置共にアクティブ	• MLAG メンバーポートの送受信可能
		• ブリッジポートで受信したフレームの MLAG
		インターフェースへの転送は禁止
Abnormal	自装置はアクティブだが、対向装	• MLAG メンバーポートの送受信可能
	置が非アクティブ	• ブリッジポートで受信したフレームの MLAG
		インターフェースへの転送は許可
Down	非アクティブ	• MLAG メンバーポートの送受信不可
		• ブリッジポートで受信したフレームの MLAG
		インターフェースへの転送は禁止
Listening	自装置が非アクティブからアクテ	• 対向装置が Normal へ遷移するのを待機
	ィブへ遷移した時に対向装置が	• MLAG メンバーポートの送受信不可
	Normal へ遷移するのを待機	• ブリッジポートで受信したフレームの MLAG
		インターフェースへの転送は禁止

アクティブ : MLAG メンバーポートが最低 1 ポートリンクアップ

非アクティブ : MLAG メンバーポートが全てリンクダウン、または MLAG インターフェースに

MLAG メンバーポートが設定されていない

# 図 3-3 に MLAG ID ステータスの状態遷移図を示します。



# 4. 制御フレーム

MLAG で使用される制御フレームは、ハローフレーム、障害検知フレーム(リンクダウン/アップ)、ブロッキングフレームです。

#### 4.1 ハローフレーム

ブリッジポートは 1 秒間隔でハローフレームを送信します。ハローフレームによって自装置の MLAG 設定、状態を対向装置へ伝達します。対向装置から受信したハローフレームは CPU で処理され、対向装置の状態を認識します。ハローフレームをタイムアウト時間内に受信できないと、装置ステータスが Unreach へ遷移し、ブリッジポート間の通信が不可となりますが、MLAG インターフェースでの通信に影響ありません。

ハローフレームは以下の特徴を持ちます。

• 送信間隔:1秒

• タイムアウト時間:10秒

• ブリッジポートが複数ポートから構成されている場合、最若番ポートから送信

表 4-1 にハローフレーム種別を示します。送信するハローフレーム種別は対向装置からのハローフレ ーム受信有無によって決定されます。

衣 4-1 ハローノレーム性別		
種別	説明	
HelloB	対向装置からのハローフレームを受信している状態で	
	送信するハローフレーム	
HelloF	対向装置からのハローフレームを受信していない状態で	
	送信するハローフレーム	

表 4-1 ハローフレーム種別

MLAG 装置間のハローフレーム送受信が異常となった場合でも MLAG インターフェース は正常に動作します。ただし、MLAG 装置間を跨いだ縮退、復旧は動作しません。

#### 4.2 障害検知フレーム(リンクダウン/アップ)

MLAG インターフェースが全てリンクダウンした時、または MLAG インターフェースがリンクアップした時に対向 MLAG 装置へ送信します。障害検知フレームにより、高速な経路切替わり、復旧を実現します。

#### 4.3 ブロッキングフレーム

MLAG ID ステータスが Normal へ遷移した時に対向装置へ送信します。Listening 状態にある対向装置はブロッキングフレーム受信により Normal へ状態遷移します。この動作により MLAG インターフェース 復旧時の瞬間的なループ構成を防止します。

# 5. FDB(Forwarding Data Base)

#### 5.1 FDB 学習ポート

MLAG は定期的なフラッディングやブロードキャストがある環境での使用を想定しており、 $\mathsf{FDB}(\mathsf{Forwarding\ Data\ Base})$ 登録はフラッディングやブロードキャストフレームの受信により行われます。

そのため、MLAG 装置の FDB 学習ポートはフレームを受信したインターフェース種別、フレーム種別(表 5-1 参照)によって受信装置毎に異なります。フレームを受信した MLAG 装置を自装置、対向の MLAG 装置を対向装置とした場合の FDB 学習ポートを表 5-2 に示します。

 種別
 説明

 UC
 宛先学習済ユニキャスト

 BC
 ブロードキャスト

 MC
 マルチキャスト

表 5-1 フレーム種別

表 5-2 FDB 学習ポート

宛先不明ユニキャスト

登録対象 装置	自装置での 受信インターフェース	フレーム種別	FDB 学習ポート
自装置	MLAG インターフェース	UC/BC/MC/DLF(全てのフレーム)	MLAG インターフェース
	MLAG インターフェース	UC/BC/MC/DLF(全てのフレーム)	物理ポート
	以外の物理ポート		
対向装置	MLAG インターフェース	UC	未登録
	(5.1.1 参照)	BC/MC/DLF	MLAG インターフェース 1)
	MLAG インターフェース	UC	ブリッジポート経由の通信
	以外の物理ポート		はブリッジポート
	(5.1.3 参照)	BC/MC/DLF	ブリッジポート

<sup>1)</sup> 片 MLAG の場合は、ブリッジポート宛(FDB 上は bridge)として FDB 学習します(5.1.2 参照)。

- MLAG の動作仕様上、定期的なフラッディングやブロードキャストが発生しない通信 環境では、片側の MLAG 装置のみ FDB 登録されるため、以下の動作となる可能性があ ります。
  - ユニキャスト通信のフラッディングが発生し続ける

DLF

• 端末の接続ポートが移動された場合、通信断が発生する

これらの動作が問題となる場合は、MAC アドレス更新機能(7.2 参照)、または MAC アドレス同期機能(7.3 参照)を有効にしてください。

# 5.1.1 MLAG インターフェース

自装置の MLAG インターフェースで宛先学習済ユニキャストフレーム(UC)を受信した場合の対向装置 における FDB 学習動作を図 5-1 に示します。図の例は、ドメイン名: Domain1、自装置のプライオリティ: first、対向装置のプライオリティ: second に設定されていることを表します。

端末 A->端末 B のフレーム受信時の動作は以下になります。対向装置では当該フレームを受信しないため、端末 A は FDB に学習しません。

端末 A からのフレームがスイッチングハブの LAG にて自装置側へ振り分け 自装置にて端末 A を MLAG ID:1 宛(FDB 上は Domain1/1(f))として FDB 学習 自装置にて端末 B が FDB 登録済なので、MLAG ID:2 へ中継 対向装置では該当フレーム未受信のため、端末 A は FDB に学習しない

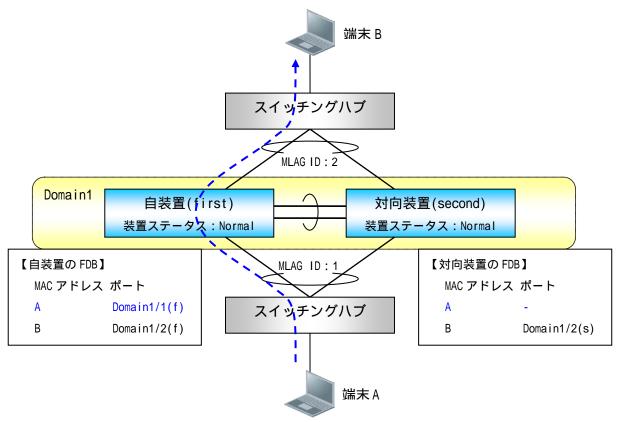


図 5-1 MLAG インターフェースでの FDB 学習(UC)

自装置の MLAG インターフェースで FDB に宛先が未学習のユニキャストフレーム(DLF)、マルチキャストフレーム(MC)、ブロードキャストフレーム(BC)を受信した場合の対向装置における FDB 学習動作を図5-2 に示します。

端末 A->端末 B のフレーム受信時の動作は以下になります。対向装置から見るとブリッジポートでの受信フレームですが、フレーム内に「受信インターフェース = MLAG ID:1」の情報が含まれているため、端末 A は MLAG ID:1 宛(FDB 上は Domain1/1(s))として FDB へ学習します。

端末 A からのフレームがスイッチングハブの LAG にて自装置側へ振り分け

自装置にて端末 A を MLAG ID: 1 宛(FDB 上は Domain1/1(f))として FDB 学習

自装置の FDB に端末 B が学習されていないので、ブリッジポートを含んだ同一 VLAN 内へフラッディング

対向装置のブリッジポートにて受信し、端末 A を MLAG ID:1 宛(FDB 上は Domain1/1(s))として FDB 学習

MLAG インターフェース以外の同一 VLAN 内へフラッディング

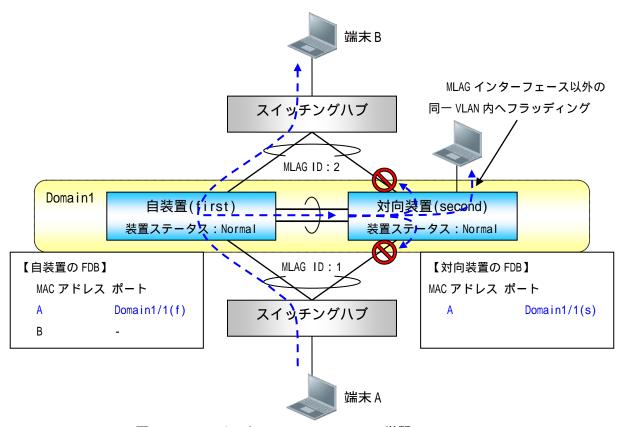


図 5-2 MLAG インターフェースでの FDB 学習(BC/MC/DLF)

## 5.1.2 MLAG インターフェース(片 MLAG)

片 MLAG(7.1 参照)の MLAG インターフェースで受信したフレームによる、対向装置の FDB 学習ポートは、通常の MLAG インターフェースで受信した場合(図 5-2)と異なります。

自装置の片 MLAG インターフェースで FDB に宛先が未学習のユニキャストフレーム(DLF)、マルチキャストフレーム(MC)、ブロードキャストフレーム(BC)を受信した場合の対向装置における FDB 学習動作を図 5-3 に示します。図の例は、両 MLAG 装置に MLAG ID:1 の MLAG インターフェースを作成し、自装置のみに MLAG ID:1 の MLAG メンバーポートを設定した片 MLAG 構成を表します。

端末 A->端末 B のフレーム受信時の動作は以下になります。端末 A は図 5-2 とは異なり、ブリッジポート宛(FDB 上は bridge)として対向装置の FDB へ学習します。

自装置にて端末 A を MLAG ID: 1 宛(FDB 上は Domain1/1(f))として FDB 学習

自装置の FDB に端末 B が学習されていないので、ブリッジポートを含んだ同一 VLAN 内へフラッディング

対向装置のブリッジポートにて受信し、端末 A をブリッジポート宛(FDB 上は bridge)として FDB 学習

MLAG インターフェース以外の同一 VLAN 内へフラッディング

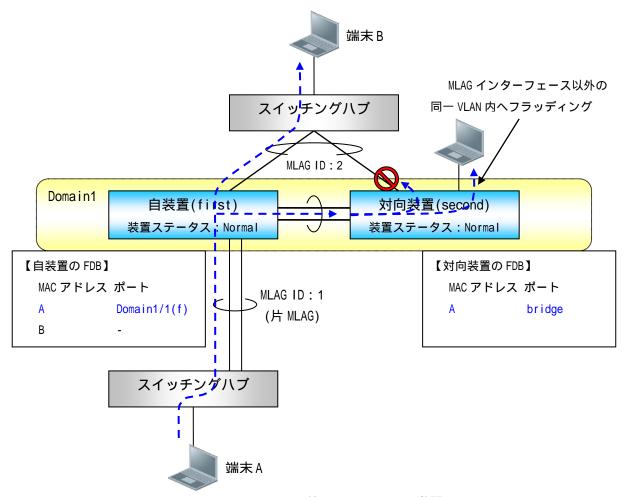


図 5-3 MLAG インターフェース(片 MLAG)での FDB 学習(BC/MC/DLF)

#### 5.1.3 物理ポート

自装置の MLAG インターフェース以外の物理ポートで宛先学習済ユニキャストフレーム(UC)を受信した場合の対向装置における FDB 学習動作を図 5-4 に示します。

端末 B->端末 A のフレーム受信時の動作は以下になります。対向装置では当該フレームを受信しないため、端末 B は FDB に学習しません。

自装置にて端末 B をポート: 1/1 宛として FDB 学習

自装置にて端末 A が FDB 学習済なので、MLAG ID:1へ中継

対向装置では該当フレーム未受信のため、端末 B は FDB に学習しない

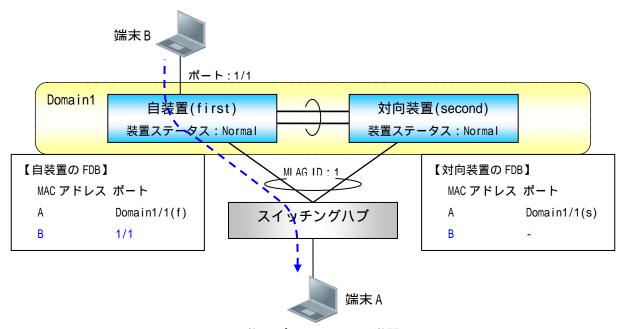


図 5-4 物理ポートでの FDB 学習(UC)

自装置の MLAG インターフェース以外の物理ポートで宛先不明ユニキャストフレーム(DLF)、マルチキャストフレーム(MC)、ブロードキャストフレーム(BC)を受信した場合の対向装置における FDB 学習動作を図 5-5 に示します。

端末 B->端末 A のフレーム受信時の動作は以下になります。端末 B はブリッジポート宛(FDB 上はbridge)として対向装置の FDB へ学習します。

自装置にて端末 B をポート: 1/1 宛として FDB 学習

自装置にて端末 A が FDB 未学習なので、ブリッジポートを含んだ同一 VLAN 内へフラッディング 対向装置のブリッジポートにて受信し、端末 B をブリッジポート宛(FDB 上は bridge)として FDB 学習

MLAG インターフェース以外の同一 VLAN 内へフラッディング

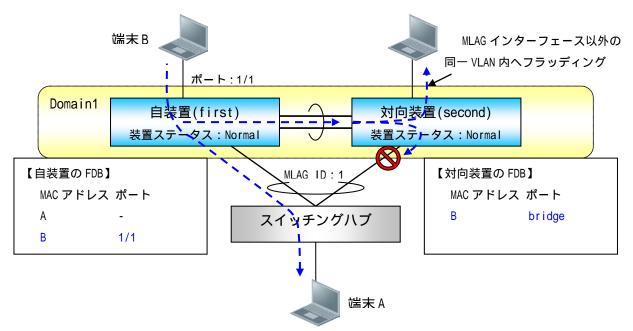


図 5-5 物理ポートでの FDB 学習(BC/MC/DLF)

#### 5.2 FDB フラッシュ動作

装置ステータス、MLAG ID ステータスが変化した際に装置全体、または MLAG ID 単位で FDB が消去されます。

また、以下の場合には自装置の FDB の消去と連動して、フラッディングや FDB 更新機能、FDB 同期機能により対向装置で学習した FDB も消去します。

- ポートのリンクダウン時
- clear mac-address-table dynamic コマンド実行時

#### 5.2.1 装置ステータス変化時

装置ステータスが変化した時に MLAG 装置間の FDB 不一致を防止するために装置全体の FDB を消去します。図 5-6に FDB フラッシュが発生する状態遷移を示します。

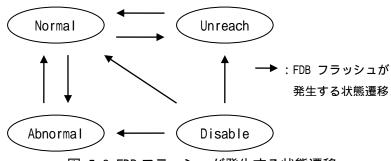


図 5-6 FDB フラッシュが発生する状態遷移

#### 5.2.2 MLAG ID ステータス変化時

自装置の全 MLAG メンバーポートがダウンしても、対向装置の MLAG メンバーポートが 1 ポートでもアップしていれば、MLAG インターフェースとしてはアップとして扱われ、該当 MLAG インターフェースで学習された FDB は消去されません。

両 MLAG 装置の MLAG インターフェースに障害が発生した場合、該当 MLAG ID の FDB を消去します。具体的には以下の契機で FDB を消去します。

- 自装置の MLAG ID ステータスが Abnormal から Down へ遷移
- 自装置の MLAG ID ステータスが Down 状態で、対向装置が Abnormal から Down へ遷移

#### 5.2.3 ポートのリンクダウン時

MLAG のメンバーポートでないポートがリンクダウンした場合、自装置の該当ポートの FDB に加え、対向装置で学習した FDB も消去します。

## 5.2.4 clear mac-address-table dynamic コマンド実行時

clear mac-address-table dynamic コマンドを以下のオプション付きで実行した場合、自装置の指定対象の FDB に加え、対向装置で学習された FDB も消去します。

- ポート番号指定(clear mac-address-table dynamic interface port)
- VLAN ID 及び MAC アドレス指定(clear mac-address-table dynamic vlan mac)

以下のオプション付きで実行した場合、対向装置で学習された FDB は消去されません。

- MLAG ID指定(clear mac-address-table dynamic interface mlag)
- VLAN ID指定(clear mac-address-table dynamic vlan)

#### 5.3 自局 IP アドレスの FDB 登録

自局通信用に IP アドレスを設定した場合、通常は自局 MAC アドレスを自装置の FDB にスタティック登録しますが、MLAG 使用時は対向装置の FDB にも MAC アドレスをスタティック登録します。

MLAG 動作装置では、L3 機能(ip forwarding)は未サポートです。L3 ライセンス有効 (license l3 key 設定)装置で MLAG を使用する場合は、あらかじめ、L3 ライセンスを 削除(license erase)するか、no ip forwarding を設定してください。

#### 5.3.1 IP アドレス設定時

図 5-7 に IP アドレス設定時の FDB 登録動作を示します。

自装置に IP アドレスを設定した場合の動作は以下になります。対向装置ではハローフレーム受信のタイミングで、自装置の CPU 宛(FDB 上は bridge)として自装置の MAC アドレスを FDB にスタティック登録します。

自装置にて VLAN ID: 10 に IP アドレス: 10.0.0.1/16 を設定

自装置にて自局 MAC アドレスを FDB にスタティック登録

VLAN に IP アドレスが設定されているかどうかを定期的に監視し、結果をハローフレームで通知 対向装置にてハローフレーム受信後、自装置(first)の MAC アドレスを FDB にスタティック登録

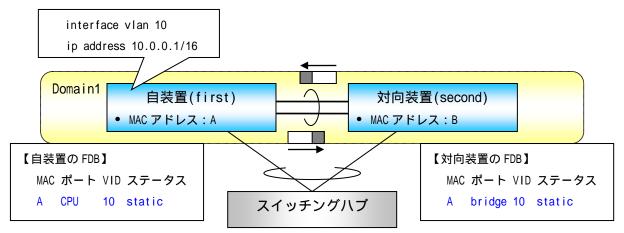


図 5-7 IP アドレス設定時の FDB 登録動作

- 対象の VLAN が対向装置の vlan database に存在しない場合、対向装置の FDB にスタティックエントリーは登録されません。VLAN 作成後に登録されます。
- 🚺 対向装置へのスタティックエントリー登録・削除は 10 秒間隔で行われます。
  - IP アドレス設定直後、最大で 10 秒間は自局通信ができない
  - IP アドレス削除後、最大で 10 秒間は自局通信ができてしまう

#### 5.3.2 自局 IP アドレス宛パケット受信時

図 5-8 に自局 IP アドレス宛パケットに対する動作を示します。対向装置の MLAG インターフェースで 受信した場合には、対向装置の FDB にスタティック登録されたエントリーにより、自装置の CPU に転送 されます。応答は自装置の MLAG インターフェースから行います。

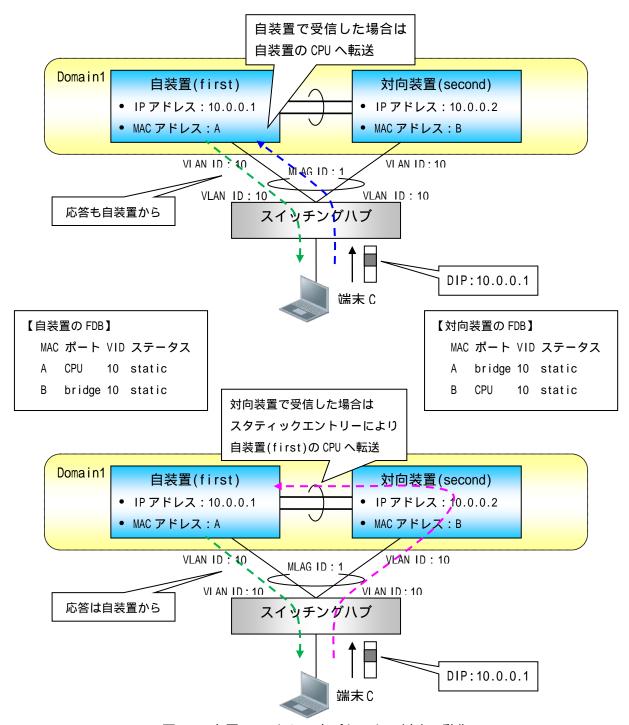


図 5-8 自局 IP アドレス宛パケットに対する動作

# 6. 動作概要

#### 6.1 正常状態

正常状態は設定、ハローフレーム送受信が正常であり、装置ステータス、MLAG ID ステータス共に Normal であることを指します。

## 6.1.1 宛先端末が MLAG インターフェースに接続

宛先端末が MLAG インターフェースに接続されている場合の動作を示します。

受信したフレームが宛先学習済ユニキャストフレーム(UC)であるか、宛先学習済ユニキャストフレーム以外(BC/MC/DLF)であるかで処理が異なります。

#### • 宛先学習済ユニキャストフレーム(UC)

図 6-1 に宛先学習済ユニキャストフレーム(UC)受信時の動作を示します。

端末 A から端末 B 宛のフレームは FDB に従い同一 MLAG 装置内で中継されます。このとき、送信元である端末 A の MAC アドレスは対向装置で FDB 学習しません。

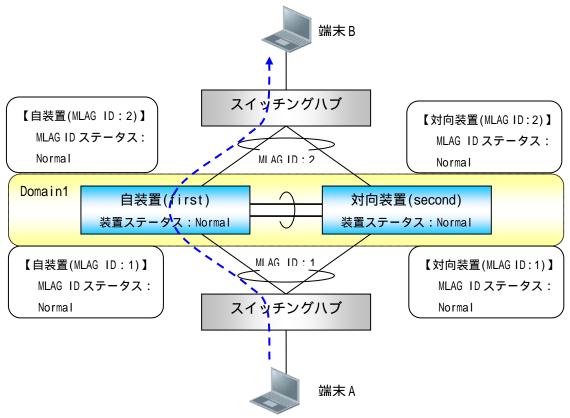


図 6-1 宛先端末が MLAG インターフェース(UC)

宛先学習済ユニキャストフレーム以外(BC/MC/DLF)

図 6-2 に宛先不明ユニキャストフレーム(DLF)、マルチキャストフレーム(MC)、ブロードキャストフレーム(BC)受信時の動作を示します。

端末 A から端末 B 宛のフレームはブリッジポートを含む同一 VLAN 内へフラッディングされ、対向装置にて端末 A の送信元 MAC アドレスを FDB に学習します。ブリッジポートで受信したフレームは MLAG インターフェースへ転送されないため、MLAG インターフェース以外の同一 VLAN 内へフラッディングされます。

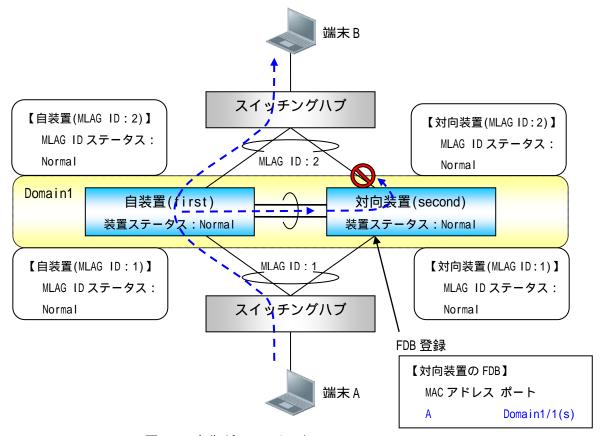


図 6-2 宛先が MLAG インターフェース (BC/MC/DLF)

#### 6.1.2 宛先端末が MLAG インターフェース以外に接続

図 6-3 に宛先端末が MLAG インターフェース以外に接続されている場合の動作を示します。 端末 A から端末 B 宛のフレームはスイッチングハブの LAG 振り分けによって経路が決まります。

Apresia-1 側に振り分けた場合は経路 a で中継されます。Apresia-1 にて端末 B の MAC アドレスを学習済の場合は、ブリッジポートへは転送せず、端末 B の接続ポートへ転送されます。未学習時はブリッジポートを含んだ同一 VLAN 内へフラッディングされ、Apresia-2 において、端末 A の MAC アドレスをMLAG ID:1 に学習します。

Apresia-2 側に振り分けた場合はブリッジポートを経由する経路 b で転送されます。このとき、Apresia-1 は端末 A の MAC アドレスをブリッジポートではなく MLAG ID: 1 に学習します。

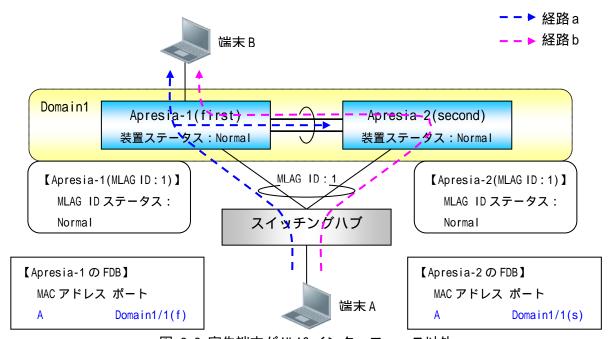


図 6-3 宛先端末が MLAG インターフェース以外

# 6.2 MLAG インターフェース障害時

MLAG インターフェースに障害が発生した場合、該当 MLAG メンバーポートを経由した通信はブリッジポートを経由した経路へ切替わります。

MLAG インターフェース障害時に障害検知フレームを送信することにより、障害情報を対向装置へすぐに伝達することができます。

図 6-4 に MLAG インターフェース障害時の動作を示します。

Apresia-1 でフレームを中継している状態で、MLAG ID:2 がリンクダウンした場合、以下の動作となり、Apresia-1 の MLAG インターフェースがリンクダウンしても、Apresia-2 経由で通信が継続されます。

Apresia-1の MLAG ID:2の全メンバーポートがリンクダウン

Apresia-1 の MLAG ID ステータスが Normal から Down へ遷移し、MLAG ID:2 の送受信を禁止

Apresia-1 から Apresia-2 へ障害検知フレームを送信

Apresia-2の MLAG ID ステータスが Normal から Abnormal へ遷移

ブリッジポートから MLAG ID:2への転送を許可

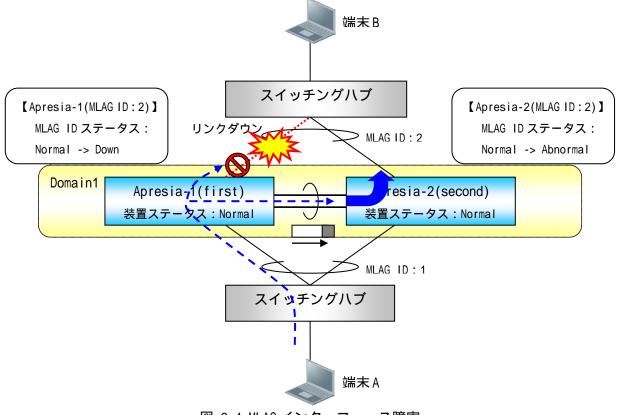


図 6-4 MLAG インターフェース障害

## 6.3 MLAG インターフェース復旧時

MLAG インターフェース復旧時は MLAG ID ステータスは Down からいったん Listening となり、対向装置からのブロッキングフレーム受信後に Normal へ遷移します。この動作により、復旧時の一時的なループ構成を防止します。

図 6-5 に MLAG インターフェースが復旧した場合の動作を示します。

Apresia-1の MLAG ID:2 がリンクダウン状態から復旧した場合、以下の動作になります。

Apresia-1 の MLAG ID:2のメンバーポートがリンクアップ

Apresia-1の MLAG ID ステータスが Down から Listening へ遷移

Apresia-1 が Apresia-2 へ障害検知フレームを送信

Apresia-2の MLAG ID ステータスが Abnormal から Normal へ遷移

ブリッジポートから MLAG ID:2への転送を禁止

Apresia-2 が Apresia-1 ヘブロッキングフレームを送信

Apresia-1 の MLAG ID ステータスが Listening から Normal へ遷移し、MLAG ID:2 の送受信を解除

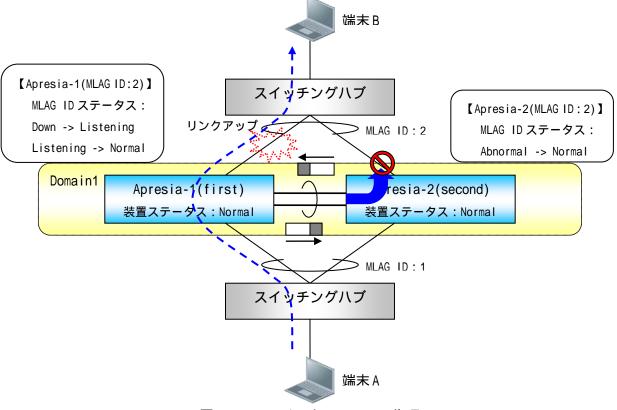


図 6-5 MLAG インターフェース復旧

#### 6.4 ブリッジポート障害時

MLAG 装置のブリッジポートが全てリンクダウンした場合、装置ステータスが Normal から Abnormal へ 遷移し、FDB がフラッシュされます。Abnormal へ遷移しても MLAG インターフェース経由の通信には影響ありませんが、ブリッジポートを通信経路として使用している場合は通信障害が発生します。

ブリッジポートに障害が発生すると、装置ステータスが Abnormal へ遷移するので、MLAG ID ステータスは無くなります。

#### 6.4.1 宛先端末が MLAG インターフェースに接続

図 6-6 に宛先端末が MLAG インターフェースに接続されている構成で全ブリッジポートがリンクダウンした場合の動作を示します。全ブリッジポートがリンクダウンしても通信に影響ありません。

全ブリッジポートがリンクダウン

装置ステータスが Normal から Abnormal へ遷移

【ログ】<mlag:err> <DOMAIN> goes Abnormal status, Bridge-port Down.

装置の FDB を消去

【ログ】<mlag:notice> <DOMAIN> FDB Flush, switch status goes Abnormal.

MLAG ID ステータスが無くなる

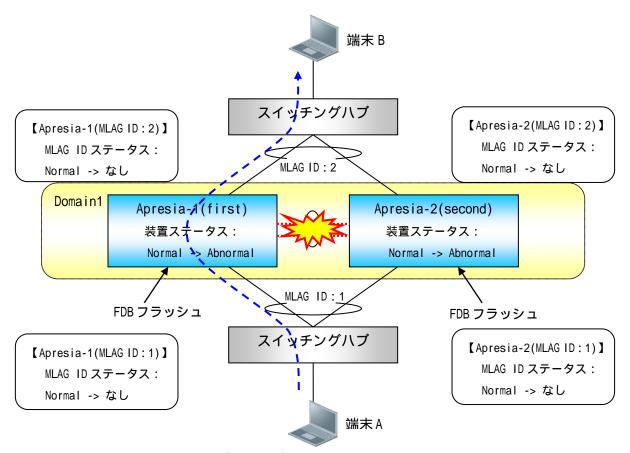


図 6-6 ブリッジポート障害(MLAG-MLAG 間通信)

#### 6.4.2 宛先が MLAG 装置に直接接続

図 6-7 に端末 B 宛通信時に全ブリッジポートがリンクダウンした場合の動作を示します。

経路 a はブリッジポートを経由していないため、ブリッジポートがリンクダウンしても通信に影響ありませんが、経路 b はブリッジポートを経由しているため、ブリッジポートのリンクダウンに伴い、通信不可になります。経路 b の通信断を回避するため、ブリッジポートを複数ポートで構成することを推奨します。

全ブリッジポートがリンクダウン

装置ステータスが Normal から Abnormal へ遷移

【ログ】<mlag:err> <DOMAIN> goes Abnormal status, Bridge-port Down.

装置の FDB を消去

【ログ】<mlag:notice> <DOMAIN> FDB Flush, switch status goes Abnormal. MLAG ID ステータスが無くなる

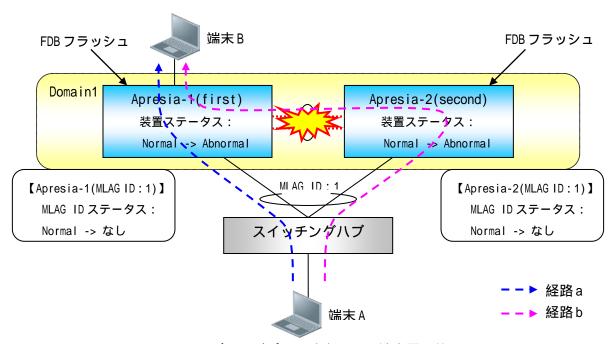


図 6-7 ブリッジポート障害(MLAG-端末間通信)

#### 6.5 ブリッジポート復旧時

ブリッジポートがリンクアップした場合、装置ステータスが Abnormal から Normal へ遷移し、HelloBのハローフレームを送信します。同時に FDB が消去されます。装置ステータスが遷移しても MLAG インターフェース経由の通信には影響ありません。

図 6-8 にブリッジポートがリンクアップした場合の動作を示します。

ブリッジポートがリンクアップ

装置ステータスが Abnormal から Normal へ遷移

【ログ】<mlag:notice> <DOMAIN> goes Normal status.

装置の FDB を消去

【ログ】<mlag:notice> <DOMAIN> FDB Flush, switch status goes Normal.

MLAG ID ステータスが Normal へ遷移

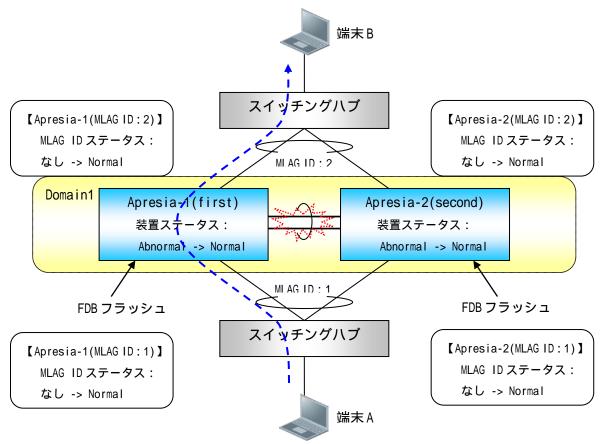


図 6-8 ブリッジポート復旧(MLAG-MLAG 間通信)

#### 6.6 ハローフレームタイムアウト

ハローフレームが受信不可になると、タイムアウト時間経過後、装置ステータスが Unreach となり、 装置の FDB が消去されます。MLAG インターフェースを経由した通信には影響ありません。

### 図 6-9 にハロータイムアウトが発生した場合の動作を示します。

ハローフレームが対向装置へ到達不可

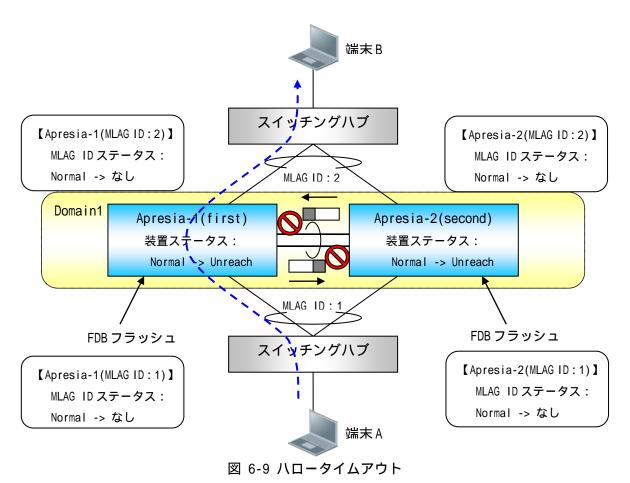
ハロータイムアウト時間経過後、装置ステータスが Normal から Unreach へ遷移

【ログ】<mlag:err> <DOMAIN> goes Unreach status.

装置の FDB を消去

【ログ】<mlag:notice> <DOMAIN> FDB Flush, switch status goes Unreach.

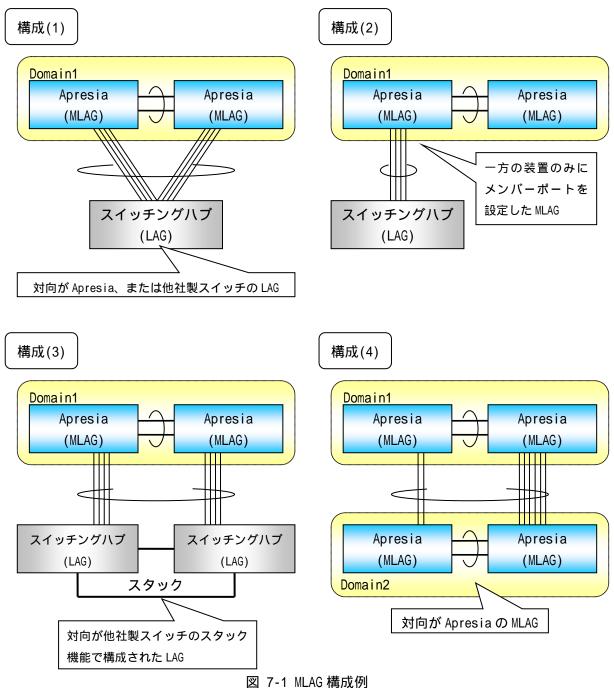
MLAG ID ステータスが無くなる



### 7. MLAG 適用例

図 7-1 に MLAG の構成例を示します。対向装置を問わず、構成(1)~(4)のように、LAG をサポートし ている機種との相互接続が可能です。

構成(2)のような、一方の装置のみで LAG を構成したい場合は「7.1片 MLAG」を参照してください。 また、MLAG インターフェースは、LACP(Link Aggregation Control Protocol)で動作させることもで きます。構成(1)~(4)に適用可能です。LACP をサポートしている対向装置と接続してください。MLAG 装置における LACP の動作詳細は「7.6 LACP 併用」を参照してください。



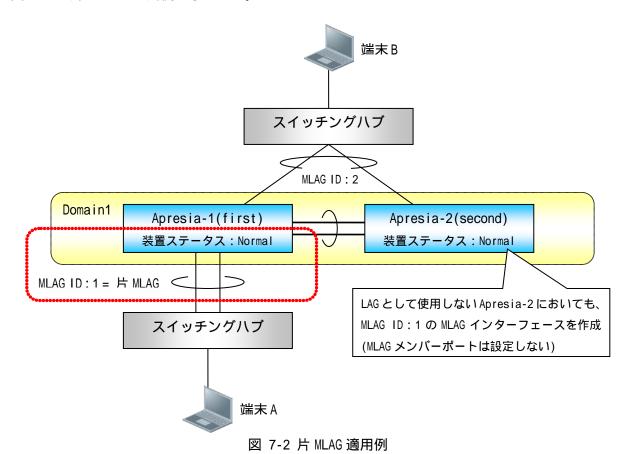
### 7.1 片 MLAG

MLAG 装置ではリンクアグリゲーション(LAG)を使用できません。一方の装置のみで LAG を構成する際も MLAG として設定してください。この構成を片 MLAG と呼びます。

片 MLAG を構成するには、両 MLAG 装置に MLAG インターフェースを作成し、一方の MLAG 装置(LAG を構成したい装置)のみ MLAG メンバーポートを設定します。LAG を構成しない装置では MLAG メンバーポートを設定しないでください。

両 MLAG 装置に MLAG インターフェースを作成することにより、ハローフレームを通じて対向 MLAG 装置の MLAG ID を認識でき、片 MLAG の MLAG メンバーポートを LAG として認識します。

図 7-2 に片 MLAG の適用例を示します。



40/126

### 7.1.1 片 MLAG が確立している場合(対向装置に MLAG インターフェース作成時)

図 7-3 に片 MLAG が確立している場合の MLAG ID ステータスを示します。両 MLAG 装置に MLAG インターフェースを作成し、正常に片 MLAG を構成できている状態であれば、当該片 MLAG メンバーポートのリンク状態に応じて、MLAG ID ステータスの変化(Normal/Down)を確認できます。また、片 MLAG 対向装置の MLAG ID ステータス(Peer Status)は「-」で表示されます。

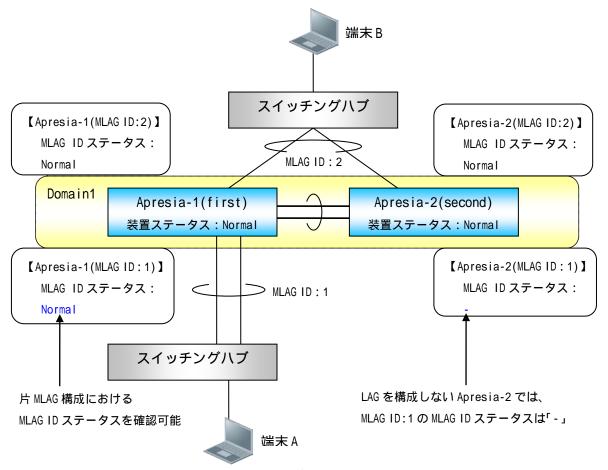


図 7-3 片 MLAG が確立している場合

### 7.1.2 片 MLAG が確立していない場合(対向装置に MLAG インターフェース未作成時)

図 7-4 に片 MLAG が確立していない場合の MLAG ID ステータスを示します。片 MLAG 対向装置に MLAG インターフェースを作成せず、片 MLAG 構成としての設定に不備のある状態では、当該片 MLAG の MLAG ID ステータスは常に Abnormal となり、片 MLAG の全メンバーポートがリンクダウンした場合においても、Down とは表示されなくなります。また、片 MLAG 対向装置の MLAG ID ステータス (Peer Status)は「not configured」と表示されます。

片 MLAG を構成するには、必ず、両 MLAG 装置に MLAG インターフェースを作成し、一方の MLAG 装置(LAG を構成したい装置)のみに MLAG メンバーポートを設定してください。

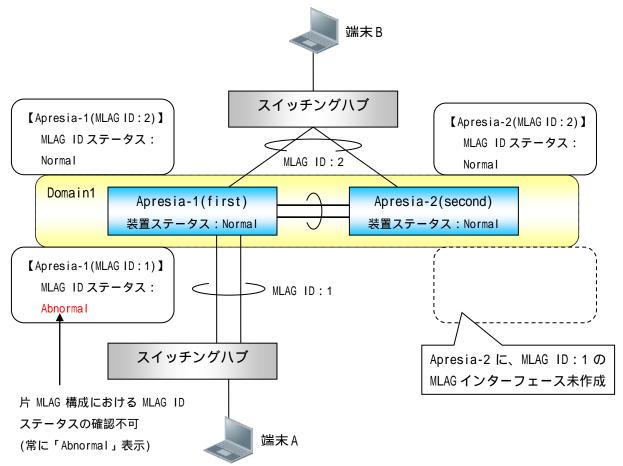


図 7-4 片 MLAG が確立していない場合

#### 7.2 MAC アドレス更新機能

MAC アドレス更新機能は、MLAG 装置に接続されている機器の分散アルゴリズムにより、上りと下りで異なる MLAG 装置を経由する場合等、対向の MLAG 装置では FDB 学習し難く、両 MLAG 装置の FDB 学習状況に偏りが発生する構成において、宛先学習済ユニキャストフレーム(UC)の一部(コピー帯域分)を、ブリッジポートと接続している対向装置にコピー送信し、対向装置の FDB 学習を補助する機能です。

表 7-1に MAC アドレス更新機能の設定コマンドを示します。

コマンド 1)	説明	要再起動	
mlag mac-address-table-update enable	MAC アドレス更新機能を有効にする	-	
mlag mac-address-table-update rate <rate></rate>	コピーする宛先学習済ユニキャスト	-	
	(UC)トラフィックの帯域の上限を設定		
	• RATE: 64~10000000(Kbps)		
	(デフォルト設定は 1000000(Kbps))		

表 7-1 MAC アドレス更新機能の設定コマンド

- 1) MAC アドレス更新機能は、AEOS Ver. 8.18.02 以降のサポートコマンドです。
- 本機能を使用する場合、同一ドメインをもつ MLAG の first/second 装置の両方に設定を行う必要があります。
- パケットフィルター2の"action redirect"の設定がある場合、本機能は使用できません。
- BFS 機能と併用している場合、装置内で何れか 1 つ以上の BFS サブリンクが全断している間はフレームのコピーをしません。このため、本機能が有効であるにも関わらず不要なフラッディングが発生することがあります。
- Apresia15000 シリーズでパケットフィルター2 の policing において、4 グループで使用している場合、本機能は設定できません。
- 本機能が有効の場合、show packet-filter2 policing では、MLAG で使用しているパケットフィルター2 のグループは表示されません。
- **Mac-address-table learning disable 機能が設定されたポートで受信したフレームは、対向装置へコピーされますが FDB の学習は行われません。**
- ↓ 本機能を有効にしても、PING、ARP リプライ等の本装置宛のパケットは対向装置へコピーされません。

#### 7.2.1 MAC アドレス更新機能有効

MAC アドレス更新機能を有効にすると、MLAG 装置で受信したフレームの宛先 MAC アドレスが既に FDB 学習されている場合に、当該フレーム(宛先学習済ユニキャスト(UC))の一部(コピー帯域分)をブリッジポートにコピー送信します。コピーフレームは受信ポート番号を元にブリッジポートで分散され、対向装置はコピーフレームの受信により FDB 学習を行うことが可能になります。また、コピーフレームは FDB 学習のみに使用され、受信した対向装置で廃棄されます。

制御フレーム(MMRP-Plus のハローフレーム等)や宛先 MAC アドレスが自装置のパケット(自局 IP パケット、ARP パケット等)はコピーの対象外です。

本機能は、同一ドメインの両 MLAG 装置で有効にしてください。

図 7-5 に MAC アドレス更新機能有効時の動作を示します。

MACアドレス更新機能有効時のMLAG装置で宛先学習済ユニキャストフレーム(UC)を受信した場合の動作は以下になります。Apresia-2では、Apresia-1からコピー送信されたフレームの受信により、端末 Aを FDB 学習します。

Apresia-2 にて端末 A を FDB 未学習時に、Apresia-1 が端末 A から端末 B 宛のフレームを受信 Apresia-1 では端末 B を FDB 登録済(宛先学習済ユニキャスト(UC))のため、受信フレームの内、コピー帯域分をブリッジポートにコピー送信

Apresia-2 にて端末 A を MLAG ID: 1 宛(FDB 上は Domain1/1(s))として FDB 学習 (コピーフレームは Apresia-2 で廃棄)

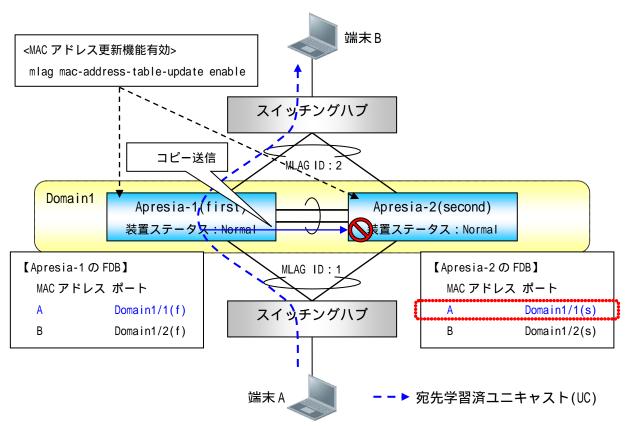
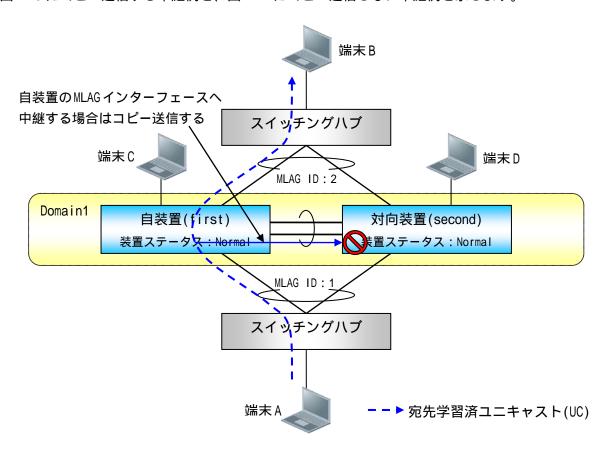
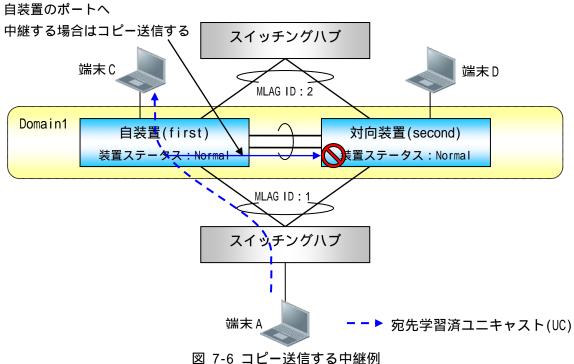


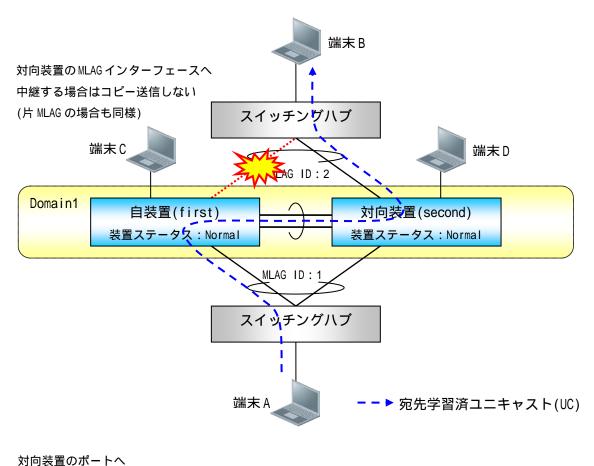
図 7-5 MAC アドレス更新機能有効時の動作

また、宛先学習済ユニキャストフレーム(UC)のコピー送信は、自装置経由の中継時にのみ行います。 対向装置経由の中継時には行いません。

図 7-6 にコピー送信する中継例を、図 7-7 にコピー送信しない中継例を示します。







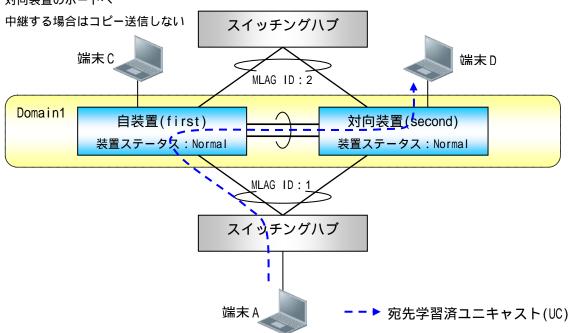


図 7-7 コピー送信しない中継例

図 7-8、図 7-9に MAC アドレス更新機能無効時には対向の MLAG 装置では FDB 学習し難く、両 MLAG 装置の FDB 学習状況に偏りが発生する構成例を示します。

図 7-8 は、物理ポート、または片 MLAG で MLAG 装置に収容されている構成です。この場合、スイッチングハブの LAG 振り分けにより、端末 A->端末 B 宛のフレームが Apresia-2 を経由すると、端末 B->端末 A 宛のフレームは常に Apresia-1 しか経由しないため、両 MLAG 装置の FDB 学習状況に偏りが発生します。

このような構成で MAC アドレス更新機能を有効にすると、Apresia-2 は、端末 B->端末 A 宛通信時の Apresia-1 から送信されるコピーフレームにより端末 B を FDB 学習するため、不要なフラッディングを 最小限に留めることが可能になります。

ポート、または片 MLAG -> MLAG(MLAG ID: 1)への通信が 常に片側の MLAG 装置しか経由しないため、FDB が偏る

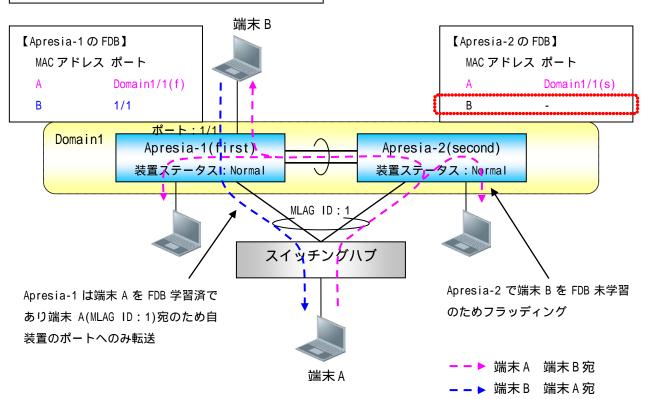
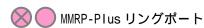


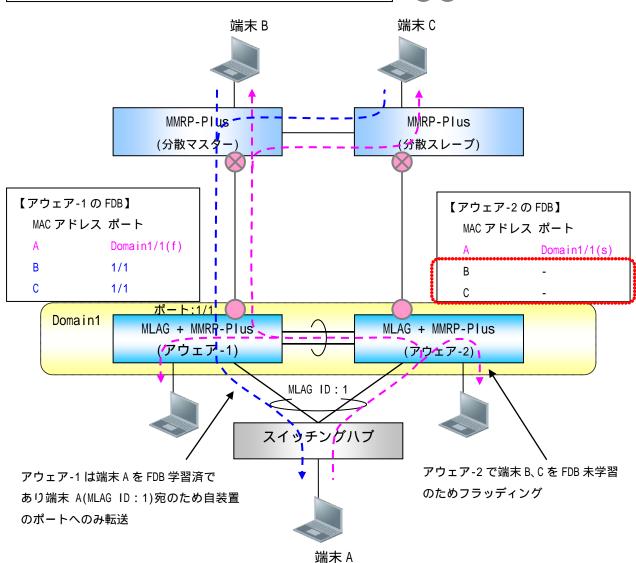
図 7-8 両 MLAG 装置の FDB 学習状況が偏る構成例(1)

図 7-9 は、上位ネットワークに MMRP-Plus を使用している構成です。この場合も、スイッチングハブの LAG 振り分けにより、端末 A->端末 B 宛(または端末 C 宛)のフレームがアウェア-2 を経由すると、端末 B(または端末 C)->端末 A 宛のフレームは常にアウェア-1 しか経由しないため、両 MLAG 装置の FDB 学習状況に偏りが発生します。

このような構成で MAC アドレス更新機能を有効にすると、アウェア-2 は、端末 B(または端末 C)->端末 A 宛通信時のアウェア-1 から送信されるコピーフレームにより端末 B(または端末 C)を FDB 学習するため、不要なフラッディングを最小限に留めることが可能になります。

上位ネットワークが MMRP-Plus の場合も FDB の偏りが発生しやすい 通常、端末毎に VLAN は決定しているため、MMRP-Plus->MLAG(MLAG ID:1)の通信では、端末毎に経由する MLAG 装置は常に片側になる





--▶ 端末 A ->端末 B 宛、または端末 A ->端末 C 宛(マスターVLAN)

--> 端末 B ->端末 A 宛、または端末 C ->端末 A 宛(マスターVLAN)

図 7-9 両 MLAG 装置の FDB 学習状況が偏る構成例(2)

### 7.2.2 コピー帯域の上限

MAC アドレス更新機能による、宛先学習済ユニキャストフレーム(UC)のコピー可能な入力帯域は装置全体で制限されており、デフォルトでは 1000000(Kbps)に設定されています。制限値を超えるトラフィックに関してはコピーされないため、対向装置の FDB 学習は行われません。コピー帯域の上限値は 64~10000000(Kbps)の範囲で変更可能です。

宛先学習済ユニキャスト(UC)用の送信キュー(UC1~UC8)と、それ以外のフレーム(ブロードキャスト(BC)、マルチキャスト(MC)、宛先不明ユニキャスト(DLF))用の送信キュー(MC2/MC4/MC6/MC8)が存在する Apresia15000 シリーズでは、本機能によりブリッジポートにコピーされるフレームは、宛先学習済ユニキャスト以外(BC/MC/DLF)の送信キュー(MC2/MC4/MC6/MC8)から送信されます。また、宛先ポートから送信されるユーザートラフィックも、コピー帯域分に関しては宛先学習済ユニキャスト以外の送信キューから送信されます。送信キュー優先度は、QoS(qos mapping)、またはパケットフィルター2 の action qos の設定に従うため、コピーフレームとコピー帯域分のユーザートラフィックは同一優先度の送信キューを使用することになります。同様に、送信キューの各種設定(qos q-group)も、当該フレームに対しては、MC2/MC4/MC6/MC8 で考慮する必要があります。

コピーフレームが優先され、ユーザートラフィックにロスが発生するような場合には、コピー帯域の 上限値を調整してください。

図 7-10 に Apresia15000 シリーズにおけるコピー送信動作を示します。

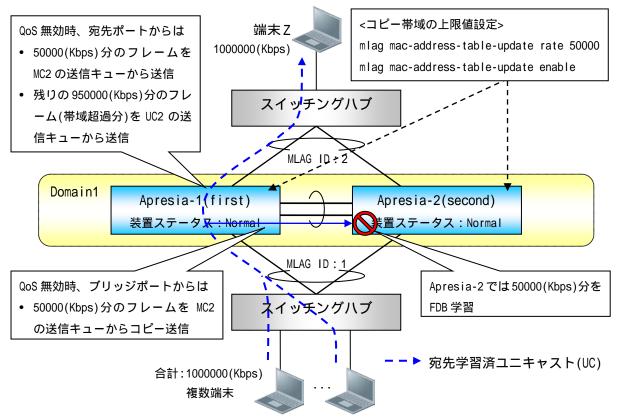


図 7-10 Apresia15000 シリーズにおけるコピー送信動作

### 7.2.3 中継パス制限機能との併用制限

MAC アドレス更新機能と中継パス制限機能の併用時、中継パス制限機能によりブリッジポートへの中継が制限されている場合においても、MAC アドレス更新機能によりコピー送信される宛先学習済ユニキャストフレーム(UC)は制限できません。

図 7-11 に中継パス制限機能併用時の動作を示します。

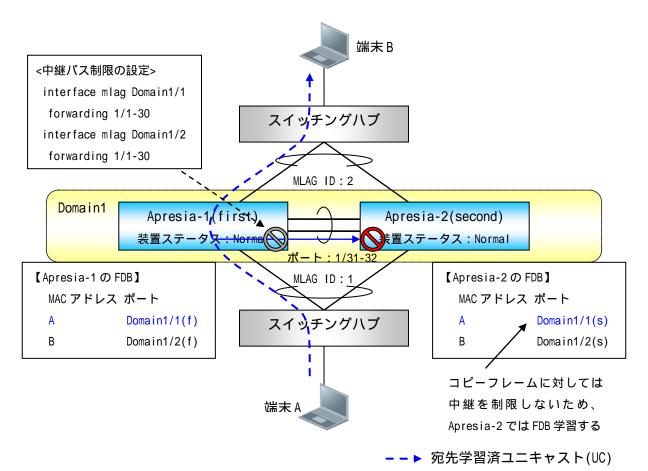


図 7-11 中継パス制限機能併用時の動作

### 7.2.4 FDB 自動学習無効機能との併用制限

MAC アドレス更新機能と FDB 自動学習無効機能の併用時、FDB 自動学習を無効に設定したポートで受信した宛先学習済ユニキャストフレーム(UC)は、ブリッジポートへコピー送信されますが、コピーフレームを受信した対向装置では FDB 学習されません。両 MLAG 装置で FDB 学習を無効にします。

図 7-12 に FDB 自動学習無効機能併用時の動作を示します。

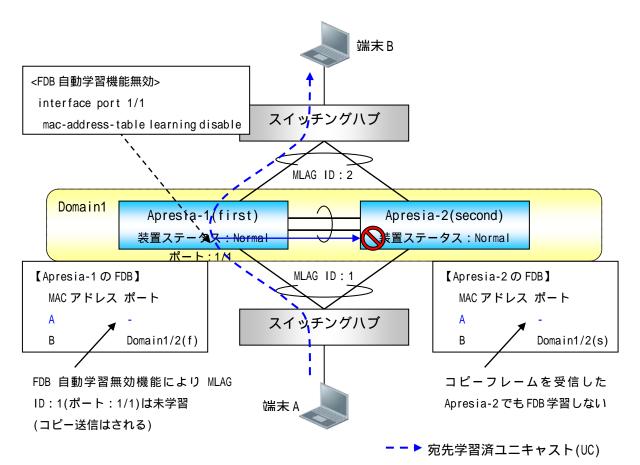


図 7-12 FDB 自動学習無効機能併用時の動作

### 7.2.5 BFS 機能との併用制限

図 7-13~図 7-15 に BFS 機能併用時(マルチシャーシサブリンク)の動作を示します。

MAC アドレス更新機能と BFS 機能の併用時、BFS サブリンク障害により片側の MLAG 装置から同一 BFS サブリンクの全メンバーポートがリンクダウンした場合には、当該 MLAG 装置において、障害の発生した BFS サブリンクの属する BFS リンク宛てフレームを、ブリッジポートへはコピー送信しません。そのため、対向装置で FDB 学習できずにフラッディングし続ける状況も起こり得ます(図 7-15 参照)。これは、BFS サブリンク障害時に、ブリッジポート経由の転送が許可されることにより、コピーフレームとの重複送信を防ぐための動作です。

BFS の用語や動作については、別冊の「BFS アプリケーションノート」を参照してください。

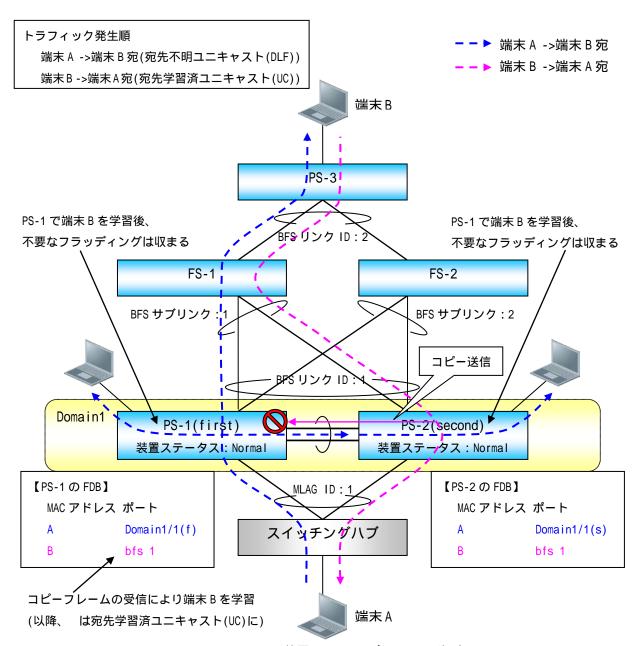


図 7-13 両 MLAG 装置の BFS サブリンク正常時

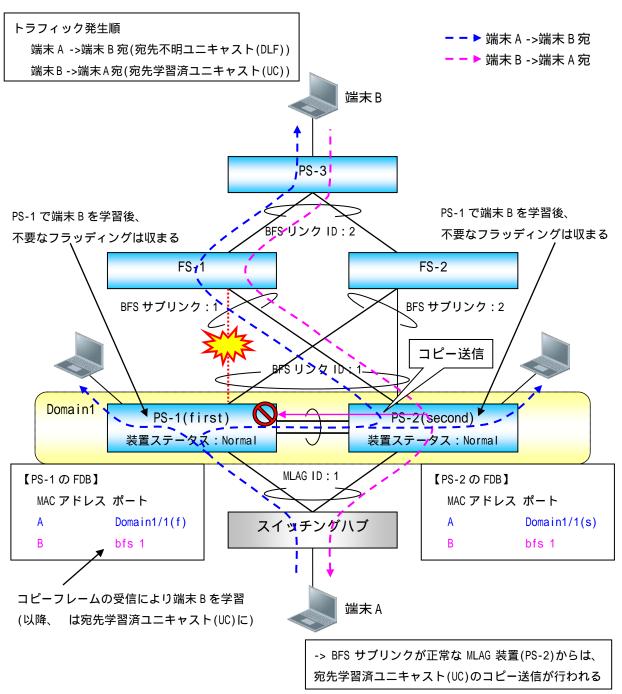


図 7-14 PS-1 の BFS サブリンク障害時(コピー送信する中継例)

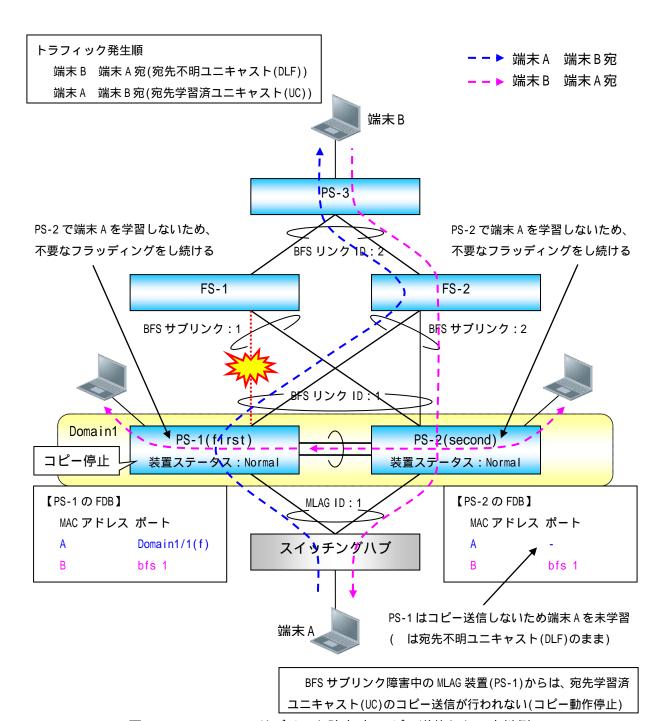


図 7-15 PS-1 の BFS サブリンク障害時(コピー送信しない中継例)

#### 7.3 MAC アドレス同期機能

MAC アドレス同期機能は、MLAG 装置間で FDB 同期フレームの送受信を行うことで、FDB エントリーの同期を行う機能です。

表 7-2 に MAC アドレス同期機能の設定コマンドを示します。

表 7-2 MAC アドレス同期機能の設定コマンド

コマンド 1)	説明	要再起動
mlag mac-address-table-sync enable	MAC アドレス同期機能を有効にする	-

- 1) MAC アドレス同期機能は、AEOS Ver. 8.29.01 以降のサポートコマンドです。
- 本機能を有効にする場合は、同一ドメインをもつ MLAG の first/second 装置両方に設定してください。
- 本機能を有効にする場合、mac-address-table aging-time コマンドのエージング時間を 300 秒以上にしてください。
- 本機能を使用することで、FDB の登録件数に応じて CPU 負荷が上昇します。本設定を行う前にエージング時間(mac-address-table aging-time コマンド)を長くすることで、CPU への負荷を抑制できます。ただし、FDB の同期にかかる時間もあわせて長くなります。
- 本機能が有効の間は、CPU 高負荷状態だと FDB のエージング時間が設定値より長くなる場合があります。
- AccessDefender 機能との併用は未サポートです。AccessDefender 機能を使用する場合は、mlag mac-address-table-update enable コマンドを使用してください。

#### 7.3.1 MAC アドレス同期機能有効

MAC アドレス同期機能を有効にすると、自装置の FDB に登録されている全てのエントリーに対応した同期フレームを、ブリッジポートと接続している対向装置へ順次送信します。対向装置は、この同期フレームを受信することで、自装置の FDB が同期されます。FDB の同期は、FDB のエージング時間の周期で行われ、デフォルトは 300 秒です。mac-address-table aging-time コマンドでエージング時間を変更すると、FDB 同期の周期もそれに合わせて変更されます。

図 7-16 に MAC アドレス同期機能有効時の動作を示します。

MAC アドレス同期機能有効時の動作は以下になります。ここで、端末 A->端末 B 間の通信は Apresia-1 のみを経由し、Apresia-2 では直接通信を受信、転送しないものとします。

Apresia-1 は、FDB 同期の各周期で装置内の FDB エントリーをもとに FDB 同期フレームを作成 Apresia-2 へ FDB 同期フレームを送信

Apresia-2 は、Apresia-1 からの FDB 同期フレームを受信することで、装置間で FDB が同期(同期 フレームは Apresia-2 にて廃棄)

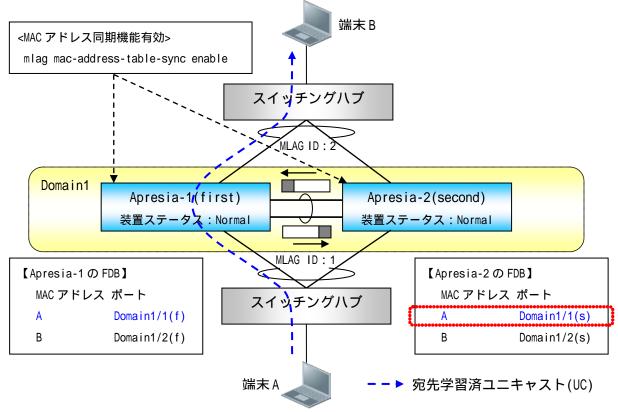


図 7-16 MAC アドレス同期機能有効時の動作

### 7.3.2 MAC アドレス更新機能との違い

MAC アドレス更新機能と本機能は、ともに MLAG 装置間の FDB 学習状態の偏りを無くし、ユニキャスト 通信の不要なフラッディングを防止するためのものです。なお、MAC アドレス更新機能と MAC アドレス 同期機能は併用することができます。

表 7-3に、MACアドレス更新機能との違いを示します。

表 7-3 MAC アドレス更新機能との違い

	MAC アドレス更新機能	MAC アドレス同期機能
使用するブリッジポートの帯域	多川	少ない
装置の CPU 負荷	低い	高い
パケット受信から MLAG 対向装置	即時コピーフレームを送信	最大 450 秒(FDB エージング時間
へのコピーフレーム/同期フレー		がデフォルトの場合)
ム送信までの時間		
同期の網羅性	コピー帯域の上限を超過したト	全ての FDB エントリーが同期さ
	ラフィックは同期されない	れる

#### 7.4 中継パス制限機能

MLAG インターフェースに対して中継パス制限の設定を行った場合、受信 MLAG ID が同一の対向装置の MLAG インターフェースで受信し、本装置のブリッジポートへ転送されたフレームに対しても、中継可能 ポートは本装置の設定に従います。

- MLAG ブリッジポートに対する中継を制限すると、当該ポートで受信したフレームを対向装置の FDB で学習できず、ブリッジポート経由のユニキャスト通信に影響を及ぼす場合があります。MLAG 動作中の本機能使用時は、意図した場合を除き、ブリッジポートを中継可能ポートに設定することを推奨します。但し、mlag mac-address-table-update enable が有効であれば、ブリッジポートに対する中継が制限されていてもコピーフレームが送信され、対向装置で FDB の学習が行われます。
- 中継先に LAG/MLAG インターフェース、及び MLAG ブリッジポートを指定する場合、当該 LAG/MLAG インターフェース、及び MLAG ブリッジポートの全メンバーポートを設定してください。

#### 7.4.1 中継パス制限設定

MLAG を構成する両方の装置に、同一の MLAG ID を指定した中継パス制限の設定を行うことで、MLAG 装置間で中継パス制限動作を連携させることができます。

図 7-17 に中継パス制限設定時の動作を示します。

Apresia-1、Apresia-2の両方に、MLAG ID: 1から受信したトラフィックを MLAG ID: 3(両装置のポート: 1/3)およびブリッジポートへのみ中継する設定を行った場合、MLAG ID: 1から MLAG ID: 2(Apresia-1のポート: 1/2)への中継を抑止します。この状態で Apresia-1のポート: 1/2 がリンクダウンした場合、MLAG ID: 1から MLAG ID: 2へのトラフィックはブリッジポート経由に切り替わりますが、この場合でも Apresia-2のほうで MLAG ID: 2への中継を抑止することができます。

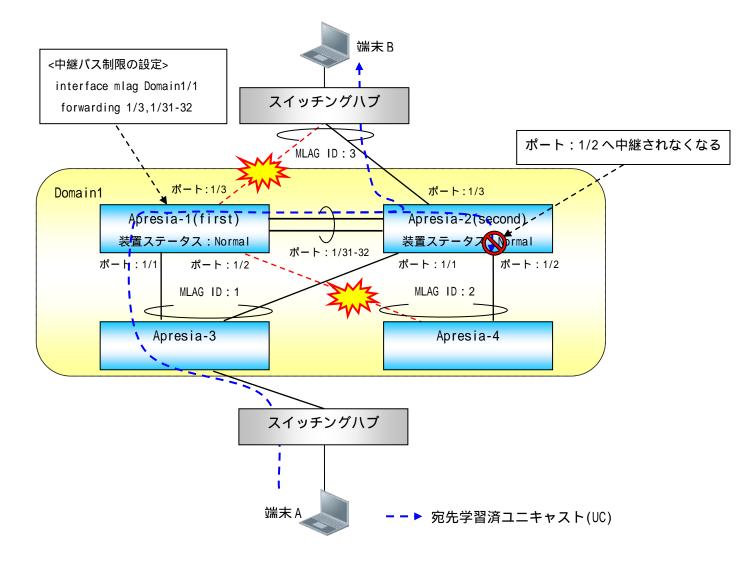


図 7-17 中継パス制限設定時の動作

# 7.5 装置跨ぎ分散機能(Apresia15000 シリーズのみ)

通常、宛先端末が MLAG インターフェースに接続されている場合は、図 6-1、図 6-2 の通りに、常に同一 MLAG 装置内で中継し、MLAG の装置を跨いで分散されることはありませんが、Apresia15000 シリーズでは、設定により MLAG の装置を跨いで分散させることができます。

表 7-4 に装置跨ぎ分散機能の設定コマンドを示します。

衣 /-4 衣且跨さガ散機能の設定コマント			
コマンド 1)	説明	要再起動	
mlag forwarding-mode all-member-port	宛先学習済ユニキャスト(UC)のみ装置	-	
	跨ぎ分散機能を有効にする		
mlag forwarding-mode all-member-port	UC 以外のフレーム(BC/MC/DLF)を含む全	-	
include-nonucast	トラフィックに対する装置跨ぎ分散を		
	有効にする		

表 7-4 装置跨ぎ分散機能の設定コマンド

1) 装置跨ぎ分散機能は、AEOS Ver. 8.32.01 以降のサポートコマンドです。

### 7.5.1 装置跨ぎ分散機能有効時の動作(正常時)

本コマンドを設定した装置は、対象トラフィックを MLAG インターフェースへ中継する場合、転送先のポートを自装置の MLAG インターフェース、及びブリッジポートと接続している対向装置の MLAG インターフェースのメンバーポートから選択します。

図 7-18 に装置跨ぎ分散機能有効時の UC トラフィックの中継動作例、図 7-19 に装置跨ぎ分散モード 有効時の非 UC トラフィックの中継動作例を示します。

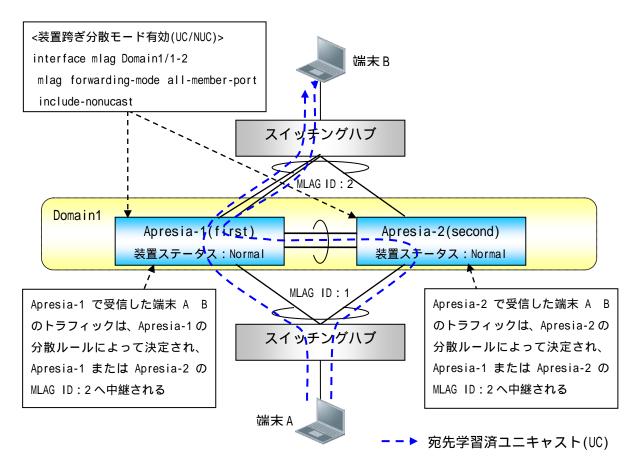


図 7-18 装置跨ぎ分散機能有効時の UC トラフィック中継動作例

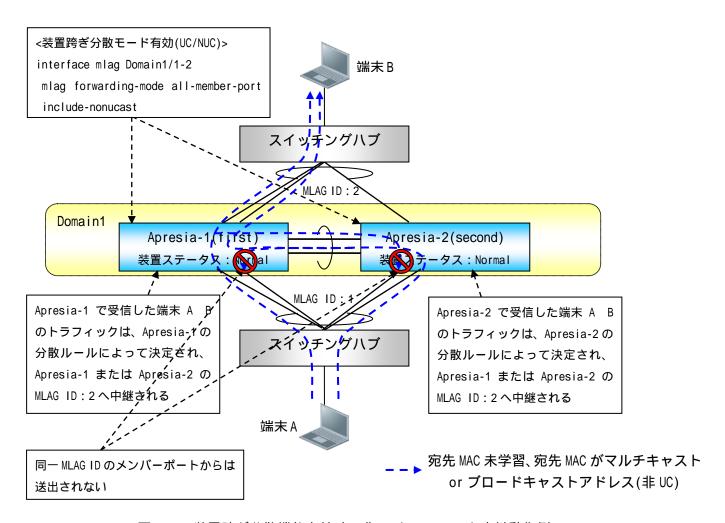


図 7-19 装置跨ぎ分散機能有効時の非 UC トラフィック中継動作例

# 7.5.2 装置跨ぎ分散機能有効時の動作(障害時)

片方の装置の MLAG インターフェースで障害が発生した場合は、全ての通信が、もう一方の MLAG 装置を経由した経路に切替わります。

図 7-20 に障害時の UC トラフィック中継動作例、図 7-21 に装置跨ぎ分散モード有効(UC/NUC)/障害時非 UC 動作を示します。

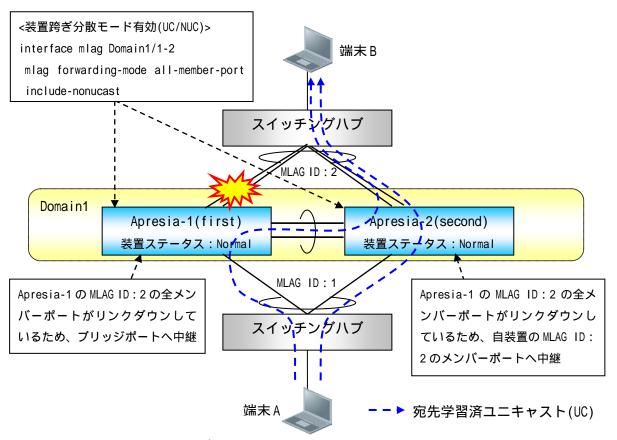


図 7-20 装置跨ぎ分散機能有効時の UC トラフィック中継動作例(障害時)

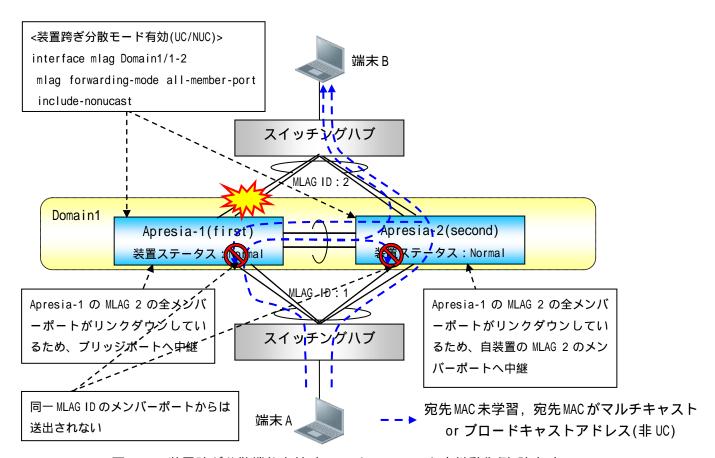


図 7-21 装置跨ぎ分散機能有効時の UC トラフィック中継動作例(障害時)

#### 7.6 LACP 併用

LACP 併用時の MLAG は、AEOS Ver. 8.18 以降に仕様変更が行われています。AEOS Ver. 8.17 以前は、MLAG 装置を区別するために設定する、first と second のプライオリティにより動作の優劣が決定し、装置ステータスが Normal の場合には、first 装置の LACP 設定値を両 MLAG 装置で同期させることで対向 LACP 装置との冗長化接続を行っていましたが、AEOS Ver. 8.18 以降は、両 MLAG 装置で共通の LACP 設定値を使用することで対向 LACP 装置との冗長化接続を行います。

本書では、AEOS Ver. 8.17 以前と AEOS Ver. 8.18 以降の動作仕様を分けて記述します。 表 7-5 に MLAG で使用する LACP 関連の設定コマンドを示します。

表 7-5 MLAG で使用する LACP 関連の設定コマンド

コマンド	説明	要再起動
mlag <mlagno> lacp mode active   passive</mlagno>	MLAG インターフェースにメンバーポートを	-
	設定し、LACP で動作させる	
mlag lacp-static-system-id <macaddr> 1)</macaddr>	MLAG インターフェースを LACP で動作させ	-
	る場合に使用するシステム ID を変更する	
lacp system-priority <priority></priority>	LACP の装置優先度を設定	-
	• 値が小さいほど優先度が高い	
	• PRIORITY: 1 ~ 65535	
	(デフォルト設定は 32768)	
lacp port-priority <priority></priority>	LACP のポート優先度を設定	-
	• 値が小さいほど優先度が高い	
	• PRIORITY: 1 ~ 65535	
	(デフォルト設定は 32768)	
lacp timeout short	LACPDU の受信タイムアウト時間を Short(3	-
	秒)に設定(デフォルト設定は Long(90 秒))	

<sup>1)</sup> AEOS Ver. 8.18.02 以降のサポートコマンドです。

MLAG インターフェースで LACP を使用する場合、1 つの MLAG ID に対する設定ポート数は、2 装置合計で 8 ポートまでをサポートしています。

### 7.6.1 装置優先度(system-priority)

<AEOS Ver. 8.18 以降の動作仕様>

AEOS Ver. 8.18 以降の装置優先度(system-priority)は、MLAG 装置ステータスに関わらず、設定値が異なる場合においても、2 装置間では設定値の同期を行いません。

show lacp sys-id コマンド、及び show mlag domain lacp sys-id における表示では、自装置(first/second 装置それぞれ)の設定情報が表示されます。



LACP の優先度(system-priority)は同期しません。LACP の優先度は MLAG を構成する 2 装置間で同一のものを使用するようにしてください。

<AEOS Ver. 8.17 以前の動作仕様>

表 7-6 に AEOS Ver. 8.17 以前の両 MLAG 装置で使用する LACP の装置優先度(system-priority)を示します。 MLAG 装置ステータスが Normal の場合、system-priority は、MLAG を構成する 2 装置間で同期します。

show lacp sys-id コマンドにおける表示も同様に、説明欄に記載の情報が表示されます。

表 7-6 AEOS Ver. 8.17 以前の MLAG 装置で使用する装置優先度(system-priority)

X · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
MLAG 装置種別	装置ステータス	説明
first 装置	Normal	自装置(first 装置)の system-priority を使用する
	Normal 以外	
second 装置	Normal	first 装置の system-priority を使用する
	Normal 以外	自装置(second 装置)の system-priority を使用する

### 7.6.2 システム ID(sys-id)

<AEOS Ver. 8.18 以降の動作仕様>

AEOS Ver. 8.18 以降の両 MLAG 装置では、共通のシステム ID(sys-id)で動作させる必要があります。 デフォルトではドメイン名を元に自動生成された sys-id が設定されています。そのため、MLAG を構成する 2 装置においては同一の sys-id が使用されます。

また、 $mlag\ lacp\text{-}static\text{-}system\text{-}id\ コマンドにより、任意の sys\text{-}id を設定することも可能です。コマンド設定する場合には、<math>mlag\ et a$  を構成する 2 装置で同一の sys-id を設定してください。設定値が異なる場合においても、2 装置間では sys-id の同期を行いません。

表 7-7 に AEOS Ver. 8.18 以降の装置単体に適用される sys-id を示します。

show lacp sys-id コマンド、及び show mlag domain lacp sys-id における表示では、自装置(first/second 装置それぞれ)の設定情報が表示されます。

祝 7-7 ALOO VEI. 0.10 以降の农苴干体に過用されるノスノム 10(3y3-14)		
MLAG 有効/無効	システム ID	説明
	変更設定 1)	
MLAG 有効時	設定なし	ドメイン名から自動生成された sys-id が適用される
(動作中)	設定あり	コマンド設定した sys-id が適用される
MLAG 無効時	設定なし	常に装置の MAC アドレスが sys-id に適用される 2)
(非動作中)	設定あり	

表 7-7 AEOS Ver. 8.18 以降の装置単体に適用されるシステム ID(sys-id)

- 1) mlag lacp-static-system-id コマンドの設定の有無を示します。
- 2) link-aggregation lacp の場合、システム ID 変更の設定は動作に反映されません。
- 自動生成されたシステム ID が対向 LACP 装置のシステム ID と重複する場合、LACP が 誤動作する場合があります。この場合は mlag lacp-static-system-id コマンドでシ ステム ID を変更してください。
- 対向 LACP 装置が MLAG の場合、対向 LACP 装置と同一の MLAG ドメイン名を使用していると、システム ID が重複し、LACP が誤動作する場合があります。
- Mlag lacp-static-system-id コマンドにより指定されたシステム ID が対向 LACP 装置のシステム ID と重複する場合、LACP が誤動作する場合があります。必ず接続する対向 LACP 装置のシステム ID をご確認の上、対向 LACP 装置と異なるシステム ID を使用するようにしてください。
- 運用中に mlag lacp-static-system-id コマンドの設定を変更した場合、LACP リンクの初期化が行われるため、LACP ポートが 90 秒程度通信断となります。

### <AEOS Ver. 8.17 以前の動作仕様>

表 7-8 に AEOS Ver. 8.17 以前の両 MLAG 装置で使用するシステム ID(sys-id)を示します。MLAG 装置ステータスが Normal の場合、sys-id は、MLAG を構成する 2 装置間で同期します。

show lacp sys-id コマンドにおける表示も同様に、説明欄に記載の情報が表示されます。

表 7-8 AEOS Ver. 8.17 以前の MLAG 装置で使用するシステム ID(sys-id)

MLAG 装置種別	装置ステータス	説明
first 装置	Normal	自装置(first 装置)の MAC アドレスを使用する
	Normal 以外	
second 装置	Normal	first 装置の MAC アドレスを使用する
	Normal 以外	自装置(second 装置)の MAC アドレスを使用する

### 7.6.3 ポート優先度(port-priority)

<AEOS Ver. 8.17 以前、AEOS Ver. 8.18 以降(共通)の動作仕様>

表 7-9 に LACP 併用時の MLAG における、アクティブポート選定の優先度を示します。 MLAG を構成する 2 装置はポート優先度(port-priority)を共有し、2 装置間でアクティブポートを選定します。

表 7-9 アクティブポート選定の優先度

優先順位	説明
1	ポート優先度(port-priority の小さいポートを優先)
2	装置優先度(first 装置のポートを優先)
3	ポート番号(若番ポートを優先)

表 7-10 に MLAG 正常時に送信される LACPDU に含まれるポート番号を示します。port-priority が同一の場合、このポート番号によりアクティブポートを選定するため、結果として、first 装置のポートが優先されます。

表 7-10 LACPDU に含まれるポート番号

first 装置	second 装置
10100 + ポート番号	10200 + ポート番号

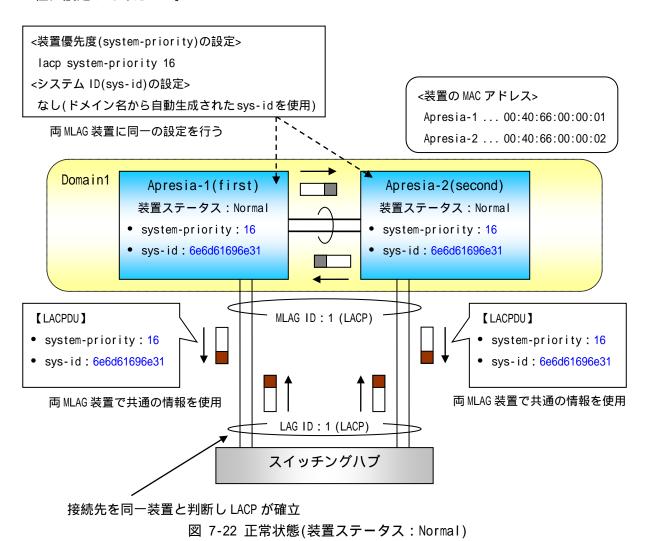
#### 7.6.4 正常状態

LACP 併用時の両 MLAG 装置では、ハローフレームにより、system-priority、sys-id、port-priority の情報を交換しています。AEOS Ver. 8.17 以前は、交換した情報を元に LACP 設定の同期(障害発生時には自装置の設定に戻す)処理を行っていましたが、AEOS Ver. 8.18 以降は両 MLAG 装置を同一の LACP 設定で動作させるため、これらの情報による同期処理は行いません。

#### <AEOS Ver. 8.18 以降の動作仕様>

AEOS Ver. 8.18 以降は、sys-id に装置の MAC アドレスを使用しません。あらかじめ、両 MLAG 装置の system-priority と sys-id を同一の値に設定しておくことにより、装置ステータスに関わらず、両 MLAG 装置からは、常に共通の LACPDU を送信します。対向の LACP 設定装置では、各 LAG メンバーポートの接続先が同一装置であると判断することにより、LACP が確立します。

図 7-22 に装置ステータスが Normal の場合の動作を示します。図の例では自動生成による sys-id を使用していますが、mlag lacp-static-system-id コマンドで変更する場合には、sys-id も両 MLAG で同一の値に設定してください。

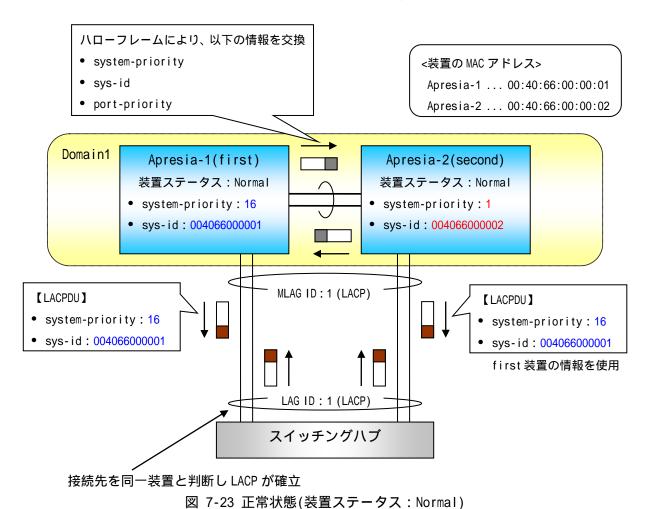


68/126

#### <AEOS Ver. 8.17 以前の動作仕様>

AEOS Ver. 8.17 以前は、sys-id に装置の MAC アドレスを使用します。system-priority も両 MLAG 装置で同一の設定値にする必要はありませんが、装置ステータスが Normal の場合、second 装置は、自装置の設定に関わらず、ハローフレームで交換した情報を元に first 装置の system-priority、sys-id を使用して LACPDU を送信します。対向の LACP 設定装置では、各 LAG メンバーポートの接続先が同一装置であると判断することにより、LACP が確立します。

図 7-23 に装置ステータスが Normal の場合の動作を示します。



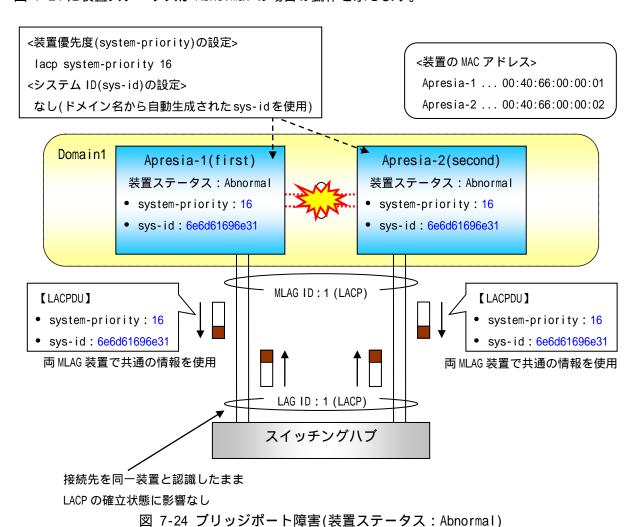
69/126

## 7.6.5 ブリッジポート障害時

<AEOS Ver. 8.18 以降の動作仕様>

AEOS Ver. 8.18 以降は、常に共通の LACPDU を送信させるため、ブリッジポート障害等により、装置ステータスが Normal 以外に遷移している場合でも、対向の LACP 設定装置では、各 LAG メンバーポートの接続先が同一装置であると認識したまま、LACP の確立状態に影響はありません。LACP 未併用のブリッジポート障害時と同等の通信を行うことが可能です。詳細は「6.4 ブリッジポート障害時」を参照してください。

図 7-24 に装置ステータスが Abnormal の場合の動作を示します。

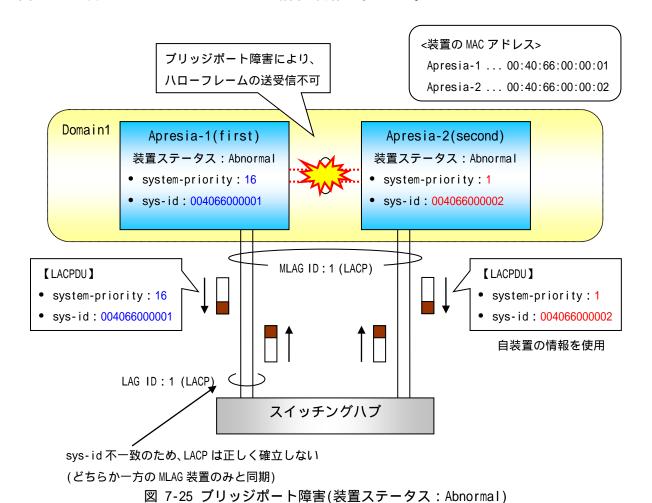


70/126

<AEOS Ver. 8.17 以前の動作仕様>

AEOS Ver. 8.17 以前は、ブリッジポート障害等により、装置ステータスが Normal 以外に遷移した場合、second 装置は、自装置の system-priority、sys-id を使用して LACPDU を送信します。対向の LACP 設定装置では、各 LAG メンバーポートの接続先が異なる(sys-id の不一致)ため、LACP は正しく確立しません。どちらか一方の MLAG 装置のみと同期します。

図 7-25 に装置ステータスが Abnormal の場合の動作を示します。



#### 7.6.6 装置障害時

<AEOS Ver. 8.18 以降の動作仕様>

AEOS Ver. 8.18 以降は、前述までの通り、電源断障害等により一方の MLAG 装置と同期を取れなくなった場合でも、両 MLAG 装置間で system-priority、sys-id の変更は行いません。そのため、first 装置、または second 装置のどちらに障害が発生した場合においても、切替りは通常の LACP 縮退動作と同様であり、切替り時間も LACP 縮退時間と同等になります。

図 7-26 に first 装置に障害が発生した場合の動作を示します。

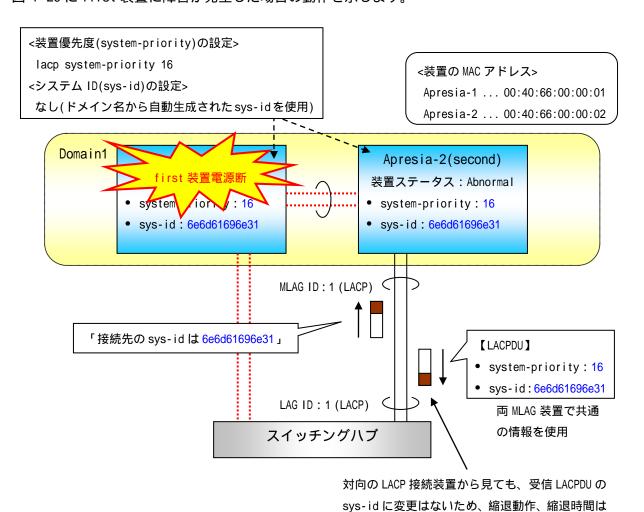
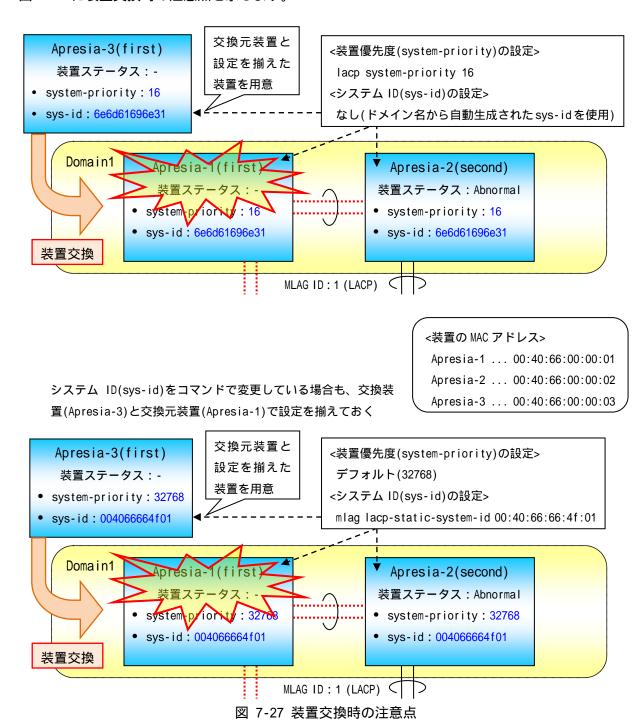


図 7-26 first 装置障害

通常の LACP 縮退時と同等

装置交換時においては、交換用の装置に対して、ドメイン名、プライオリティの他、sys-id、system-priorityの設定も、あらかじめ、交換元装置の設定値と揃えた状態で用意しておき、MLAG 構成に適用してください。

図 7-27 に装置交換時の注意点を示します。



<AEOS Ver. 8.17 以前の動作仕様>

AEOS Ver. 8.17 以前は、電源断障害等により一方の MLAG 装置と同期を取れなくなった場合、second 装置の障害発生時には、first 装置は自装置の system-priority、sys-id を使用し続けるため、切替りは通常の LACP 縮退動作と同様であり、切替り時間も LACP 縮退時間と同等になります。

しかし、first 装置の障害発生時には、second 装置は first 装置の system-priority、sys-id を、自装置の設定値に戻します。second 装置は、一旦、状態をスタンバイに遷移させた後、自装置の情報で LACPDU の送信を再開しますが、対向の LACP 設定装置では、受信した LACPDU の sys-id が変更されていることにより、当該 MLAG ID からの LACPDU とは認識せず、first 装置との接続を続けようとします。そのため、second 装置のスタンバイ遷移による通信停止状態から、対向の LACP 設定装置で LACPDU の受信タイムアウトにより、LACPDU の情報がリセットされ、second 装置との LACP 接続が確立するまでの間は通信断となり、切替り時間は second 装置の障害発生時に比べ、大幅に長くなります(LACPDU の受信タイムアウトが Long の場合、90 秒程度)。

図 7-28 に first 装置に障害が発生した場合の動作を示します。

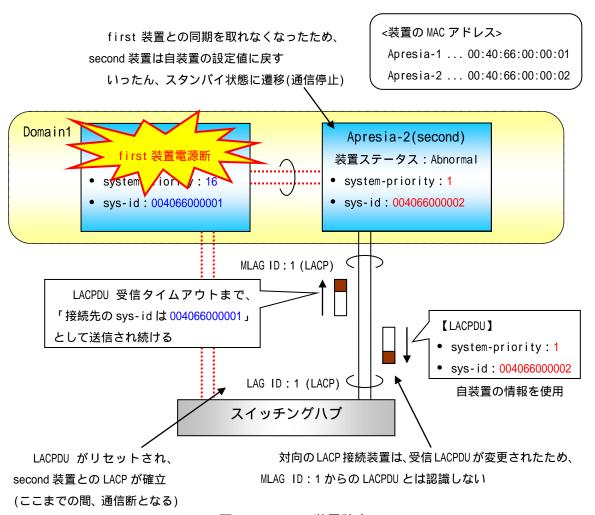


図 7-28 first 装置障害

## 7.6.7 バージョンアップ手順

前項までの説明の通り、LACP 併用時の MLAG は、AEOS Ver. 8.17 以前と AEOS Ver. 8.18 以降で動作が異なります。そのため、LACP 併用時においては、AEOS Ver. 8.17 以前から AEOS Ver. 8.18 以降へのバージョンアップ手順にも注意が必要です。

以下に、通信断時間を最小に留めるためのバージョンアップ手順例を示します。この場合、バージョンアップ後のシステム ID(sys-id)は、first 装置の MAC アドレスを固定で使用することになります。

second 装置の MLAG(LACP) メンバーポートを全て shutdown

second 装置をバージョンアップし、再起動

second 装置のシステム ID(sys-id)を first 装置の MAC アドレスに変更

second 装置の MLAG(LACP) メンバーポートの shutdown を全て解除

first 装置の MLAG(LACP)メンバーポートを全て shutdown

first 装置をバージョンアップし、再起動

first 装置のシステム ID(sys-id)を first 装置の MAC アドレスに変更

first 装置の MLAG(LACP) メンバーポートの shutdown を全て解除

#### 7.7 MMRP-Plus 併用

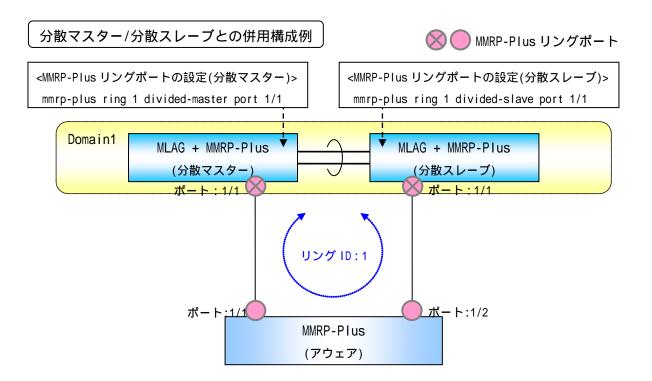
MLAG 装置で MMRP-Plus を使用する場合には、以下に示す構成時のみ併用が可能です。

- 2台の MLAG 装置を、それぞれ、分散マスター/分散スレーブとして使用する構成
- 2台の MLAG 装置を、どちらも、ブリッジポートを跨いだアウェアとして使用する構成

MMRP-Plus のリングポートには、物理ポート、または MLAG インターフェースを指定可能です。分散マスター/分散スレーブとして併用する場合、ブリッジポートを跨いだアウェアとして使用する場合のいずれも、MMRP-Plus リングポートには、各 MLAG 装置に対し、1 インターフェースのみを指定します。また、MMRP-Plus リングポートに MLAG インターフェースを指定する場合には、リングポートに指定するMLAG を片 MLAG で動作させておく必要があります(対向 MLAG 装置にメンバーポートの存在しない MLAG インターフェースを指定)。

図 7-29、図 7-30 に MLAG と MMRP-Plus の併用構成例を示します。

実際の MMRP-Plus 構成への適用例、及び MMRP-Plus の用語や動作については、別冊の「MMRP-Plus アプリケーションノート」を参照してください。



MMRP-Plus リングポートに MLAG インターフェースを指定する場合は、片 MLAG でリングを構成する

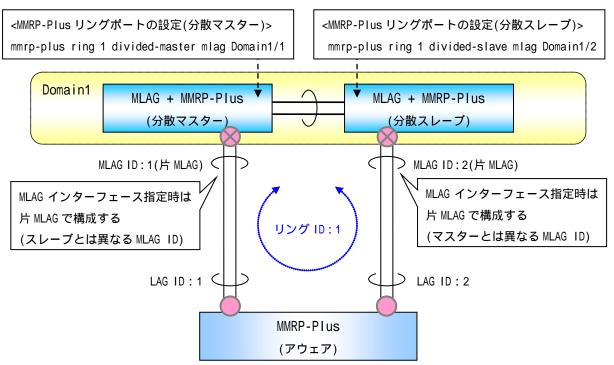
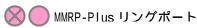
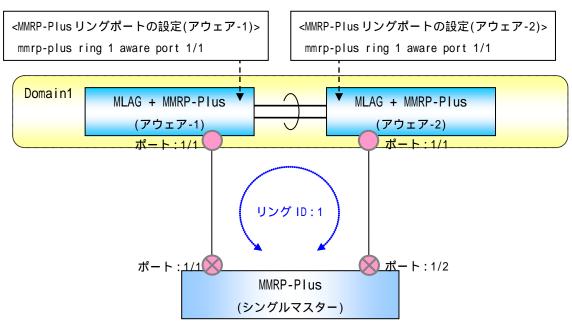


図 7-29 MLAG と分散マスター/分散スレーブの併用構成例

## ブリッジポートを跨いだアウェアとの併用構成例





MMRP-Plus リングポートに MLAG インターフェースを指定する場合は、片 MLAG でリングを構成する

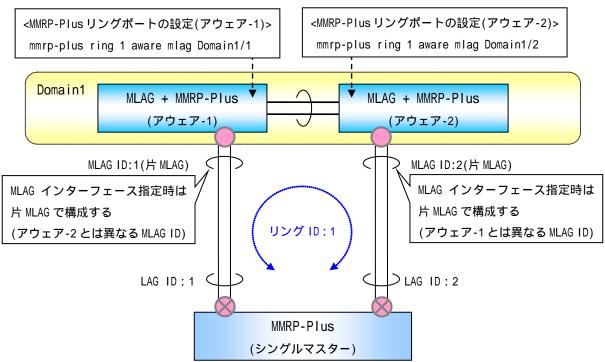


図 7-30 MLAG とブリッジポートを跨いだアウェアの併用構成例

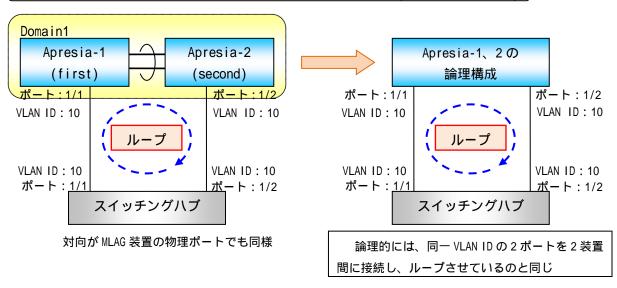
#### 7.7.1 MMRP-Plus 併用時の注意事項

それぞれの MLAG 装置に対して、同一 VLAN ID に割り当てた物理ポートを対向のスイッチングハブ(または、異なるドメイン名の MLAG 装置)に接続する構成や、同一 VLAN ID に割り当てた片 MLAG 設定の MLAG インターフェースを対向のスイッチングハブ(または、異なるドメイン名の MLAG 装置)に接続する構成は、MMRP-Plus 併用時のみサポートしています。

MMRP-Plus 設定のない状態でこのような構成を組んだ場合にはループ構成となるため、MMRP-Plus 併用構成への適用前には、十分に注意してください。

図 7-31 にループ構成となる未サポート構成を示します。

## 同一 VLAN ID の物理ポートを対向装置に接続したループ構成(MMRP-Plus 未併用)



#### 同一 VLAN ID の片 MLAG インターフェースを対向装置に接続したループ構成(MMRP-Plus 未併用)

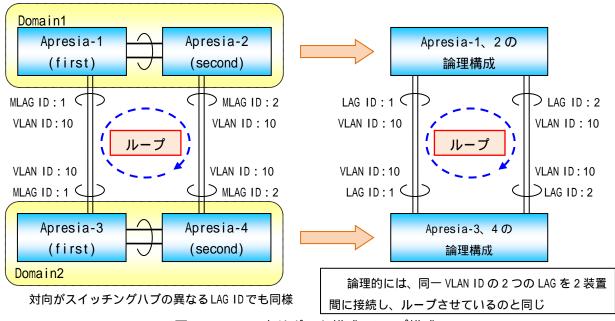


図 7-31 MLAG 未サポート構成(ループ構成)

## 8. コマンド

## 8.1 設定コマンド

MLAG を有効とするには以下コマンド(ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティ、MLAG 有効)の設定が必要です。ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティ、有効/無効の設定は再起動後に適用されます。設定後に装置を再起動してください。

- mlag domain <DOMAIN> bridge-port <PORTRANGE> first | second
- mlag enable

表 8-1 に MLAG の設定コマンド一覧を示します。

表 8-1 MLAG 設定コマンド一覧

コマンド	説明	要再起動
mlag group <group></group>	MLAG で使用するパケットフィルター2の	-
	グループ番号を指定	
mlag domain <domain></domain>	ドメイン名、ブリッジポート、プライオ	
bridge-port <portrange> first   second</portrange>	リティの設定	
mlag enable	MLAG を有効にする	
mlag mac-address-table-update enable	MAC アドレス更新機能を有効にする	-
mlag mac-address-table-update rate <rate></rate>	MAC アドレス更新機能により、コピーす	-
	る宛先学習済ユニキャスト(UC)トラフ	
	ィックの帯域の上限を設定	
	• RATE: 64~10000000(Kbps)	
	(デフォルト設定は 1000000(Kbps))	
mlag mac-address-table-sync enable	MAC アドレス同期機能を有効にする	-
mlag fault-action fdb-flush disable	MLAG 装置の状態遷移による、装置全体の	-
	FDB の消去を抑止しする	
mlag forwarding-mode all-member-port	Apresia15000 シリーズにおいて、指定さ	-
[ include-nonucast ]	れた MLAG インターフェースで中継時に	
	MLAG の装置を跨いだ分散を有効にする	
mlag linkup-delay disable	装置起動時の、MLAG 機能によるポートの	-
	リンクアップを遅らせる動作を無効に	
	する	
interface mlag <mlagno> 1)</mlagno>	MLAG インターフェースを作成し、	-
interface mlag <mlagrange> 2)</mlagrange>	IF-MLAG モードに移行	
mlag <mlagno></mlagno>	MLAG インターフェースにメンバーポー	-
	トを設定	
mlag <mlagno> lacp mode active   passive</mlagno>	MLAG インターフェースにメンバーポー	-
	トを設定し、LACP で動作させる	
mlag lacp-static-system-id <macaddr></macaddr>	MLAG インターフェースを LACP で動作さ	-
	せる場合に使用するシステム ID を変更	
	する	

1) MLAG インターフェース作成時は、単一 MLAG ID のみを指定可能です。

- <MLAGNO>は「ドメイン名(<DOMAIN>)」と「MLAG ID」を「/」で区切り指定します。(ドメイン名: Domain1、MLAG ID: 32の場合、interface mlag Domain1/32)
- 2) MLAG インターフェース作成後の IF-MLAG モードへの移行は、複数 MLAG ID を指定可能です。 <MLAGRANGE>は<MLAGNO>の「MLAG ID」を「,」、または「-」により範囲指定します。 (ドメイン名: Domain1、MLAG ID: 1~3 と 32 の場合、interface mlag Domain1/1-3,32)
- MLAG を有効にするには mlag domain、及び mlag enable を設定後、装置を再起動する必要があります。
- ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティ、有効/無効の設定変更後の再起動中、 自動的に再度再起動処理されます。
- Apresia15000 シリーズにおいて、QoS(qos enable、qos mapping)を設定する場合、MLAG を構成する 2 装置間で設定を揃えてください。
- Apresia15000 シリーズにおいて、ブリッジポートを経由するフレームに対する QoS(qos mapping)、またはパケットフィルター2 の action qos の動作は、入力ポート側の MLAG 装置の設定が、出力ポート側の MLAG 装置にも適用されます。

#### 8.1.1 グループ番号の指定

MLAG で使用するパケットフィルター2 のグループ番号を指定します。使用するグループ番号を指定していない場合は未使用グループの最小番号が MLAG 用に使用されます。

mlag enable が設定されている状態、及び MLAG 動作中はグループ番号を変更できません。

設定は mlag enable を設定した時点で反映されます。

MLAG 有効時にグループ番号を変更するには、no mlag enable を設定し再起動してから変更してください。

## [設定例]

グループ3を MLAG に指定します。

(config)# mlag group 3

## 8.1.2 ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティの設定

ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティを設定します。設定は装置再起動後に反映されます。 ドメイン名には、英数字、及び#、%、-、\_の各文字が使用可能です。

#### [設定例]

ドメイン名: Domain1、ブリッジポート: ポート 1/51 と 1/52、プライオリティ: first に設定します。 (config)# mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 first

#### 8.1.3 MLAG の有効化

MLAG を有効にします。設定は装置再起動後に反映されます。

#### [設定例]

MLAG を有効にします。

(config)# mlag enable

## 8.1.4 MAC アドレス更新機能の有効化

MAC アドレス更新機能を有効にします。

#### [設定例]

MAC アドレス更新機能を有効にします。

(config)# mlag mac-address-table-update enable

- 同一ドメインをもつMLAGのfirst/second装置の両方に本設定を行う必要があります。
- Apresia15000 シリーズでパケットフィルター2 の policing において、4 グループで

使用している場合、本機能は設定できません。

## 8.1.5 MAC アドレス更新機能(コピー帯域の上限)の設定

MAC アドレス更新機能による、対向装置へコピーする宛先学習済ユニキャスト(UC)トラフィックの帯域の上限を設定します。

## [設定例]

対向装置へコピーする宛先学習済ユニキャスト(UC)トラフィックの帯域の上限を 5000000(Kbps)に設定します。

(config)# mlag mac-address-table-update rate 5000000

同一ドメインをもつMLAGのfirst/second装置の両方に本設定を行う必要があります。

#### 8.1.6 MAC アドレス同期機能の有効化

MAC アドレス同期機能を有効にします。

#### [設定例]

MAC アドレス同期機能を有効にします。

(config)# mlag mac-address-table-sync enable

同一ドメインをもつMLAGのfirst/second装置の両方に本設定を行う必要があります。

#### 8.1.7 状態遷移による FDB の消去を抑止

MLAG 装置の状態遷移による、装置全体の FDB の消去を抑止します。

## [設定例]

MLAG 装置の状態遷移による、装置全体の FDB の消去を抑止します。

(config)# mlag fault-action fdb-flush disable

- 本コマンド設定時は、MLAG 装置の障害、及び復旧後も FDB エントリーが残るため、 端末の移動などにより通信断が引き起こされる可能性があります。
- 同一ドメインをもつMLAGのfirst/second装置の両方に本設定を行う必要があります。

## 8.1.8 装置跨ぎ分散機能の有効化

Apresia15000 シリーズにおいて、指定された MLAG インターフェースで中継時に MLAG の装置を跨いだ分散を有効にします。

#### [設定例]

ドメイン名: Domain1、MLAG ID: 1の MLAG インターフェースにおいて MLAG の装置を跨いだ分散を有

#### 効にします。

(config)# interface mlag Domain1/1

(config-if-mlag)# mlag forwarding-mode all-member-port



)同一ドメインをもつMLAGのfirst/second装置の両方に本設定を行う必要があります。

8.1.9 ポートのリンクアップ遅延の無効化

装置起動時の、MLAG 機能によるポートのリンクアップを遅らせる動作を無効にします。

#### [設定例]

装置起動時の、MLAG 機能によるポートのリンクアップを遅らせる動作を無効にします。

(config)# mlag linkup-delay disable

8.1.10 MLAG インターフェースの作成

MLAG インターフェースを作成し、IF-MLAG モードへ移行します。MLAG 有効時のみ設定可能です。

#### [設定例]

ドメイン名: Domain1 に MLAG ID: 1 の MLAG インターフェースを作成し、IF-MLAG モードへ移行します。

(config)# interface mlag Domain1/1

(config-if-mlag)#

- MLAG インターフェースへ VLAN 設定する場合、MLAG を構成する 2 装置間で設定を揃えてください。
- MLAG を無効にすると、MLAG インターフェースは削除されます。
- MLAG のドメイン名を変更すると、変更前のドメイン名で作成した MLAG インターフェースは削除されます。
- 8.1.11 MLAG メンバーポートの設定 MLAG インターフェースにメンバーポートを設定します。

#### [設定例]

ドメイン名:Domain1 の MLAG ID:1 にポート 1/5 をメンバーポートとして設定します。

(config)# interface port 1/5

(config-if-port)# mlag Domain1/1

8.1.12 MLAG メンバーポートの設定(LACP 併用)

MLAG インターフェースにメンバーポートを設定し、LACP で動作させます。

#### [設定例]

ドメイン名: Domain1 の MLAG ID: 2 にポート  $1/10 \sim 1/12$  を LACP: アクティブモードのメンバーポートとして設定します。

(config)# interface port 1/10-12

(config-if-port)# mlag Domain1/2 lacp mode active

#### 8.1.13 システム ID の設定(LACP 併用)

MLAG インターフェースを LACP で動作させる場合に使用するシステム ID(sys-id)を変更します。

システム ID として設定する MAC アドレスは任意のものを指定可能ですが、本装置に接続する機器とは異なるものを選択してください。システム ID 用 MAC アドレス(00:40:66:66:4F:00~FF)も使用可能です。

## [設定例]

LACP システム ID を 00:40:66:66:4F:01 に設定します。

(config)# mlag lacp-static-system-id 00:40:66:66:4f:01

- 本コマンドにより指定されたシステム ID が対向 LACP 装置のシステム ID と重複する場合、LACP が誤動作する場合があります。必ず接続する対向 LACP 装置のシステム ID をご確認の上、対向 LACP 装置と異なるシステム ID を使用するようにしてください。
- I/G ビットが 1 である MAC アドレス(マルチキャスト MAC アドレス)、全てのビットが 0 の MAC アドレス(00:00:00:00:00)は指定できません。
- 本コマンドにより設定されたシステム ID が、MLAG ドメイン名から生成された MAC アドレスと同一の場合、show running-config には反映されません。
- ・運用中に本設定を変更した場合、LACP リンクの初期化が行われるため、LACP ポートが 90 秒程度通信断となります。

## 8.2 表示コマンド

MLAG の表示コマンドは以下です。

- show mlag
- show mlag configuration
- show mlag status
- show mlag domain
- show mlag domain <DOMAIN> lacp sys-id
- show mlag counters

## 8.2.1 MLAG 情報

MLAG の設定情報とステータスを表示します。

## [表示例]

# show mlag

MLAG Switch Configuration: Configured

MLAG : Enable
Priority : first
Domain : Domain1
bridge-port : 1/51-52

mac-address-table-update : Enable update rate : 5000000(Kbps) mac-address-table-sync : Enable

MLAG Switch Status: Active

My status

Priority : first
Domain : Domain1
Status : Normal
bridge-port : 1/51-52

Peer status

Priority : second
Domain : Domain1
Status : Normal

MLAG status

ID My Status Peer Status1 Normal Normal2 Normal Normal

#### 8.2.2 MLAG 設定

MLAG の設定を表示します。

## [表示例]

# show mlag configuration

MLAG Switch Configuration: Configured

MLAG : Enable
Priority : first
Domain : Domain1
bridge-port : 1/51-52

mac-address-table-update : Enable update rate : 1000000(Kbps) mac-address-table-sync : Disable

#### 8.2.3 MLAG 状態

MLAG の状態、及びメンバーポートのリンク状態を表示します。

## [表示例]

# show mlag status

MLAG Switch Status: Active

My status

Priority: first
Domain : Domain1
Status : Normal
bridge-port : 1/51-52

Peer status

Priority : second

Domain : Domain1

Status : Normal

MLAG status

ID My Status Peer Status1 Normal Normal2 Down Down

## 8.2.4 MLAG 装置の有効時のドメイン名 動作中の MLAG ドメイン名を表示します。

## [表示例]

# show mlag domain
Domain1

## 8.2.5 MLAG、LACP情報

指定されたドメインの MLAG、及び LACP 情報を表示します。

## [表示例]

# show mlag domain Domain1 lacp sys-id

MLAG Domain : Domain1 MLAG Priority : first

System ID : 0x8000,00-40-66-66-4f-01

#### 8.2.6 MLAG カウンター

ブロッキングポートで送受信したハローフレーム、障害検知フレーム(リンクダウン/アップ)、ブロッキングフレーム数を表示します。カウンターを消去するには clear mlag counters コマンドを使用してください。

## [表示例]

# show mlag cour	nters	
Frame Type	Receive Frame Count	Transmit Frame Count
HelloB	845766	846548
HelloF	736	3309
Link Down	5	8
Link Up	7	8
Blocking	10	6
	nters  Receive Frame Count	
HelloB	1	0
HelloF	0	0
Link Down	0	0
Link Up	0	0
Blocking		

## 8.2.7 MLAG 情報の一括表示

show tech-support mlag コマンドで MLAG 情報を一括で表示できます。表示される情報は以下です。

- show system
- show version
- show link-aggregation
- show mlag
- show lacp detail
- show interface counters 1
- show interface queue-counters 1
- show lacp-counter 1
- show mlag counters 1
  - 11秒おきに3回情報を取得

## 9. 設定例

## 9.1 基本構成

図 9-1 に基本構成図、表 9-1 に設定項目を示します。

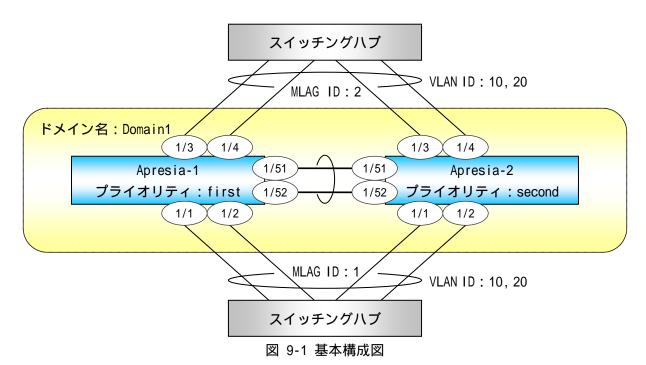


表 9-1 設定項目(基本構成)

	· KAC-5, H ( ± + 1, H, W)	
項目	Apresia-1	Apresia-2
VLAN 設定		
VLAN ID	10(v10),	20(v20)
MLAG 設定		
ドメイン名	Doma	ain1
ブリッジポート	1/51-52	1/51-52
プライオリティ	first	second
パケットフィルター2	自動設定	自動設定
グループ番号		
MLAG インターフェース	MLAG	ID 1
	MLAG	ID 2
MLAG メンバーポート	MLAG ID 1:1/1-2	MLAG ID 1:1/1-2
	MLAG ID 2:1/3-4	MLAG ID 2:1/3-4
MLAG オプション設定(MAC アドレス更新機能)		
機能有効/無効	disable(無効化)	disable(無効化)
コピー帯域の上限値	-	-

設定例を以下に示します。

- Apresia-1 (first)
  - (1) ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティの設定

ドメイン名に Domain1、ブリッジポートにポート: 1/51 と 1/52、プライオリティに first を設定します。

Apresia-1(config)# mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 first

(2) MLAG 有効化

MLAG を有効に設定します。

Apresia-1(config)# mlag enable

- (3) 再起動
  - (1)、(2)の設定を有効とするために、装置を再起動します。(1)、(2)の設定が変更されているため、再起動中に再度、再起動処理が開始されます。

Apresia-1# reboot check config? (y/n): y reboot system? (y/n): y

(4) VLAN の作成

VLAN ID: 10(v10)、20(v20)の VLAN を作成します。

Apresia-1(config-vlan)# vlan 10 name v10 Apresia-1(config-vlan)# vlan 20 name v20

(5) MLAG インターフェースの作成

MLAG インターフェース (MLAG ID: 1、及び2)を VLAN ID: 10(v10)、20(v20)のトランクポートとして作成します。

Apresia-1(config)# interface mlag Domain1/1

Apresia-1(config-if-mlag)# switchport mode trunk

Apresia-1(config-if-mlag)# switchport trunk add 10,20

Apresia-1(config-if-mlag)# exit

Apresia-1(config)# interface mlag Domain1/2

Apresia-1(config-if-mlag)# switchport mode trunk

Apresia-1(config-if-mlag)# switchport trunk add 10,20

(6) MLAG メンバーポートの設定

MLAG インターフェース (MLAG ID: 1) にポート: 1/1 と 1/2 を、MLAG インターフェース (MLAG ID: 2) にポート: 1/3 と 1/4 を MLAG メンバーポートとしてアサインします。

Apresia-1(config)# interface port 1/1-2

Apresia-1(config-if-port)# mlag Domain1/1

Apresia-1(config-if-port)# exit

Apresia-1(config)# interface port 1/3-4

Apresia-1(config-if-port)# mlag Domain1/2

- Apresia-2 (second)
  - (1) ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティの設定

ドメイン名に Domain1、ブリッジポートにポート: 1/51 と 1/52、プライオリティに second を設定します。

Apresia-2(config)# mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 second

(2) MLAG 有効化

MLAG を有効に設定します。

Apresia-2(config)# mlag enable

#### (3) 再起動

(1)、(2)の設定を有効とするために、装置を再起動します。(1)、(2)の設定が変更されているため、再起動中に再度、再起動処理が開始されます。

Apresia-2# reboot check config? (y/n): y reboot system? (y/n): y

(4) VLAN の作成

VLAN ID: 10(v10)、20(v20)の VLAN を作成します。

Apresia-2(config-vlan)# vlan 10 name v10 Apresia-2(config-vlan)# vlan 20 name v20

(5) MLAG インターフェースの作成

MLAG インターフェース (MLAG ID: 1、及び2)を VLAN ID: 10(v10)、20(v20)のトランクポートとして作成します。

Apresia-2(config)# interface mlag Domain1/1

Apresia-2(config-if-mlag)# switchport mode trunk

Apresia-2(config-if-mlag)# switchport trunk add 10,20

Apresia-2(config-if-mlag)# exit

Apresia-2(config)# interface mlag Domain1/2

Apresia-2(config-if-mlag)# switchport mode trunk

Apresia-2(config-if-mlag)# switchport trunk add 10,20

(6) MLAG メンバーポートの設定

MLAG インターフェース (MLAG ID: 1) にポート: 1/1 と 1/2 を、MLAG インターフェース (MLAG ID: 2) にポート: 1/3 と 1/4 を MLAG メンバーポートとしてアサインします。

Apresia-2(config)# interface port 1/1-2

Apresia-2(config-if-port)# mlag Domain1/1

Apresia-2(config-if-port)# exit

Apresia-2(config)# interface port 1/3-4

Apresia-2(config-if-port)# mlag Domain1/2

## MLAG 装置の構成情報(show running-config 抜粋)

MLAG 表直の構成情報(Snow running-config 扱程) Apresia-1	Apresia-2
hostname Apresia-1	hostname Apresia-2
!	!
(省略)	(省略)
mlag group 1	mlag group 1
mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 first	mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 second
mlag enable	mlag enable
!	!
vlan database	vlan database
vlan 10 name v10	vlan 10 name v10
vlan 20 name v20	vlan 20 name v20
!	!
interface mlag Domain1/1	interface mlag Domain1/1
switchport mode trunk	switchport mode trunk
switchport trunk add 10,20	switchport trunk add 10,20
!	!
interface mlag Domain1/2	interface mlag Domain1/2
switchport mode trunk	switchport mode trunk
switchport trunk add 10,20	switchport trunk add 10,20
!	!
(省略)	(省略)
interface port 1/1	interface port 1/1
mlag Domain1/1	mlag Domain1/1
!	!
interface port 1/2	interface port 1/2
mlag Domain1/1	mlag Domain1/1
!	!
interface port 1/3	interface port 1/3
mlag Domain1/2	mlag Domain1/2
!	!
interface port 1/4	interface port 1/4
mlag Domain1/2	mlag Domain1/2
!	[ !
(省略)	(省略)

## 9.2 片 MLAG 構成

図 9-2 に片 MLAG 構成図、表 9-2 に設定項目を示します。

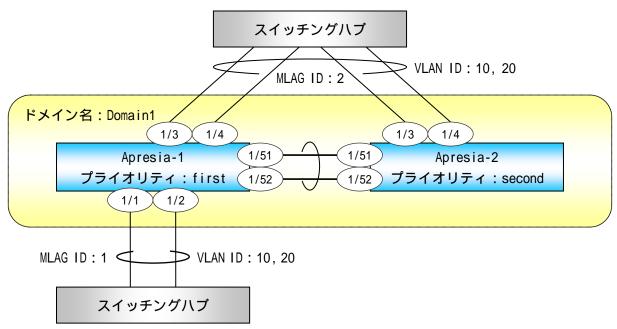


図 9-2 片 MLAG 構成図

表 9-2 設定項目(片 MLAG 構成)

农 9-2 改定項白(月 WLAG 情况)		
項目	Apresia-1	Apresia-2
VLAN 設定		
VLAN ID	10(v10),	20(v20)
MLAG 設定		
ドメイン名	Doma	ain1
ブリッジポート	1/51-52	1/51-52
プライオリティ	first	second
パケットフィルター2	自動設定	自動設定
グループ番号		
MLAG インターフェース	MLAG	ID 1
	MLAG ID 2	
MLAG メンバーポート	MLAG ID 1:1/1-2	MLAG ID 1:なし
	MLAG ID 2:1/3-4	MLAG ID 2:1/3-4
MLAG オプション設定(MAC アドレス更新機能)		
機能有効/無効	enable(有効化)	enable(有効化)
コピー帯域の上限値	デフォルト	デフォルト

設定例を以下に示します。

- Apresia-1 (first、片 MLAG)
  - (1) ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティの設定

ドメイン名に Domain1、ブリッジポートにポート: 1/51 と 1/52、プライオリティに first を設定します。

Apresia-1(config)# mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 first

(2) MLAG 有効化

MLAG を有効に設定します。

Apresia-1(config)# mlag enable

- (3) 再起動
  - (1)、(2)の設定を有効とするために、装置を再起動します。(1)、(2)の設定が変更されているため、再起動中に再度、再起動処理が開始されます。

Apresia-1# reboot check config? (y/n): y reboot system? (y/n): y

(4) VLAN の作成

VLAN ID: 10(v10)、20(v20)の VLAN を作成します。

Apresia-1(config-vlan)# vlan 10 name v10 Apresia-1(config-vlan)# vlan 20 name v20

(5) MLAG インターフェースの作成

MLAG インターフェース (MLAG ID: 1、及び2)を VLAN ID: 10(v10)、20(v20)のトランクポートとして作成します。

Apresia-1(config)# interface mlag Domain1/1

Apresia-1(config-if-mlag)# switchport mode trunk

Apresia-1(config-if-mlag)# switchport trunk add 10,20

Apresia-1(config-if-mlag)# exit

Apresia-1(config)# interface mlag Domain1/2

Apresia-1(config-if-mlag)# switchport mode trunk

Apresia-1(config-if-mlag)# switchport trunk add 10,20

(6) MLAG メンバーポートの設定

MLAG インターフェース (MLAG ID: 1) にポート: 1/1 と 1/2 を、MLAG インターフェース (MLAG ID: 2) にポート: 1/3 と 1/4 を MLAG メンバーポートとしてアサインします。

Apresia-1(config)# interface port 1/1-2

Apresia-1(config-if-port)# mlag Domain1/1

Apresia-1(config-if-port)# exit

Apresia-1(config)# interface port 1/3-4

Apresia-1(config-if-port)# mlag Domain1/2

(7) MAC アドレス更新機能の設定

MAC アドレス更新機能を、コピー帯域の上限値: デフォルト(1,000,000(Kbps))で有効に設定します。

Apresia-1(config)# mlag mac-address-table-update enable

- Apresia-2 (second)
  - (1) ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティの設定 ドメイン名に Domain1、ブリッジポートにポート 1/51 と 1/52、プライオリティに second を設定 します。

Apresia-2(config)# mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 second

(2) MLAG 有効化

MLAG を有効に設定します。

Apresia-2(config)# mlag enable

- (3) 再起動
  - (1)、(2)の設定を有効とするために、装置を再起動します。(1)、(2)の設定が変更されているため、再起動中に再度、再起動処理が開始されます。

Apresia-2# reboot check config? (y/n): y reboot system? (y/n): y

(4) VLAN の作成

VLAN ID: 10(v10), 20(v20)の VLAN を作成します。

Apresia-2(config-vlan)# vlan 10 name v10 Apresia-2(config-vlan)# vlan 20 name v20

(5) MLAG インターフェースの作成

MLAG インターフェース (MLAG ID:1)は MLAG インターフェースのみを作成します。 MLAG インターフェース (MLAG ID:2)を VLAN ID: 10(v10)、20(v20)のトランクポートとして作成します。

Apresia-2(config)# interface mlag Domain1/1

Apresia-2(config-if-mlag)# exit

Apresia-2(config)# interface mlag Domain1/2

Apresia-2(config-if-mlag)# switchport mode trunk

Apresia-2(config-if-mlag)# switchport trunk add 10,20

(6) MLAG メンバーポートの設定

MLAG インターフェース (MLAG ID:1)にはメンバーポートを設定しません。 MLAG インターフェース (MLAG ID:2)にポート:1/3 と 1/4 を MLAG メンバーポートとしてアサインします。

Apresia-2(config)# interface port 1/3-4 Apresia-2(config-if-port)# mlag Domain1/2

(7) MAC アドレス更新機能の設定

MLAG 設定後の構成情報を以下に示します。

## MLAG 装置の構成情報(show running-config 抜粋)

Apresia-1	Apresia-2
hostname Apresia-1	hostname Apresia-2
!	!
(省略)	(省略)
mlag group 1	mlag group 1
mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 first	mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 second
mlag enable	mlag enable
mlag mac-address-table-update enable	mlag mac-address-table-update enable
!	!
vlan database	vlan database
vlan 10 name v10	vlan 10 name v10
vlan 20 name v20	vlan 20 name v20
!	!
interface mlag Domain1/1	interface mlag Domain1/1
switchport mode trunk	!
switchport trunk add 10,20	interface mlag Domain1/2
!	switchport mode trunk
interface mlag Domain1/2	switchport trunk add 10,20
switchport mode trunk	!
switchport trunk add 10,20	(省略)
!	interface port 1/3
(省略)	mlag Domain1/2
interface port 1/1	!
mlag Domain1/1	interface port 1/4
!	mlag Domain1/2
interface port 1/2	!
mlag Domain1/1	(省略)
!	
interface port 1/3	
mlag Domain1/2	
!	
interface port 1/4	
mlag Domain1/2	
[ ! 	
(省略)	

## 9.3 LACP 併用構成

図 9-3 に LACP 併用構成図、表 9-3 に設定項目を示します。

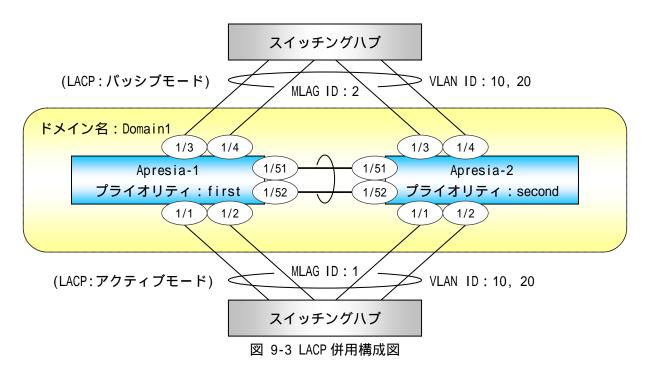


表 9-3 設定項目(LACP 併用構成)

項目	Apresia-1	Apresia-2
VLAN 設定	·	
VLAN ID	10(v10),	20(v20)
MLAG 設定		
ドメイン名	Doma	ain1
ブリッジポート	1/51-52	1/51-52
プライオリティ	first	second
パケットフィルター2	自動設定	自動設定
グループ番号		
MLAG インターフェース	MLAG ID 1	
	MLAG ID 2	
MLAG メンバーポート	MLAG ID 1:1/1-2	MLAG ID 1:1/1-2
	MLAG ID 2:1/3-4	MLAG ID 2:1/3-4
LACP 設定		
LACP モード	1/1-2 : active	1/1-2 : active
	1/3-4 : passive	1/3-4 : passive
システム ID	00:40:66:66:4F:01	
装置優先度	16	
その他	デフォルト	デフォルト
MLAG オプション設定(MAC アドレス更新機能)		
機能有効/無効	enable(有効化)	enable(有効化)
コピー帯域の上限値	5000000(Kbps)	5000000(Kbps)

設定例を以下に示します。

- Apresia-1 (first)
  - (1) ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティの設定

ドメイン名に Domain1、ブリッジポートにポート: 1/51 と 1/52、プライオリティに first を設定します。

Apresia-1(config)# mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 first

(2) MLAG 有効化

MLAG を有効に設定します。

Apresia-1(config)# mlag enable

- (3) 再起動
  - (1)、(2)の設定を有効とするために、装置を再起動します。(1)、(2)の設定が変更されているため、再起動中に再度、再起動処理が開始されます。

Apresia-1# reboot check config? (y/n): y reboot system? (y/n): y

(4) VLAN の作成

VLAN ID: 10(v10)、20(v20)の VLAN を作成します。

Apresia-1(config-vlan)# vlan 10 name v10 Apresia-1(config-vlan)# vlan 20 name v20

(5) MLAG インターフェースの作成

MLAG インターフェース (MLAG ID: 1、及び2)を VLAN ID: 10(v10)、20(v20)のトランクポートとして作成します。

Apresia-1(config)# interface mlag Domain1/1
Apresia-1(config-if-mlag)# switchport mode trunk

Apresia-1(config-if-mlag)# switchport trunk add 10,20

Apresia-1(config-if-mlag)# exit

Apresia-1(config)# interface mlag Domain1/2

Apresia-1(config-if-mlag)# switchport mode trunk

Apresia-1(config-if-mlag)# switchport trunk add 10,20

(6) MLAG メンバーポートの設定

MLAG インターフェース (MLAG ID:1)にポート: 1/1 と 1/2 を LACP: アクティブモード、MLAG インターフェース (MLAG ID:2)にポート: 1/3 と 1/4 を LACP: パッシブモードの MLAG メンバーポートとしてアサインします。

Apresia-1(config)# interface port 1/1-2

Apresia-1(config-if-port)# mlag Domain1/1 lacp mode active

Apresia-1(config-if-port)# exit

Apresia-1(config)# interface port 1/3-4

Apresia-1(config-if-port)# mlag Domain1/2 lacp mode passive

(7) LACP システム ID(sys-id)の設定

LACP で使用するシステム ID を 00:40:66:66:4F:01 に設定します。

Apresia-1(config)# mlag lacp-static-system-id 00:40:66:66:4f:01

(8) LACP 装置優先度(system-priority)の設定

LACP で使用する装置優先度を 16 に設定します。

Apresia-1(config)# lacp system-priority 16

(9) MAC アドレス更新機能の設定

MAC アドレス更新機能を、コピー帯域の上限値:5000000(Kbps)で有効に設定します。

Apresia-1(config)# mlag mac-address-table-update rate 5000000

Apresia-1(config)# mlag mac-address-table-update enable

- Apresia-2 (second)
  - (1) ドメイン名、ブリッジポート、プライオリティの設定

ドメイン名に Domain1、ブリッジポートにポート: 1/51 と 1/52、プライオリティに second を設定します。

Apresia-2(config)# mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 second

(2) MLAG 有効化

MLAG を有効に設定します。

Apresia-2(config)# mlag enable

- (3) 再起動
  - (1)、(2)の設定を有効とするために、装置を再起動します。(1)、(2)の設定が変更されているため、再起動中に再度、再起動処理が開始されます。

Apresia-2# reboot

check config? (y/n): y

reboot system? (y/n): y

(4) VLAN の作成

VLAN ID: 10(v10)、20(v20)の VLAN を作成します。

Apresia-2(config-vlan)# vlan 10 name v10

Apresia-2(config-vlan)# vlan 20 name v20

(5) MLAG インターフェースの作成

MLAG インターフェース (MLAG ID: 1、及び2)を VLAN ID: 10(v10)、20(v20)のトランクポートとして作成します。

Apresia-2(config)# interface mlag Domain1/1

Apresia-2(config-if-mlag)# switchport mode trunk

Apresia-2(config-if-mlag)# switchport trunk add 10,20

Apresia-2(config-if-mlag)# exit

Apresia-2(config)# interface mlag Domain1/2

Apresia-2(config-if-mlag)# switchport mode trunk

Apresia-2(config-if-mlag)# switchport trunk add 10,20

## (6) MLAG メンバーポートの設定

MLAG 1 = 1/1 1/2

Apresia-2(config)# interface port 1/1-2

Apresia-2(config-if-port)# mlag Domain1/1 lacp mode active

Apresia-2(config-if-port)# exit

Apresia-2(config)# interface port 1/3-4

Apresia-2(config-if-port)# mlag Domain1/2 lacp mode passive

## (7) LACP システム ID(sys-id)の設定

LACP で使用するシステム ID を 00:40:66:66:4F:01 に設定します。

Apresia-2(config)# mlag lacp-static-system-id 00:40:66:66:4f:01

## (8) LACP 装置優先度(system-priority)の設定

LACP で使用する装置優先度を 16 に設定します。

Apresia-2(config)# lacp system-priority 16

#### (9) MAC アドレス更新機能の設定

MAC アドレス更新機能を、コピー帯域の上限値:5000000(Kbps)で有効に設定します。

Apresia-2(config)# mlag mac-address-table-update rate 5000000

Apresia-2(config)# mlag mac-address-table-update enable

#### MLAG 装置の構成情報(show running-config 抜粋)

```
Apresia-1
                                              Apresia-2
hostname Apresia-1
                                              hostname Apresia-2
(省略)
                                              (省略)
lacp system-priority 16
                                              lacp system-priority 16
mlag lacp-static-system-id 00:40:66:66:4f:01
                                              mlag lacp-static-system-id 00:40:66:66:4f:01
mlag group 1
                                              mlag group 1
mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 first
                                              mlag domain Domain1 bridge-port 1/51-52 second
mlag enable
                                              mlag enable
mlag mac-address-table-update rate 5000000
                                              mlag mac-address-table-update rate 5000000
mlag mac-address-table-update enable
                                              mlag mac-address-table-update enable
                                              !
vlan database
                                              vlan database
vlan 10 name v10
                                               vlan 10 name v10
vlan 20 name v20
                                               vlan 20 name v20
interface mlag Domain1/1
                                              interface mlag Domain1/1
switchport mode trunk
                                               switchport mode trunk
switchport trunk add 10,20
                                               switchport trunk add 10,20
interface mlag Domain1/2
                                              interface mlag Domain1/2
switchport mode trunk
                                               switchport mode trunk
                                               switchport trunk add 10,20
switchport trunk add 10,20
(省略)
                                              (省略)
interface port 1/1
                                              interface port 1/1
mlag Domain1/1 lacp mode active
                                               mlag Domain1/1 lacp mode active
interface port 1/2
                                              interface port 1/2
mlag Domain1/1 lacp mode active
                                               mlag Domain1/1 lacp mode active
interface port 1/3
                                              interface port 1/3
                                               mlag Domain1/2 lacp mode passive
mlag Domain1/2 lacp mode passive
interface port 1/4
                                              interface port 1/4
mlag Domain1/2 lacp mode passive
                                               mlag Domain1/2 lacp mode passive
!
(省略)
                                              (省略)
```

# 10. 各バージョンでの機能追加、変更点

MLAG に関する各バージョンでの機能追加、変更点を表 10-1 にまとめます。最新の情報に関しては、 リリースノートやフィールドノーティスを参照してください。

表 10-1 各バージョンでの機能追加、変更点

Version	管理番号	内容
8.14.05	AEOS-81405-RC001	Apresia13100/13200/15000シリーズにおいて、MLAG(Multi-Chassis
0.11.00	7.200 01 100 R0001	Link-Aggregation) 機能に対応しました(Apresia13200-52GT/
		13200-52GT-PSR は除く)。
		2 台の装置で 1 つの LAG を構成する機能です。詳細についてはコ
		マンドリファレンスを参照ください。
8.15.01	AEOS-81501-RC002	MLAG 機能において、下記機能との併用をサポートしました。
0.10.01	AL00-01301-10002	● LACP 機能
		● BFS 機能
		● 中継パス制限機能(Apresia15000 シリーズのみ)
8.15.01	AEOS-81501-RC033	MLAG 機能において、装置の状態が"Abnormal"から"Unreach"、
0.13.01	AE03-01301-RC033	"Unreach"から"Abnormal"の状態遷移した時にFDB Flush しないよう
		に仕様を変更しました。
8.15.01	AEOS-81501-RC062	MLAG 機能において、ブリッジポート全断からの復旧時に一度
0.13.01	AE03-01301-RC002	"Unreach"を経由する問題を修正しました。
8.15.01	AEOS-81501-RC063	MLAG 機能において、Apresia13000-X24-PSR で MLAG 機能が設定でき
0.13.01	AE03-01301-R0003	MEAG 機能にあいて、Apresia 13000-724-F3N で MEAG 機能が設定できる問題を修正しました。
8.15.01	AEOS-81501-RC064	MLAG 機能において、ブリッジポートを MLAG メンバーポートへ設定
8.15.01	AE05-81501-RC064	
		した時のエラーメッセージ"% Can't set MLAG. Please set expect
		Bridge-port."から"% Can't set MLAG. Please set the port except
0.47.04	AF00 04704 B0000	Bridge-port."へ修正しました。
8.17.01	AEOS-81701-RC006	Forwarding Data Base(FDB) 機能において、"show
		mac-address-table"で指定できる OPTION に"bfs-link""mlag"を追
8.17.01	AFOC 04704 DC000	加しました。
	AEOS-81701-RC008	MMRP-Plus 機能において、MLAG 機能との併用をサポートしました。
8.17.01	AEOS-81701-RC009	MLAG 機能において、LAG 相当機能として片 MLAG (片側の MLAG 装置
0.47.04	4500 04704 B0040	にのみ Domain 及びポート設定をする MLAG)をサポートしました。
8.17.01	AEOS-81701-RC010	│ MLAG 機能において、ブリッジポートでの MTU 機能との併用をサポー
	4500 04504 B0004	トしました。
8.17.01	AEOS-81701-RC021	Forwarding Data Base (FDB) 機能において、自装置にアサインポート
		がない MLAG 学習エントリーは"show mac-address-table"上の
		destination で"bridge"と表示されるように仕様を変更しました。
8.17.01	AEOS-81701-RC088	MLAG 機能において、MLAG 機能有効時に下記条件をすべて満たしたフ
		レームを CPU にあげてしまう問題を修正しました。
		• DstMAC=自装置の MAC アドレス
		• Dst IP=VLAN にアサインした IP アドレス
		● VID=IP アドレスをアサインした VLAN 全て
8.17.01	AEOS-81701-RC089	MLAG 機能において、起動時、またはポートリンクダウン、コマンド

Version	管理番号	内容
		入力、MLAG 状態遷移等による FDB フラッシュ発生時にブリッジポー
		トの FDB 学習が出来なくなり、不要なフラッディングが発生する問
		題を修正しました。
8.17.01	AEOS-81701-RC090	MLAG 機能において、MLAG 有効時かつ VLAN 大量設定時に"switchport
		trunk add"コマンドの実行に時間がかかる問題を修正しました。
8.17.01	AEOS-81701-RC091	MLAG 機能において、MLAG 設定後の再起動時の起動メッセージ
		"Expand system done"と"Loading configurationdone."の
		間に不要な"."が表示される問題を修正しました。
8.17.01	AEOS-81701-RC092	MLAG 機能において、中継パス制限機能を設定した状態で"no mlag
		enable"、"write memory"投入後、再起動して MLAG 機能を停止状態
		にしても"show forwarding"を実行すると MLAG 情報が表示されてし
		まう問題を修正しました。
8.17.01	AEOS-81701-RC093	MLAG 機能において、対向側の装置の電源 off/on で装置起動前に対
		向装置のブリッジポートがリンクアップしてしまう問題を修正しま
		した。
8.17.01	AEOS-81701-RC094	MLAG 機能において、bridge-port で受信したフレームが
		"egress-filtering"機能でフィルタリングできない問題を修正しま
		した。
8.17.01	AEOS-81701-RC095	MLAG 機能において、ドメイン名または設定に誤りがあるときの状態
		が"Abnormal(Domain Mismatch)"、"Abnormal(Same Priority)"とな
		らず、"Abnormal(Bridge-port Down)"になってしまう問題を修正し
		ました。(AEOS8.15.01 以降発生)
8.17.01	AEOS-81701-RC096	MLAG 機能において、下記条件を満たす場合に、Bridge ポート経由で
		学習した FDB エントリーが age timeout やステーションムーブ以外
		でクリアされない問題を修正しました。
		   [発生条件]
		BFS、MLAG インターフェース作成投入時
		● 起動時(MLAG インタフェースが作成されるため)
		● LACP で片側装置の MLAG ポートが全て act でない状態から、1 ポー
		ト以上 act になった場合
8.17.01	AEOS-81701-RC098	MLAG 機能において、FDB、ARP が登録されていない状態で MLAG を構
		│   成する2装置間で自局宛通信(ping 等)を実行すると、まれにロスす
		る問題を修正しました。
8.17.01	AEOS-81701-RC100	Forwarding Data Base(FDB)機能において、MLAG 機能併用時に"clear
		mac-address-table dynamic"コマンド実行すると両 MLAG 装置の FDB
		エントリーを消去するように仕様変更しました。
8.17.01	AEOS-81701-RC101	Virtual BoxCore 機能において、MLAG 機能併用時にブリッジポート
	AEOS-81802-RC068	を VB ポートとして指定できるように仕様を変更しました。
8.17.04	AEOS-81704-RC007	MMRP-Plus 機能において、MLAG 動作時かつアウェアポートの設定が
		ある場合に、装置再起動により当該リング内でループが発生するこ
		とがある問題を修正しました。
8.17.04	AEOS-81704-RC011	MLAG 機能において、MLAG 装置の状態遷移時に MLAG インターフェー
		スの不正な情報を対向装置に送信し、対向装置側で通信不可状態が

Version	管理番号	内容
		継続することがある問題を修正しました。
8.17.04	AEOS-81704-RC013	Virtual BoxCore 機能において、シングルリング構成かつ MLAG 機能
		をメンバー装置で使用した場合、メンバー装置の再起動後にループ
		が発生する問題を修正しました。
8.18.02	AEOS-81802-RC019	AccessDefender 機能において、DHCP-Snooping 機能を除き MLAG 機能
		との併用をサポートしました。詳細についてはコマンドリファレン
		スを参照ください。
8.18.02	AEOS-81802-RC020	MLAG 機能において、以下の MIB をサポートしました。
		• "hclAeosMlag"
		• "hclAeosMlagTable"
		• "hclAeosMlagEntry"
		• "hclAeosMlagChassisIndex"
		• "hclAeosMlagBridgePbmp"
		• "hclAeosMlagMyStatus"
		• "hclAeosMlagMyMacAddress"
		• "hclAeosMlagPeerMacAddress"
8.18.02	AEOS-81802-RC021	MLAG 機能において、LACP 機能との併用時、LACP の system-id を任
		意の値に設定するコマンドをサポートしました。また、指定された
		MLAG ドメインの MLAG 及び LACP の設定を表示するコマンドをサポー
		トしました。
		<ul><li>"mlag lacp-static-system-id <macaddr>"</macaddr></li></ul>
		• "show mlag domain <domain> lacp sys-id"</domain>
8.18.02	AEOS-81802-RC022	MLAG 機能において、MLAG 対向装置にユニキャストフレームを転送す
		る機能(MAC アドレス更新機能)をサポートしました。
		• "mlag mac-address-table-update enable"
		"show mlag"に本機能のステータスを表示されるように仕様変更
0.40.00	AF00 04000 D0000	を行いました。
8.18.02	AEOS-81802-RC023	MLAG 機能において、MLAG 対向装置へ転送するユニキャストフレーム の帯域の上限を設定する機能をサポートしました。
		● "mlag mac-address-table-update rate <64-10000000>"
		"show mlag"に本機能のステータスを表示されるように仕様変更
		を行いました。
8.18.02	AEOS-81802-RC037	AccessDefender 機能において、MLAG インターフェースを表示させ
0.10.02	71200 01002 110001	る下記コマンドをサポートしました。
		• "show access-defender dot1x mlag"
		"show access-defender dot1x statistics mlag"
8.18.02	AEOS-81802-RC053	MLAG 機能において、対向 MLAG 装置の FDB Flush に連動して FDB Flush
3		したことを示すログを追加しました。
		• " <domain> FDB Flush, peer flushed FDB all entries."</domain>
8.18.02	AEOS-81802-RC054	MLAG 機能において、対向装置の MLAG プロトコルのバージョンが不
		一致であることを示すログを追加しました。
		• " <domain> goes Abnormal status, Protocol Version Mismatch"</domain>
8.18.02	AEOS-81802-RC055	MLAG 機能と LACP 機能の機能併用時において、MLAG 機能動作時のデ
		フォルト状態では LACP の system-id を MLAG ドメイン名から自動生

Version	管理番号	内容
		成するように仕様を変更しました。
8.19.01	AEOS-81901-RC011	SNMP 機能において、以下のコマンドをサポートしました。サポート
		内容の詳細はコマンドリファレンスを参照ください。
		• "[no] snmp-server traps mlag disable"
		• "[no] snmp-server traps lacp enable"
8.19.01	AEOS-81901-RC015	MLAG 機能において、以下のコマンドをサポートしました。サポート
		内容の詳細はコマンドリファレンスを参照ください。
		• "show mlag configuration"
		• "show mlag status"
		• "show mlag domain"
8.19.01	AEOS-81901-RC016	MLAG 機能において、以下の MIB をサポートしました。詳細は MIB 項
		目の実装仕様を参照ください。
		• "hclAeosMlagMyPriority"
		• "hclAeosMlagPeerPriority"
		• "hclAeosMlagMyDomain"
		• "hclAeosMlagPeerDomain"
		• "hclAeosMlagPeerStatus"
		"hclAeosMlagActiveTable"
		• "hclAeosMlagActiveEntry"
		• "hclAeosMlagActiveChassisIndex"
		• "hclAeosMlagActiveStatus"
		• "hclAeosMlagConfigTable"
		"hclAeosMlagConfigEntry"
		• "hclAeosMlagConfigChassisIndex"
		• "hclAeosMlagConfigAdminStatus"
		• "hclAeosMlagConfigBridgePbmp"
		• "hclAeosMlagConfigPriority"
		• "hclAeosMlagConfigDomain"
		• "hclAeosMlagConfigMacAddressTableUpdateEnable"
		• "hclAeosMlagConfigMacAddressTableUpdateRate"
8.19.01	AEOS-81901-RC017	MLAG 機能において、以下のトラップをサポートしました。詳細はロ
		グ・トラップ対応一覧を参照ください。
		• "hclAeosMlagStatusNormal"
		• "hclAeosMlagStatusUnreach"
		• "hclAeosMlagStatusAbnormalBridgePortDown"
		• "hclAeosMlagStatusAbnormalSamePriority"
		• "hclAeosMlagStatusAbnormalDomainMismatch"
		• "hclAeosMlagStatusAbnormalPeerFailure"
		• "hclAeosMlagStatusAbnormalProtocolVersionMismatch"
0.40.04	AF00 04004 D0040	• "hclAeosMlagFdbFlushReceived"
8.19.01	AEOS-81901-RC018	Apresia13100-48X-PSR、Apresia13200-48X-PSR の中継パス制限機能
		において、MLAG 機能との併用時、MLAG インターフェースで受信した
		フレームの中継制限をサポートしました。サポート内容の詳細はコ
		マンドリファレンスを参照ください。

8.19.01	AEOS-81901-RC019	中継パス制限機能において、MLAG機能との併用時、MLAGインターフェースに対する"forwarding"コマンドを設定した際に、対向装置のMLAGメンバーポートで受信しブリッジポートを経由したフレームに対しても中継パス制限をかけることができるようになりました。
8 19 01		MLAG メンバーポートで受信しブリッジポートを経由したフレーム に対しても中継パス制限をかけることができるようになりました。
8 19 01		に対しても中継パス制限をかけることができるようになりました。
8 19 01		
8 19 01		11 10 1 1
8 19 01		サポート内容の詳細はコマンドリファレンスを参照ください。
0.10.01	AEOS-81901-RC048	MLAG 機能において、"show mlag"コマンドの表示内容を"show mlag
		configuration"コマンドと"show mlag status"コマンドの表示内容
		の連結となるように仕様を変更しました。
8.19.01	AEOS-81901-RC049	MLAG 機能において、MLAG ドメイン名に英数字に加えて以下の記号を
		使用できるように仕様を変更しました。
		• "#" "%" "-" " <u></u> "
8.19.01	AEOS-81901-RC050	MLAG 機能において、"mlag domain"コマンド実行時に MLAG ドメイン
		名に使用不可文字が含まれている場合のエラーメッセージを以下の
		内容に変更しました。
		• "% Unusable character is included in this domain name."
8.19.01	AEOS-81901-RC051	MLAG 機能において、下記コマンドの実行時に再起動を促すメッセー
		ジ"The changed configuration will be valid after rebooting."
		を表示するように仕様を変更しました。
		• "[no] mlag enable"
		• "[no] mlag domain "
8.19.01	AEOS-81901-RC052	MLAG 機能において、ブリッジポートがダウンした際に"show mlag"
		コマンドの"Peer status"内の情報をクリアして表示するように仕
		様を変更しました。8.18.03 以前のバージョンでは、ブリッジポー
		トがダウンした際に"Status"のみクリアします。
8.19.01	AEOS-81901-RC121	BFS 機能において、ポートスイッチと MLAG 機能との併用時、下記の
		順でコマンドを実行すると、両ポートスイッチのサブリンク情報が
		一致しなくなり、BFS の分散が両ポートスイッチ間で異なる場合が
		ある問題を修正しました。
		• 両方の装置 A、B に"interface bfs-link"コマンドが設定されてい
		る
		● 片方の装置 B にのみ"bfs-link"コマンドが設定されている
		● 装置 A にて"interface bfs-link"コマンドを削除する ● 装置 B にて"bfs-link"コマンドを削除する
		● 表員 B に C DIS-TINK コマントを削除する   ● 装置 A にて"interface bfs-link"コマンドを再設定する
8.19.01	AEOS-81901-RC122	この時点で、サブリンク情報が両装置間で不一致になる MLAG 機能において、運用中にポート対して MLAG ポートを設定追加
0.13.01	ALOG-01301-RC122	MLAG 機能にあいて、運用中にホート対して MLAG ホートを設定追加   した場合、一瞬フレームを折り返してしまう問題を修正しました。
8 19 01	AF0S-81901-RC123	
3.10.01	, 1200 01001 NO120	
8.19.01	AEOS-81901-RC124	MLAG 機能において、first/second の両方の装置に MLAG メンバーポ
8.19.01	AEOS -81901 -RC123	運用中にポートを MLAG ポートとして追加する場合、追加するポートに対して"shutdown"設定を入れた状態で行ってください。  MLAG 機能において、装置が Abnormal 状態のときに MLAG メンバーポートを削除すると、Normal 状態へ遷移した後に、ブリッジポートで受信したフレームが削除したポートへ中継されなくなる問題を修正しました。

Version	管理番号	内容
		ートの設定がない MLAG インターフェースに"show mlag"コマンドを
		実行すると、"My Status"、"Peer Status"の状態が"down"と表示さ
		れる問題を、"-"と表示されるように修正しました。
8.19.01	AEOS-81901-RC125	MLAG 機能において、MLAG インターフェースにポートをアサインした
		後に"algorithm-base"コマンドを実行した際、MLAGの分散ルールが
		変更されない問題を修正しました。
8.20.01	AEOS-82001-RC133	Flush FDB 機能の"flush-fdb rp-g"コマンドにおいて、MLAG 機能と
		の併用をサポートしました。サポート内容の詳細はコマンドリファ
		レンスを参照ください。
8.20.01	AEOS-82001-RC027	MLAG 機能において、予約フレーム透過制御機能が有効時のデフォル
		ト値が自動的に"bpdu forward"となるように仕様変更しました。合
		わせて、このときの"show reserved-frame-action"の表示が、"BPDU:
		Forward(Default)"となるように仕様変更しました。
8.20.01	AEOS-82001-RC036	Virtual BoxCore 機能において、MLAG 機能との併用時、以下コマン
		ドの表示内容の改善を行いました。
		• "show mlag configuration"
		• "show mlag status"
		• "show mlag"
8.20.01	AEOS-82001-RC107	MLAG 機能において、BPDU を受信した場合に MLAG 対向装置で誤った
		│インターフェースで FDB を学習してしまい、通信断となる問題を修
		正しました。
8.20.01	AEOS-82001-RC108	Apresia13100/13200 シリーズの MLAG 機能において、MAC アドレス更
		新機能を有効にした場合に対向装置へコピーされたフレームが受信
		ポート番号を元に分散されない問題を修正しました。   本問題は 0.40 04 N 8 の ボージョンで発生します。
0.00.04	AF00 00004 B0400	本問題は8.18.01以降のバージョンで発生します。
8.20.01	AEOS-82001-RC109	Apresia13100/13200 シリーズの MLAG 機能において、MAC アドレス更 新機能を有効であるにもかかわらず、MLAG インターフェース宛のユ
		対機能を有効であるにもかかわらり、MLAGインターフェース宛のユーニキャストフレームが対向装置で FDB 学習されない問題を修正しま
		ニイドストラレームが対向表直で FDD 子自されない问题を修正しよ   した。
		した。   本問題は 8.18.01 以降のバージョンで発生します。
8.20.01	AEOS-82001-RC110	Apresia13100/13200 シリーズの MLAG 機能において、MAC アドレス更
0.20.01	7,200 02001 R0110	新機能が有効であるにもかかわらず、宛先 MAC アドレスが下記に該
		当するフレームが対向装置で FDB 学習されない問題を修正しまし
		た。
		^~。   ● 自装置の MAC アドレスの最下位ビットを反転させた MAC アドレス
		を宛先 MAC アドレスとするフレーム
		本問題は8.18.XX~8.19.XXのバージョンで発生していたものです
8.20.01	AEOS-82001-RC111	MLAG 機能において、VB ポートとして指定されている MLAG インター
		フェースに対し"no interface mlag"コマンドを実行した後に下記 A
		群の操作を実行した場合、B 群の操作によって想定外動作となる問
		題を修正しました。
		本問題は、8.17.01 以降のバージョンで発生します。
		(1) A 群(トリガとなる操作)
		• "vb ip address"を実行

Version	管理番号	内容
		• "no vb ip address"を実行
		• "vb ip address"を設定した vlan に"ip address"を設定
		• "vb ip address"を設定した vlan を"no vlan"で削除
		(2) B群(影響する操作)
		• "show running-config"を実行すると誤って"interface lag"と表
		示される
		• "no vb enable"、"[ no ] vb add"を実行するとエラーが複数行表示される
8.21.01	AEOS-82101-RC015	Apresia13200-48X シリーズ、Apresia13200-52GT シリーズ、
		Apresia15000 シリーズのリンクアグリゲーション機能、MLAG 機能、
		BFS 機能において、LAG ロードバランシングアルゴリズム拡張を行い
		ました。これにより、中継ポート選択アルゴリズムに「送信元/宛先
		IP アドレス」 もしくは「送信元/宛先 IP アドレス/TCP ポート番号
		/UDP ポート番号」を使用することが可能になります。
		• "link-aggregation algorithm-base src-dst-tcp-udp-8bit"
		• "link-aggregation algorithm-base src-dst-ip-8bit"
8.21.01	AEOS-82101-RC016	Apresia15000シリーズとApresia13200-48Xシリーズにおいて、MLAG
		機能と IGMP Snooping 機能の併用をサポートしました。またそれに
		伴い、MLAG インターフェースをルーターポートに指定するコマンド
		をサポートしました。
		• "ip igmp snooping mrouter interface mlag <mlagrange>"</mlagrange>
8.21.01	AEOS-82101-RC017	MLAG 機能の MLAG インターフェース、及びブリッジポートにおいて、
0.04.04	4500 00404 B0050	ポート機能の"ignore"コマンド併用をサポートしました。
8.21.01	AEOS-82101-RC050	リンクアグリゲーション機能、MLAG 機能、BFS 機能において、LAG
		│ ロードバランシングアルゴリズム拡張を行ったことに伴い、以下コ │ マンドの出力結果に中継ポート選択アルゴリズムが表示されるよう
		マンドの山力紀来に中継が一下選択アルコリスムが表示されるよう     に仕様を変更しました。
		● "show link-aggregation"
		• "show bfs"
8.21.01	AEOS-82101-RC059	IGMP Snooping 機能と MLAG 機能との併用時において、"show ip igmp
	32101 110000	snooping mrouter", "show ip igmp interface", "show ip igmp
		groups"コマンドの表示結果に MLAG インターフェースの値が表示さ
		れるように仕様を変更しました。
8.21.01	AEOS-82101-RC091	インターフェース機能において、設定 VLAN 数が多い環境では、存在
		しない MLAG インターフェースを指定して"no interface mlag"コマ
		ンドを実行すると、CPU が高負荷になり入力エラーと判断するまで
		に時間がかかる問題を修正しました。
8.21.01	AEOS-82101-RC098	Apresia13100-48X-PSR、Apresia13200-48X-PSR の中継パス制限機能
		において、MLAG 機能との併用時、自装置にアサインポートが無い
		MLAG インターフェースに"forwarding"設定がある場合、"no
		forwarding enable"コマンドを実行しても設定されたポートへの中
		継が再開されない問題を修正しました。
8.21.01	AEOS-82101-RC127	BFS 機能と MLAG 機能との併用時において、装置を再起動した後に

Version	管理番号	内容
		MLAG 対向装置のブリッジポート経由の BFS 制御フレームが正しく出力されず、自装置の BFS サブリンクが Listening 状態のままになり、BFS リンク経由の通信が最大 20 秒間中継停止状態になることがある問題を修正しました。
8.21.01	AEOS-82101-RC128	MLAG 機能において、VLAN に IP アドレスをアサインした状態で MLAGペアの一方の装置を別装置に交換した際、未交換装置の FDB テーブルに交換前装置の MAC アドレスが static 登録されたままになり、交換後装置の MAC アドレスが未交換装置の FDB に static 登録されずに dynamic 登録となる問題を修正しました。本問題は、8.19.01 以降のバージョンで発生していたものです。本問題発生時、当該エントリーが Aging out 等で削除されると未交換装置を経由する交換後装置宛のインバンド通信ができなくなります。
8.21.01	AEOS-82101-RC129	MLAG 機能と FDB 機能の併用において、"mac-address-table static" コマンドで登録した MAC アドレスエントリーを no コマンドで削除した場合、以下の問題が発生していたものを修正しました。  • MLAG のブリッジポートで接続された対向装置で、自装置宛通信のために登録された static エントリー(削除された MAC エントリーと VLAN が一致するもののみ)が誤って削除される  • 対向装置を経由する自装置宛の通信が不可となる
		本問題は8.17.01 以降のバージョンで発生していたもので、発生条件は以下を全て満たす場合となります。
		【Virtual BoxCore 機能無効の場合】
		• MLAG が動作していること
		• インバンド通信を使用していること(任意のVLANに IPアドレスの割当てあり)
		• "mac-address-table static"コマンドで登録したエントリーの VLAN が、IP アドレスのアサインされている VLAN と一致している ものが存在すること
		【Virtual BoxCore 機能有効の場合】 • MLAG が動作していること
		• "mac-address-table static"コマンドで登録したエントリーの VLAN が、"vb id"コマンドで設定した VB 制御 VLAN と一致してい るものが存在すること
8.22.01	AEOS-82201-RC016	MLAG 機能において、以下のログをサポートしました。 • " <domain> protocol version was downgraded for compatibility." • "<domain> protocol version was reverted to default."</domain></domain>
8.22.01	AEOS-82201-RC025	MLAG 機能において、装置に設定可能な MLAG グループ数を 32 から 64 に拡張しました。
8.22.01	AEOS-82201-RC026	MLAG 装置起動時におけるポートのリンクアップを、以下の順になるように仕様を変更しました。

Version	管理番号	内容
		(1) ブリッジポート
		(2) MLAG 未設定ポート、MMRP-Plus のリングポートとなっている
		MLAG メンバーポート
		(3) MLAGメンバーポート(MLAG IDの若番から順にリンクアップさせ
		<b>ర</b> )
		上記のリンクアップ順は自装置や対向装置の状態によって若干
		前後することがあります。
		"linkup-delay"コマンドが設定されているポートは装置起動時に
		「MLAG 機能による抑制時間 + linkup-delay 機能による抑制時間」分
		リンクアップ抑制されます。
		また、本仕様変更を無効化する以下のコマンドをサポートしました。
		• "mlag linkup-delay disable"
8.22.01	AEOS-82201-RC027	リンクアップ抑制機能において、MLAG 機能が有効の場合に限り、装
		置起動から全てのポートの MLAG 機能によるリンクアップ抑制が解
		除されるまでの間は、任意のポートがリンクアップ後に再度リンク
		ダウンしても、本機能によるリンクアップ抑制が動作しないように
		仕様を変更しました。
8.22.01	AEOS-82201-RC028	Flush FDB 機能の"show flush-fdb rp-g"コマンドにおいて、MLAG
		機能と Virtual BoxCore 機能との併用時の表示を改善しました。
8.22.01	AEOS-82201-RC033	IGMP snooping 機能の"ip igmp snooping unregistered-filter"コ
		マンドにおいて、MLAG インターフェースが指定可能となりました。
8.22.01	AEOS-82201-RC040	保守/運用コマンド機能において、以下のコマンド実行時に取得でき
		る情報の見直しを行いました。障害発生等の際には機能毎のコマン
		ドと"show tech-support"コマンドの取得結果をサポート窓口に送
		付ください。
		• "show tech-support ospf"
		• "show ipv6 tech-support ospf"
		• "show tech-support rip"
		<ul><li> "show ipv6 tech-support ripng"</li><li> "show tech-support igmp"</li></ul>
		"show tech-support rgmp     "show ipv6 tech-support mld"
		"show tech-support minutes      "show tech-support pim-sm"
		"show tech-support froe"
		• "show tech-support mlag"
8.22.01	AEOS-82201-RC044	MLAG が動作している状態から MLAG 無効、かつスパニングツリー
		(STP/RSTP/MSTP/RPVST+)機能を使用するように設定を変更し再起動
		行う場合、以下の条件を満たしていると自動再起動中一時的にルー
		プが発生する問題を修正しました。
		• 装置がスパニングツリー(STP/RSTP/MSTP/RPVST+)のネットワーク
		構成に組み込まれている
		• 再起動後にポート役割が Alternate、または Backup のポートを有
		するようになる
8.22.01	AEOS-82201-RC065	Flush FDB 機能と MLAG 機能との併用時、"show flush-fdb rp-g"コ
		マンドの表示結果("Enable interface"部)が、MLAG インターフェー

Version	管理番号	内容
		スであっても"lag"と表示される問題を修正しました。
8.22.01	AEOS-82201-RC085	IGMP Snooping 機能とリンクアグリゲーション機能、MLAG 機能、BFS 機能のいずれかの機能との併用時、LAG、MLAG、BFS リンクメンバーポートにマルチキャストグループが登録されている状態でメンバーポートを設定追加した場合、追加したポートにおいてマルチキャストが中継されない問題を修正しました。
8.22.01	AEOS-82201-RC086	IGMP Snooping 機能とリンクアグリゲーション機能、MLAG 機能、BFS 機能のいずれかの機能との併用時、LAG、MLAG、BFS リンクインターフェースからマルチキャストが中継されている状態でメンバーポートからポートを削除すると、削除したポートに LAG、MLAG、BFS リンクインターフェースと同じ VLAN がアサインされていた場合、削除したポートにおいてマルチキャストが中継され続ける問題を修正しました。
8.22.01	AEOS-82201-RC099	BFS 機能と MLAG 機能との併用時、ブリッジポートと BFS サブリンクが同時にリンクアップする場合、通信が 1 秒程度ロスする問題を修正しました。
8.22.01	AEOS-82201-RC101	MLAG 機能と MMRP-Plus 機能(アウェア機能)の併用において、下記条件を満たした場合にMLAG装置が MMRP-Plus ハローフレームの中継を行わなくなりループが発生する問題を修正しました。  • MLAG 装置で MMRP-Plus アウェア機能を併用している  • MLAG を構成する装置のバージョンが 8.21.XX と 8.20.XX 以前との組み合わせ (この組み合わせはバージョンアップ作業時に一時的に発生します)  • MMRP-Plus アウェアポートに MLAG(片 MLAG)を指定している MMRP-Plus アウェアポートが両方とも非 MLAG(単一ポート)の場合、事象は発生しません。
8.22.01	AEOS-82201-RC102	MLAG 機能と Virtual BoxCore 機能(シングルリング構成)の併用において、下記条件を満たした場合にループが発生する問題を修正しました。  • MLAG 装置の 2 台が VB シングルリング構成のメンバー装置である  • MLAG を構成する装置のバージョンが 8.21.XX と 8.20.XX 以前との組み合わせ (この組み合わせはバージョンアップ作業時に一時的に発生します)  • VB ポートに MLAG(片 MLAG)を指定している VB ポートが両方とも非 MLAG(単一ポート)の場合、事象は発生しません。
8.22.01	AEOS-82201-RC103	Apresia13200-48X-PSR の MLAG 機能において、ブリッジポートの設定によっては、一部の SFP+ポートが通信不可になる問題を修正しました。  通信不可となるポートが発生するブリッジポートの設定(組み合わせ)は以下の通りです。

ブリッジポート番号の組み合わせ 1/49 1/51	通信不可となるポート番号 1/50
	1/50
1/51	1700
'' ~ '	1/52
1/49, 1/51	1/50, 1/52
1/49, 1/52	1/50
1/50, 1/51	1/52
1/49, 1/50, 1/51	1/52
1/49, 1/51, 1/52	1/50
上記以外の組み合わせ	無し
8.22.01   AEOS-82201-RC113   MLAG 機能において、MLAG インターフ:	ェースが多数設定されている状
態で装置が起動した場合、MLAG インタ	ターフェースの復旧時にフレー
ム中継のロス時間が長くなる問題を何	修正しました。
8.22.03   AEOS-82203-RC005   AEOS-82001-ER040 の記載【MLAG 機能	Eにおいて、MLAG インターフェ
ースが多数設定されている状態で装置	
ーフェースの復旧時にフレーム中継の	
ります。】に関して、8.22.01 以降で	
今回のリリースノートより記載削除し	
8.23.01 AEOS-82301-RC042 AccessDefender 機能の IEEE802.1X i	
場合にログが正しく出力されない問題	
● IEEE802.1X 認証が有効な MLAG イン	グラフェースのトダインに %
・ コーザー名に"%"が含まれる	
8.23.01 AEOS-82301-RC043 AccessDefender 機能の IEEE802.1X 記載	
場合に不正な再起動を起こす可能性が	
● IEEE802.1X 認証が有効な MLAG イン	
が含まれる	
• ユーザー名に"%"が含まれる	
8.23.01 AEOS-82301-RC045 MLAG 機能において、下記条件のいず	れかを満たした状態でブリッジ
ポートを復旧させた場合、通信ロス(	(1 秒未満)が発生する問題を修
正しました。	
• ブリッジポート全断状態で装置を	
・ ブリッジポート全断状態で MLAG ^	インターフェースの追加、削除
("[no] interface mlag")	
ブリッジポート全断状態で任	
("switchport access/trunk/mode"	,
8.23.01   AEOS-82301-RC046   MLAG 機能において、LACP 設定("mlag	
リンクダウンしているポートで MLAG 合、削除した MLAG ID と同一の MLAG	, ,
日、前原した WEAG TO と同一の WEAG	
8.23.01 AEOS-82301-RC047 MLAG 機能において、以下の条件をす	
除した MLAG ID と同一の MLAG ID をも	
エースへブリッジポート経由で転送	
1 フレームにつき 2 フレームに増える	

Version	管理番号	内容
		• "mlag mac-address-table-update enable"の設定がある
		• MLAG メンバーポートで LACP 設定("mlag ID lacp mode")されたポ
		ートがあり、かつそのポートがリンクダウンしている
		• そのポートに対して MLAG 設定を削除("no mlag")する
		本問題は8.22.XX のバージョンで発生していたものです。
8.23.02	AEOS-82302-RC005	Apresia13100/13200-48X シリーズの QoS 機能において、MLAG 機能と
		の併用時、"qos buffer-mode <mode>"コマンドで MODE 値を"0"以外</mode>
		の値に変更した際に、全てのポートに対して設定が反映されない(デ
		フォルトの MODE=0 で動作する)問題を修正しました。
		本問題は8.14.05 以降のバージョンで発生していたものです。
8.24.01	AEOS-82401-RC006	インターフェース機能において、以下操作を行った場合の CPU 処理
		負荷を低減させました。
		• 大量の VLAN がアサインされた LAG/MLAG インターフェースを削除
		する処理
		"no interface lag   mlag"
		• 大量の VLAN がアサインされた LAG/MLAG/BFS インターフェースか
		ら VLAN を削除する処理
		"switchport trunk remove"
8.24.01	AEOS-82401-RC082	AccessDefender 機能において、認証機能が有効な LAG インターフェ
		ース、MLAG インターフェースにポートを追加した場合、追加したポ
		ートで動的 VLAN、クラス ID が機能しない問題を修正しました。
8.24.01	AEOS-82401-RC092	Virtual BoxCore 機能と MLAG 機能との併用において、以下の問題が
		発生していたものを修正しました。
		• 条件(以下を全て満たすこと)
		(1) MLAG 装置対の片方が VB アクティブ装置、もう片方が VB メン
		バー装置として動作している
		(2) VB IP が設定されている
		• 問題
		VB メンバー装置が VB IP 宛のパケットを受信した際に、VB アクテ
		ィブ装置へ転送せずに破棄する
		本問題は8.23.02 で発生していたものです。
		VB メンバーの場合は、"vb ip address"コマンドを削除することで
		回避が可能です。
0.05.64	AF00 00504 50045	VB バックアップの場合の回避策はありません。
8.25.01	AEOS-82501-RC016	以下に示すコマンドにおいて、"*** dump information ***"、もし
		くは"*** system dump information ***"で始まるダンプ情報の表示
		が終了したことを示すメッセージを追加しました。
		• "*** end of dump information ***"
		"*** end of system dump information ***"     タフまテがたい場合にはないプ連起が全切れているので再度即復し
		終了表示がない場合にはダンプ情報が途切れているので再度取得し 
		てください。 
		  対象コマンドは以下の通りです。
		• "show tech-support"

Version	管理番号	内容
Version	管理番号	<ul> <li>"show tech-support ospf [ system-dump ]"</li> <li>"show ipv6 tech-support ospf [ system-dump ]"</li> <li>"show tech-support rip [ system-dump ]"</li> <li>"show ipv6 tech-support ripng [ system-dump ]"</li> <li>"show tech-support igmp [ system-dump ]"</li> <li>"show ipv6 tech-support mld [ system-dump ]"</li> <li>"show tech-support pim-sm [ system-dump ]"</li> <li>"show ipv6 tech-support pim-sm [ system-dump ]"</li> <li>"show tech-support fcoe [ system-dump ]"</li> <li>"show tech-support mmrp-plus [ system-dump ]"</li> <li>"show tech-support access-defender [ system-dump ]"</li> <li>"show tech-support bfs [ system-dump ]"</li> <li>"show tech-support link-aggregation [ system-dump ]"</li> <li>"show tech-support spanning-tree [ system-dump ]"</li> <li>"show tech-support packet-filter2 [ system-dump ]"</li> <li>"show tech-support icmp redirect [ system-dump ]"</li> </ul>
8.25.01	AEOS-82501-RC020	<ul> <li>"show tech-support vrrp [ system-dump ]"</li> <li>IGMP 機能において、"show ip igmp interface"コマンドのオプションとして、VLAN インターフェースに加えて以下の各インターフェースを指定することができるように仕様を変更しました。</li> <li>"port <portrange>"</portrange></li> <li>"lag <lagrange>"</lagrange></li> <li>"mlag <mlagrange>"</mlagrange></li> <li>"bfs-link <bfsrange>"</bfsrange></li> <li>"loopback"</li> </ul>
8.26.01	AEOS-82601-RC057	AccessDefender 機能において、DHCP Snooping 登録端末数が "max-client"コマンドで設定されるインターフェース毎の認証可能 設定数に達している状態から当該インターフェースに新規に DHCP snooping 端末を登録しようとする場合、以下に示す「インターフェースの最大認証数によるログイン不可」のログが出力されない問題を修正しました。  • "A-Def: dhcpsnooping: the number of terminals on port <portno> is full:"  • "A-Def: dhcpsnooping: the number of terminals on port <lagno> is full:"  • "A-Def: dhcpsnooping: the number of terminals on port MLAG <domain>/<mlag id=""> is full:"</mlag></domain></lagno></portno>
8.27.01	AEOS-82701-RC015	MLAG 機能において、MLAG 装置の状態が Normal 以外の場合、かつ MLAG インターフェースの全てのメンバーポートがダウンした場合に、当該 MLAG インターフェースで学習した FDB エントリーが削除されない問題を修正しました。
8.27.01	AEOS-82701-RC016	MLAG 機能において、対向装置の片 MLAG のメンバーポートが全てダウンした際、自装置がブリッジポート経由で学習した、対向装置の

Version	管理番号	内容	
		当該片MLAGで学習していたFDBエントリーが削除されない問題を修	
		正しました。	
8.28.01	AEOS-82801-RC001	SNMP 機能において、以下のコマンドをサポートしました。	
		• SFP の脱着及び障害発生時のトラップ送信抑止	
		"snmp-server traps sfp disable"	
		• 装置の重大障害発生時のトラップ送信抑止	
		"snmp-server traps system-error disable"	
		- LAG/MLAG の縮退、及び縮退からの復旧時のトラップ送信有効化	
		"snmp-server traps lag port-state enable"	
		- LAG/MLAG の全断、及び全断からの復旧時のトラップ送信有効化	
		"snmp-server traps lag if-state enable"	
8.28.01	AEOS-82801-RC007	MLAG 機能において、以下のログ/トラップをサポートしました。	
		<ul><li>MLAG の縮退</li></ul>	
		ログ: "Static MLAG <domain> / <mlag id=""> Port <portno> changed</portno></mlag></domain>	
		state to Down."	
		トラップ:"hcIAeosStaticMlagPortDown"	
		<ul><li>MLAG 縮退からの復旧</li></ul>	
		ログ: "Static MLAG <domain> / <mlag id=""> Port <portno> changed</portno></mlag></domain>	
		state to Up."	
		トラップ:"hcIAeosStaticMlagPortUp"	
		MLAG の全断	
		ログ: "Static MLAG <domain> / <mlag id=""> goes Down."</mlag></domain>	
		トラップ: "hclAeosStaticMlagInterfaceStatusDown"	
		<ul><li>MLAG 全断からの復旧</li></ul>	
		ログ: "Static MLAG <domain> / <mlag id=""> goes Up."</mlag></domain>	
		トラップ: "hclAeosStaticMlagInterfaceStatusUp"	
8.28.01	AEOS-82801-RC016	MLAG 機能において、"show mlag"コマンド、"show mlag	
0.20.01	71200 02001 110010	configuration"コマンドの出力結果に"mac-address-table-sync"行	
		の追加を行いました。	
		めたがとういること。   本仕様変更は、今後予定されている MLAG 機能の機能拡張後にユーザ	
		一の設定内容を表示するものです。	
8.28.01	AEOS-82801-RC038	AccessDefender 機能と MMRP-Plus 機能、MLAG 機能との併用時におい	
0.20.01	7,200 02001-1,0000	て、MLAG機能有効時における認証ポートと MMRP-Plus のリングポー	
		トの設定禁則エラーメッセージの見直しを行いました。	
8.28.01	AEOS-82801-RC049	メモリーエラー自動復旧機能において、以下の機能によって登録さ	
0.20.01	7,200 02001-110049	ハヒッーエッー自動を自機能にあれて、以下の機能によって登録されたスタティック FDB エントリーにメモリーエラーが発生した際、	
		10にスプティックトのエントリーにスピリーエンーが発生した際、   このメモリーエラーを自動復旧できない問題を修正しました。本問	
		超発生時には"clear memory-error"コマンドでもエラーを復旧でき	
		選先主時には Creat memory-error コマンド Cもエンーを復旧でき   ませんでしたが、同様に修正しました。	
		● MLAG 機能によって登録されたスタティック FDB エントリー	
		- MLAG 機能によりで豆鋏されたスタティック FDB エントリー - FCoE Forwarder 機能によって登録されたスタティック FDB エント	
		Floor Forwarder 機能によりし豆琢されたスタティック FDB エント	
0 20 04	AEOS 93904 DO054		
8.28.01	AEOS-82801-RC054	パケットフィルター2 機能と MLAG 機能の併用において、"mlag	
		mac-address-table-update enable"の設定がある場合に以下いずれ	

Version	管理番号	内容
		かの手順を行うと、後から設定した帯域割り当て方法が設定できな
		くなる問題を修正しました。
		• " <group> policing <index>"コマンドの設定を行った後にこの設</index></group>
		定を削除し、" <group> <rule> action policing"コマンドの設定</rule></group>
		を行う
		• " <group> <rule> action policing"コマンドの設定を行った後に</rule></group>
		この設定を削除し、" <group> policing <index>"コマンドの設定を行う</index></group>
8.28.01	AEOS-82801-RC080	MLAG 機能と LACP 機能の併用において、以下の操作を行った際に
		LACPDU の送信が遅延する問題を修正しました。
		• FDB に多数エントリーがある状態で"show mac-address-table"コマンド実行
		• 物理インターフェース、もしくは MLAG インターフェースに対し
		て、一度に多数の VLAN を"switchport trunk add/remove"コマン ドで設定/削除
		・ 物理インターフェース、もしくは MLAG インターフェースに多数の
		VLAN が設定されている状態から、"switchport mode access"コマ
		ンド、もしくは"no switchport mode"コマンドの実行
		MLAG インターフェースに多数の VLAN が設定されている状態から、
		当該 MLAG インターフェースを"no interface mlag"コマンドで削
		除
		• 装置に多数の VLAN が設定されている状態で、"[ no ] mirroring to
		port"の設定
		   FDB のエントリー数、VLAN の設定数が多いほど、遅延量も増加しま
		す。
		本問題修正前のバージョンでは、"lacp timeout short"コマンド併
		用時には対向装置側で LACPDU の受信タイムアウトが発生すること
		があります。
8.28.01	AEOS-82801-RC081	MLAG 機能と LACP 機能の併用において、"show lacp port"コマンド
		で表示される"LAG ID"に誤った値を表示してしまう問題を修正しま
		した。
		表示上の問題であり、動作には影響ありません。
8.29.01	AEOS-82901-RC004	MLAG 機能において、MAC アドレス同期機能をサポートしました。本
		機能は MLAG 対向装置との FDB 同期処理、及び FDB エージング処理を
		ソフトウェアが行います。
		本機能は以下コマンドを設定することで有効になります。
		"mlag mac-address-table-sync enable"
		本機能有効時、装置は以下のように動作します。
		• "mac-address-table aging-time"コマンドの設定変更ができない
		"mac-address-table aging-time"コマンドの設定値が"299"以
		下の場合、本機能は有効にできません。あらかじめ"300"以上
		の値を設定してください。

Version	管理番号		内容	
		• FDB 登録件数の増加に	子伴い CPU 使用率が高く	なる
8.29.01	AEOS-82901-RC005	MLAG 機能において、MAC	アドレス同期機能の記	<b>设定有無を示す以下の</b>
		MIB をサポートしました	- -0	
		• "hclAeosMlagConfigM	acAddressTableSyncEn	able"
8.29.01	AEOS-82901-RC014	MLAG 機能において、"MLAG の全断"ログ/トラップの出力処理を以下		
		のように変更しました。		
		• MLAG の全断		
		ログ:"Static MLAG	<domain> / <mlag id=""></mlag></domain>	goes Down."
		トラップ:"hcIAeosS	taticMlagInterfaceSt	atusDown"
			亦再於	亦事後
			変更前	変更後
			first 装置/second	
		│ ェースの最後の1ポー │ トがリンクダウンし		ンしたポートを持 つ装置からのみロ
		ドかりフラタリンし     た場合	グバトンツン山川	グ/トラップ出力
			first 装置/second	
		B   MLAO イフクーク     ェースの全てのポー		みログ/トラップ
		ェースの主じのホ    トが同時にリンクダ		出力
		- 7	7/1 J J J II/J	Щ/3
8.29.01	AEOS-82901-RC015	MLAG 機能において、"ML		 ログ/トラップの出力
	7.200 02001 110010	処理を以下のように変更		
		• MLAG の全断からの復		
			<pre><domain> / <mlag id=""></mlag></domain></pre>	goes Up."
		トラップ:"hclAeosS	taticMlagInterfaceSt	atusUp"
				1
			変更前	変更後
		同一 MLAG インターフ		(同左)
		ェースの全てのポー		
		トがリンクダウンし		
		た状態から、どちらか	カ	
		片方の装置のメンバ		
		ーポートがリンクア		
		ップした場合	#1-112.55	( )
		同一 MLAG インターフ	先にリンクアップし	
		ェースの全てのポー		
		トがリンクダウンし た状態から、両方の装		
		置のメンバーポート	•	
		Bのメンハーホード     が同時にリンクアッ		
		プした場合	ることもある)	
8.30.01	AEOS-83001-RC003	MLAG 機能と MLD Snoopi	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
3.00.01	7.200 00001 10000	伴い、以下のコマンドに	· ·	
		になりました。	COURT OF TO	
		• "ipv6 mld snooping	mrouter interface ml	ag <mlagrange>"</mlagrange>
L	l .	i ipio mia onooping	34.0. 111.071400 1111	-5

Version	管理番号	内容
		• "ipv6 mld snooping unregistered-filter <mlagrange>"</mlagrange>
		• "show ipv6 mld interface mlag <mlagrange>"</mlagrange>
		本機能併用時には、以下機能との併用は未サポートです。
		• "mac-address-table learning disable"コマンド
		• Egress フィルタリング機能
		● MMRP-Plus 機能
		• AccessDefender 機能
		• BFS 機能
8.30.01	AEOS-83001-RC006	MLD Snooping 機能と MLAG 機能との併用時において、以下コマンド
		の表示結果に MLAG インターフェースの値が表示されるように仕様
		を変更しました。
		<ul><li> "show ipv6 mld snooping mrouter"</li><li> "show ipv6 mld interface"</li></ul>
		"show ipv6 mld groups"
8.32.01	AEOS-83201-RC004	Apresia15000 シリーズの MLAG 機能において、フレームの出力先が
0.02.01	ALOG GOZOT ROGOT	MLAG インターフェースの場合に、MLAG の装置を跨いだ分散を有効に
		するコマンドをサポートしました。
		• "mlag forwarding-mode all-member-port [include-nonucast]"
		以下の機能、コマンドとの併用は未サポートです。
		• MLAG 機能の"mlag mac-address-table-update enable"コマンド
		● BFS 機能
		• AccessDefender 機能
		• IGMP Snooping 機能
		• MLD Snooping 機能
8.32.01	AEOS-83201-RC005	MLAG 機能において、MLAG 装置の状態遷移による装置全体の FDB フラ
		ッシュを抑止するコマンドをサポートしました。
		• "mlag fault-action fdb-flush disable"
		対象となる MLAG 装置状態遷移を以下に示します。
		Normal から Abnormal
		• Normal から Unreach
		• Abnormal から Normal
		・ Unreach から Normal
		ただし、本コマンドにより FDB フラッシュを抑止した場合において
		も、以下のエントリーはフラッシュされます。
		自装置のブリッジポートに登録された FDB エントリーの内、対向
		MLAG 装置にのみメンバーポートが設定されている片 MLAG インター
		フェースに登録された FDB エントリー
8.32.01	AEOS-83201-RC006	MLAG 機能において、以下の MIB をサポートしました。
		• "mlag fault-action fdb-flush disable"コマンドの設定有無を示
		す MIB

Version	管理番号	内容
		"hclAeosMlagConfigFaultActionFdbFlush"
		<ul> <li>MLAG の装置跨ぎ分散機能に関する MIB         "hclAeosMlagInterfaceConfigEntry"         "hclAeosMlagInterfaceConfigIndex"         "hclAeosMlagInterfaceConfigChassisIndex"         "hclAeosMlagInterfaceConfigForwardingMode"     </li> </ul>
8.32.01	AEOS-83201-RC007	MLAG 機能において、以下のログ/トラップをサポートしました。  • MLAG ブリッジポートの縮退 ログ: " <domain> bridge-port <portno> changed state to Down." トラップ: "hcIAeosMIagBridgePortDown"</portno></domain>
		• MLAG ブリッジポート縮退からの復旧 ログ:" <domain> bridge-port <portno> changed state to Up." トラップ:"hcIAeosMIagBridgePortUp"</portno></domain>
		<ul> <li>MLAG ブリッジポートの全断 ログ: "<domain> all bridge-ports go Down." トラップ: "hclAeosMlagAllBridgePortsDown"</domain></li> <li>MLAG ブリッジポートの全ポート復旧</li> </ul>
		ログ:" <domain> all bridge-ports go Up." トラップ:"hclAeosMlagAllBridgePortsUp"</domain>
8.32.01	AEOS-83201-RC020	MLAG 機能において、宛先学習済みユニキャストフレームの入出力インターフェースが以下の条件を全て満たす場合、出力先の MLAG インターフェースが縮退した際に最大 1 秒程度の通信断が発生することがある問題を修正しました。
		<ul><li>・ 入力インターフェース:ブリッジポート</li><li>・ 出力インターフェース:自装置の MLAG インターフェース</li></ul>

# 11. 注意事項/制限事項

## 11.1 併用可能機能

MLAG 併用可能機能を表 11-1 に示します。インターフェース種別(物理ポート、MLAG インターフェース、ブリッジポート)により併用可能機能が異なります。

表 11-1 併用可能機能

機能	インターフェース			
併用パターン	物理ポート	MLAG インターフェース	ブリッジポート	
併用機能				
LOGIN				
ログイン認証(RADIUS)			-	
ログイン認証(TACACS+)			-	
ホスト名				
ログインメッセージ				
ターミナル設定				
L3 ライセンス	-	-	-	
BFS ライセンス	-	-	-	
FCoE ライセンス	-	-	-	
構成情報				
Default disable				
メモリーカード				
ブートスクリプト				
再起動				
ファームウェアの管理			-	
NTP			-	
時刻、タイムゾーン				
TELNET			-	
SSH			-	
ロギング			-	
SNMP			1	
sFlow		-	-	
ポートミラーリング			-	
CPU 使用率通知				
メモリー使用容量通知				
保守/運用コマンド			-	
フレーム転送方式	-	-	-	
インターフェース			-	
ポート			2	
リンクアップ抑制			-	
リンクダウン連携			3	
リンクアグリゲーション	-	-	-	

機能	インターフェース			
併用パターン	物理ポート	MLAG インターフェース	ブリッジポート	
併用機能				
ポートリダンダント	-	-	-	
VLAN				
Forwarding Data Base(FDB)			-	
予約フレーム透過制御				
LLDP			-	
MTU				
中継パス制限			-	
ポートブリッジ		-	-	
ユーザーループ検知			-	
マルチキャストフィルタリング	-	-	-	
フラッディング制限			-	
フラッディング制御			-	
Egress フィルタリング			-	
Egress シェーピング			-	
パケットフィルター2			-	
QoS			4	
Flush FDB(rp-e)	-	-	-	
Flush FDB(rp-g)		5	-	
スパニングツリープロトコル	-	-	-	
(STP/RSTP/MSTP/RPVST+)				
BPDU 転送制限	1	-	-	
MMRP-Plus	6	7	-	
IP アドレス			-	
IPルート情報	1	-	-	
ARP テーブル	-	-	-	
Proxy ARP	-	-	-	
IPv6	-	-	-	
IPv6 ルート情報	-	-	-	
IPv6 NDP	-	-	-	
IP フォワーディング	-	-	-	
IPv6 フォワーディング	-	-	-	
ICMP リダイレクト	-	-	-	
ICMPv6 リダイレクト	-	-	-	
IPブロードキャストルーティング	-	-	-	
アクセスリスト	-	-	-	
プレフィックスリスト	-	-	-	
OSPF	-	-	-	
0SPFv3	-	-	-	
RIP	-	-	-	

機能	インターフェース			
併用パターン	物理ポート	MLAG インターフェース	ブリッジポート	
併用機能				
RIP認証	-	-	-	
RIPng	-	-	-	
等コストマルチパス(ECMP)	-	-	-	
ルートマップ	-	-	-	
ポリシーベースルーティング	-	-	-	
VRRP	-	-	-	
VRRP IPv6	-	-	-	
DHCP サーバー	-	-	-	
DHCPv6 サーバー	-	-	-	
DHCPリレー	-	-	-	
DHCPv6 リレー	-	-	-	
IGMP Snooping	8、 9	8、 9	-	
MLD Snooping			-	
IGMP	-	-	-	
MLD	-	-	-	
PIM-SM	-	-	-	
PIM-SMv6	-	-	-	
SSL 機能		-	-	
AccessDefender	10	11	-	
IEEE802.1X		12	-	
BFS	13	-	-	
PFC			-	
ETS			-	
DCBX			-	
FCoE Forwarder	-	-	-	
Virtual BoxCore	14	15	16	
(シングルリング構成)				
Virtual BoxCore			16	
(非シングルリング構成)				
PoE	-	-	-	

: 併用可能 - : 併用不可

1 : ブリッジポートに対するカウンターの MIB 取得は不可

2: ignore のみ併用可

3 : track-port にのみ指定可能

4 : qos enable, qos mapping のみ併用可能

5 : 片側 MLAG 装置にメンバーポートを設定した MLAG のみ併用可能

6:分散マスター/分散スレーブ構成、またはアウェア(2台)構成の場合のみ装置併用可能

7: 6、かつ片側 MLAG 装置にメンバーポートを設定した MLAG のみリングポートとして併用可

8 : ip igmp snooping querier のみ併用不可

- 9 : Apresia13200-48X/15000 シリーズのみ併用可能
- 10: DHCP Snooping のみ併用不可
- 11: MAC 認証のみ併用可能。ただし、片側 MLAG 装置にメンバーポートを設定した MLAG のみ MAC 認証、Web 認証、802.1X 認証が併用可能
- 12:片側 MLAG 装置にメンバーポートを設定した MLAG のみ併用可能
- 13:ポートスイッチのみ併用可能
- 14: VB マスター/VB バックアップ構成、または VB メンバー(2台)構成の場合のみ装置併用可能
- 15: 14、かつ片側 MLAG 装置にメンバーポートを設定した MLAG のみ VB ポートとして併用可能
- 16: ブリッジポートを VB ポートとして使用する場合は、vb id コマンド、または vb add コマンド で全てのブリッジポートを VB ポートに追加することで併用可能
- MLAG 装置では interface lag を使用できません。

## 11.2 運用上の注意事項

• 送信ポートの選択アルゴリズム

MLAG インターフェースにおける送信ポートの選択アルゴリズムは algorithm-base コマンドで設定したアルゴリズムです。MLAG 装置間の連携は取りません。装置毎の設定で動作します。

## • 装置発フレームの送信ポート

装置発のフレームを MLAG インターフェースから送信する場合、リンクアップしている MLAG メンバーポートの最若番ポートから送信されます。

自装置の MLAG インターフェースがリンクダウンしている場合は、リンクアップしているブリッジポートの最若番ポートから対向 MLAG 装置へ送信され、対向 MLAG 装置のリンクアップしている MLAG メンバーポートの最若番ポートから送信されます。

#### • IP 通信

MLAG 構成装置への IP 通信は、first/second 装置毎に個別で行われます。

- IP アドレス:装置毎に異なる必要がある
- 装置管理に伴う IP 通信(TELENT、SSH、TFTP、MIB等):装置毎に個別に行う必要がある
- syslog、トラップの送出:装置毎に独立して行う
- ARP テーブル:装置毎に独自に管理している
- FDB スタティックエントリーの登録(mac-address-table static)

FDBに MLAG インターフェース指定のスタティックエントリーを登録する場合は、同一ドメインをもつ MLAG の first/second 装置の両方に登録してください。

• FDB エントリーの消去(clear mac-address-table)

clear mac-address-table dynamic コマンドで、全ての MAC アドレスを消去した場合、対向装置の MAC アドレスも全て消去されます。MLAG、VLAN 毎に消去した場合は対向装置との連携はせず、コマンドを投入した装置のみ消去されます。

MLAG 使用時に、ポート毎の消去は行わないでください。

#### • ミニマムリンク機能

MLAG インターフェースへのミニマムリンク機能の設定は、MLAG 装置間の連携を取りません。装置毎の設定で動作します。

#### • ポートミラーリング

ミラー元ポート(Fromポート)にMLAGインターフェースを指定したポートミラーリングの設定は、MLAG 装置間の連携を取りません。装置毎の設定で動作します。

## • 中継パス制限

MLAG インターフェースへの中継パス制限の設定は、MLAG 装置間の連携を取りません。装置毎の設定で動作します。

ブリッジポートに対する中継を制限すると、当該ポートで受信したフレームを対向装置の FDB で学習できず、ブリッジポート経由のユニキャスト通信に影響を及ぼす場合があります。MLAG 動作中の本機能使用時は、意図した場合を除き、ブリッジポートを中継可能ポートに設定することを推奨します。ただし、MAC アドレス更新機能(7.2 参照)が有効であれば、ブリッジポートに対する中継が制限されていて

もコピーフレームが送信され、対向装置で FDB の学習が行われます。

MLAG インターフェースを中継可能ポートに指定する場合は、当該 MLAG の全メンバーポートを設定してください。

ブリッジポートを中継可能ポートに指定する場合は、当該 MLAG の全メンバーポートを設定してください。

## • ユーザーループ検知

MLAG インターフェースへのユーザーループ検知の設定は、MLAG 装置間の連携を取りません。装置毎の設定で動作します。

### • AccessDefender

first 装置と second 装置で認証結果の同期は行われません。

ローカル DB は first 装置と second 装置で一致させるようにしてください。RADIUS サーバーを使用する場合、first 装置と second 装置で同一のサーバーを参照する等、同一の認証データを使用するようにしてください。

AEOS Ver. 8 アプリケーションノート (MLAG 編)

Copyright(c) 2012 APRESIA Systems, Ltd.
2012年3月初版
2018年4月第5版

APRESIA Systems 株式会社 東京都中央区築地二丁目 3 番 4 号 築地第一長岡ビル

http://www.apresiasystems.co.jp/